田野町文化財調査報告書第47集

鹿村野地区遺跡

県営畑地帯総合整備事業鹿村野地区

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

県宮崎郡田野町教育委員会

田野町文化財調査報告書　第47集　鹿村野地区遺跡　正誤表

文章・図面

頁	行	誤	正
1	24	田野町文化財調査報告書第42集	田野町文化財調査報告書第43集
17	3	(第14図16・17)	(第13図16・17)
138	1	第5節　まとめ	第5節　小結
194	SI-36	987.200m	97.200m
220	右下	23…SI-12内	23…SI-30内
236	2	(第40～46)図　187～436・457	(第40～46図　187～436・457)
253	9	(第47図465～484)	(第47～50図465～484)
253	30	(第50図485～488)	(第50・51図485～488)
253	34	(第51図214)	(第51図489)
260	4	(第51・52図492～505)	(第52・53図492～505)
抄録	シリーズ番号	第44集	第47集
抄録	調査期間	1997,1,16～3,16	1998,1,19～3,19

表

頁	項目	訂　正　箇　所
101～104	図面番号	番号に1を足してください。
121・122	図面番号	番号に1を足してください。
224	出土遺構	SP-86、SX-88(2点とも)に1を足してください。
275	番号	263以後の番号は、全て275を足してください。

序

田野町は、宮崎市の西方約20kmにあります。鹿村野地区では、平成9年度から県営畑地帯総合整備事業が実施されることになりました。そこで、事業の施工によって現状保存が困難な部分を記録によって保存するための発掘調査を行いました。

調査は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業と国庫補助事業により平成9年度から12年度にかけて行いました。調査した遺跡はズクノ山第2遺跡、前ノ原第2遺跡、ズクノ山第1遺跡であります。

調査の結果、縄文時代の早期から晩期そして弥生時代までの遺構や遺物が多数検出されました。その主なものとして、縄文早期の石組みを行った調理施設多数、弥生時代の土製の勾玉（まがたま）、石器群、南九州的な住居跡が多数出土して、集落全体の様相が明らかになったものなどの、貴重な遺構や遺物であります。その他には、多数の土器片や石器類が出土しています。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や社会教育の場で広く活用され、埋蔵文化財の保護と理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この発掘調査にあたって御指導いただいた県教育委員会文化課並びに調査についてのご理解、ご協力をいただいた地元の方々や関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

田野町教育委員会
教育長　西田　英介

例　　言

1・本書は、平成 9 年度から実施された県営畑地帯総合整備事業鹿村野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、平成 10 年度に実施された前ノ原第 2 遺跡、ズクノ山第 1 遺跡、ズクノ山第 2 遺跡Ｅ地区における調査結果を報告するものである。

2・本遺跡の現地調査及び室内調査は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業と文化庁の国庫補助金を得て、田野町教育委員会が実施した。調査体制は以下の通りである。

調査主体　田野町教育委員会

（平成 10 年度）	教育長		鍋倉　政信（４～９月）
			堀内　侃　（10～３月）
	社会教育課長		田原　信行
	社会教育課長補佐兼係長		川口　博文
	埋蔵文化財担当	同主査	森田　浩史（前ノ原第２遺跡）
		同主任主事	金丸　武司（ズクノ山第２遺跡Ｅ地区）
（平成 12 年度）	教育長		堀内　侃
	社会教育課長		永谷　弘
	社会教育課長補佐		川越　修治
	社会教育係長		有村　勝弘（４～６月）
			後藤　敏典（６～３月）
	埋蔵文化財担当	同主査	森田　浩史（調査担当）
		同主事	金丸　武司
		同調査員	田鍬　美紀
（平成 14 年度）	教育長		西田　英介
	教育次長兼・社会教育課長		新坂　政光
	社会教育課長補佐		川越　修治
	社会教育係長		後藤　敏典
	埋蔵文化財担当	同主査	森田　浩史
		同主任	金丸　武司
		同調査員	吉住さと子

3・現地の作業員として、田野町内の方から多数の参加をいただいた。

4・室内調査の実施にあたり、下記の方々の協力を得た。

[redacted]

5・現地における遺構図は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム及び町内の作業員が行

った。

6・本書の執筆及び編集は、森田と金丸が分担して行った。

7・現地の写真撮影は、ズクノ山第１遺跡、前ノ原第２遺跡を森田が、ズクノ山第２遺跡Ａ～Ｅ地区を金丸が行った。

8・遺物の実測及びトレースは、田鍬・吉住及び室内整理作業員が行った。

9・遺物の写真撮影は吉住が行った。

10・写真図版・観察表の作成は森田、吉住及び室内整理作業員が行った。

11・ズクノ山第２遺跡 E 地区における土坑の覆土は、株式会社古環境研究所に自然化学分析を委託した。

12・本書で用いた方位は磁北、標高は海抜絶対高である。

13・本書の色調表示は、農水省農林水産技術会事務局監修の『標準土色帳』を参考にした。

14・本書で用いた遺構略号は以下の通りである。

竪穴住居：SA、掘立柱建物：SB、集石遺構：SI、土坑：SC、ピット：SP、

配石遺構：SX

＊なお、集石遺構よりも範囲が広く、掘込みを伴わない礫の広がりは、「礫群」とした。

15・調査にあたっては、以下の方々にご指導・ご協力を賜った（五十音順・敬称略）。

秋成雅博、天池　学、石川悦雄、井田篤、伊東但、伊藤雅乃、今田秀樹、黒川忠広、桒畑光博

佐藤好司、日高広人、藤木　聡、馬籠亮道、八木澤一郎、山下　実、山田鉄哉

16・本遺跡における縄文時代早期の時期は、土器型式上で前平式～石坂式を前葉、下剥峯～桑ノ丸式を中葉、妙見・天道ヶ尾式～塞ノ神式を後葉、鎌石橋式～轟Ｉ式を末葉とする。それぞれの型式の認定基準は、以下の文献に準じた。

南九州縄文研究会　2002「南九州貝殻文系土器」Ｉ～鹿児島県～『南九州縄文集成』１

高橋信武　1998「縄文早期後葉の九州」『九州縄文土器編年の諸問題』九州縄文研究会

吉本正典　1998「妙見式土器の検討」『同上』

17・出土遺物や、図面等の記録類は、田野町教育委員会で保管している。

目　　次

本文目次

第Ⅰ章　序説…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　遺跡の位置と歴史的環境…… 1

第Ⅱ章　前ノ原第2遺跡
　第１節　調査の概要…… 5
　第２節　層序…… 5
　第３節　検出遺構…… 5
　　Ⅰ・ピット…… 5
　　Ⅱ・集石遺構…… 15
　第４節　出土遺物…… 15
　　Ⅰ・土器…… 15
　　Ⅱ・石器…… 23
　第５節　小結…… 35

第Ⅲ章　ズクノ山第1遺跡
　第１節　調査の概要…… 53
　第２節　縄文時代早期の遺構と遺物…… 53
　第３節　弥生時代の遺構と遺物…… 68
　第４節　その他の遺構…… 74
　第５節　小結…… 138

第Ⅳ章　ズクノ山第2遺跡Ａ，Ｂ，Ｃ地区
　第１節　調査の概要…… 173
　第２節　層序…… 173
　第３節　各地区の調査結果…… 175
　第４節　出土遺物…… 179
　第５節　小結…… 179

第Ⅴ章　ズクノ山第2遺跡Ｅ地区
　第１節　調査の概要…… 185
　第２節　層序…… 185
　第３節　検出遺構…… 187

Ⅰ・礫群…… 187
Ⅱ・集石遺構…… 202
Ⅲ・土坑…… 203
Ⅳ・ピット…… 204
Ⅴ・配石遺構…… 204
第４節　出土遺物…… 209
Ⅰ・遺構内出土遺物…… 209
Ⅱ・包含層出土土器…… 209
Ⅲ・石器…… 236
第５節　小結…… 268

第Ⅵ章　まとめ　～縄文時代早期を中心として～…… 338

図版目次

第Ⅰ章　序説
第１図　鹿村野地区周辺遺跡分布図 …… 3
第２図　鹿村野地区遺跡分布図 …… 3
第Ⅶ章　前ノ原第２遺跡
第１図　前ノ原第2遺跡周辺地形図 …… 6
第２図　前ノ原第２遺跡土層断面図 …… 6
第３図　ピット群平面分布図 …… 7
第４図　ピット実測図 …… 7
第５図　焼礫及び風倒木痕平面分布図 …… 8
第６図　集石遺構平面分布図 …… 9
第７図　集石遺構実測図(１) …… 10
第８図　集石遺構実測図(２) …… 11
第９図　集石遺構実測図(３) …… 12
第10図　集石遺構実測図(４) …… 13
第11図　集石遺構実測図(５) …… 14
第12図　集石遺構実測図(６) …… 15
第13図　出土土器実測図(１) …… 16
第14図　出土土器実測図(２) …… 18
第15図　出土土器実測図(３) …… 19
第16図　出土土器実測図(４) …… 21
第17図　出土土器実測図(５) …… 22
第18図　出土土器実測図(６) …… 24
第19図　出土石器実測図(１) …… 32
第20図　出土石器実測図(２) …… 34
第21図　出土石器実測図(３) …… 35
第22図　出土土器平面分布図(Ⅰ類) …… 36
第23図　出土土器平面分布図(Ⅱ類) …… 37
第24図　出土土器平面分布図(Ⅲ～Ⅴ類) … 38
第25図　出土土器平面分布図(Ⅵ類) …… 39
第26図　出土土器平面分布図(Ⅶ～Ⅸ類) … 40
第Ⅲ章　ズクノ山第1遺跡
第１図　集石遺構分布図…… 54
第２図　集石遺構実測図(SⅠ-01・02) …… 55
第３図　集石遺構実測図(SⅠ-03・04) …… 56
第４図　集石遺構実測図(SⅠ-05・06) …… 57
第５図　集石遺構実測図(SⅠ-07)…… 58
第６図　集石遺構実測図(SⅠ-08・09) …… 59
第７図　集石遺構実測図(SⅠ-10・11) …… 60
第８図　集石遺構実測図(SⅠ-12・13) …… 61
第９図　集石遺構実測図(SⅠ-14・15) …… 62
第10図　包含層出土遺物実測図(土器) …… 64
第11図　包含層出土遺物実測図(石器) …… 66
第12図　包含層出土遺物実測図(石器) …… 67
第13図　弥生時代遺構分布図…… 75

第14図　弥生時代遺構検出面地形図…… 76
第15図　竪穴住居実測図(SA-01・02) …… 78
第16図　竪穴住居実測図(SA-03・05) …… 79
第17図　竪穴住居実測図(SA-04・06) …… 80
第18図　竪穴住居実測図(SA-07・08) …… 81
第19図　竪穴住居実測図(SA-09) …… 82
第20図　竪穴住居実測図(SA-10) …… 83
第21図　竪穴住居実測図(SA-11・12) …… 84
第22図　竪穴住居実測図(SA-13・14) …… 85
第23図　竪穴住居実測図(SA-18・20) …… 86
第24図　竪穴住居実測図(SA-16) …… 87
第25図　竪穴住居実測図(SA-15・17) …… 89
第26図　竪穴住居実測図(SA-21~24) …… 91
第27図　竪穴住居実測図(SA-19) …… 93
第28図　竪穴住居実測図(SA-25・26) …… 94
第29図　竪穴住居実測図(SA-27・28) …… 95
第30図　竪穴住居実測図(SA-29・30) …… 96
第31図　竪穴住居実測図(SA-31・32・34)… 97
第32図　竪穴住居実測図(SA-33) …… 98
第33図　掘立柱建物実測図（SB-01・02)… 99
第34図　掘立柱建物実測図（SB-03) …… 100
第35図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 106
第36図　竪穴住内出土遺物実測図(土器)… 107
第37図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 108
第38図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 109
第39図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 110
第40図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 111
第41図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 112
第42図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 113
第43図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 114
第44図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 115
第45図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 116
第46図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 117
第47図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 118
第48図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 119
第49図　竪穴住居出土遺物実測図(土器)… 120
第50図　竪穴住居出土遺物実測図(石器) …123
第51図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 124
第52図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 125
第53図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 126
第54図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 127
第55図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 128
第56図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 129
第57図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 130
第58図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 131
第59図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 132
第60図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 133
第61図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 134
第62図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 135
第63図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 136
第64図　竪穴住居出土遺物実測図(石器)… 137
第Ⅳ章　ズクノ山第２遺跡Ａ，Ｂ，Ｃ地区
第１図　ズクノ山第2遺跡A～C地区
周辺地形図 …… 174
第２図　土層柱状模式図 …… 174
第３図　A区遺構分布図 …… 176
第４図　A区コンタ図 …… 176
第５図　A区土層断面図 …… 176
第６図　B区遺構分布図 …… 177
第７図　B区コンタ図 …… 177
第８図　B区土層断面図 …… 177
第９図　C区遺構分布図 …… 178
第10図　C区コンタ図 …… 178
第11図　C区土層断面図 …… 178
第12図　出土遺物実測図 …… 180
第Ⅴ章　ズクノ山第２遺跡E地区
第１図　ズクノ山第2遺跡E地区
周辺地形図 …… 186
第２図　ズクノ山第2遺跡E地区
土層断面図 …… 186
第３図　遺構配置図 …… 188
第４図　集石遺構実測図(１)…… 189

第５図　集石遺構実測図(２)…… 190
第６図　集石遺構実測図(３)…… 191
第７図　集石遺構実測図(４)…… 192
第８図　集石遺構実測図(５)…… 193
第９図　集石遺構実測図(６)…… 194
第10図　集石遺構実測図(７)…… 195
第11図　集石遺構実測図(８)…… 196
第12図　集石遺構実測図(９)…… 197
第13図　集石遺構実測図(10)…… 198
第14図　集石遺構実測図(11)…… 199
第15図　集石遺構実測図(12)…… 200
第16図　集石遺構実測図(13)…… 201
第17図　集石遺構実測図(14)…… 202
第18図　土坑列実測図……204
第19図　土坑実測図(１)……205
第20図　土坑(２)・ピット実測図(１)……206
第21図　配石遺構実測図(１)……208
第22図　配石遺構実測図(２)……209
第23図　遺構内出土遺物実測図(１)……220
第24図　遺構内出土遺物実測図(２)……221
第25図　遺構内出土遺物実測図(３)……222
第26図　出土土器実測図(１)……225
第27図　出土土器実測図(２)……226
第28図　出土土器実測図(３)……229
第29図　出土土器実測図(４)……230
第30図　出土土器実測図(５)……231
第31図　出土土器実測図(６)……232
第32図　出土土器実測図(７)……234
第33図　出土土器実測図(８)……235
第34図　出土土器平面分布図(Ⅰ類)……244
第35図　出土土器平面分布図(Ⅱ～Ⅳ類)… 244
第36図　出土土器平面分布図(ⅤE類)…… 245
第37図　出土土器平面分布図(ⅤA～ⅤD類)
…… 245
第38図　出土土器平面分布図(Ⅵ～ⅦC類)
…… 246
第39図　出土土器平面分布図(Ⅷ・Ⅸ類)… 246
第40図　出土石器実測図(１)…… 247
第41図　出土石器実測図(２)…… 248
第42図　出土石器実測図(３)…… 249
第43図　出土石器実測図(４)…… 250
第44図　出土石器実測図(５)…… 251
第45図　出土石器実測図(６)…… 252
第46図　出土石器実測図(７)…… 254
第47図　出土石器実測図(８)…… 259
第48図　出土石器実測図(９)…… 261
第49図　出土石器実測図(10)…… 262
第50図　出土石器実測図(11)…… 263
第51図　出土石器実測図(12)…… 264
第52図　出土石器実測図(13)…… 265
第53図　出土石器実測図(14)…… 266
第54図　出土石器実測図(15)…… 267
第55図　出土石器実測図(16)…… 268
第56図　出土石器実測図(17)…… 269
第57図　出土石器実測図(18)…… 270
第58図　出土石器実測図(19)…… 271
第59図　出土石器実測図(20)…… 272
第60図　出土石器実測図(21)…… 273
第61図　出土石器実測図(22)…… 274
第62図　出土石器平面分布図(磨石)…… 276
第63図　出土石器平面分布図(石鏃)…… 276

表目次

第Ⅰ章　序説
表１　鹿村野台地周辺の遺跡地名表……４
第Ⅱ章　前ノ原第２遺跡
表１　出土土器観察表(１)…… 25
表２　出土土器観察表(２)…… 26
表３　出土土器観察表(３)…… 27
表４　出土土器観察表(４)…… 28

表 5　出土土器観察表(5)…… 29
表 6　出土土器観察表(6)…… 30
表 7　出土土器観察表(7)…… 31
表 8　集石遺構観察表…… 33
表 9　出土石鏃観察表…… 33
表10　出土磨石観察表…… 33
第Ⅲ章　ズクノ山第1遺跡
表 1　包含層出土土器観察表…… 63
表 2　包含層出土石器観察表…… 65
表 3　竪穴住居観察表…… 77
表 4　遺構内出土土器観察表(1)……101
表 5　遺構内出土土器観察表(2)……102
表 6　遺構内出土土器観察表(3)……103
表 7　遺構内出土土器観察表(4)……104
表 8　遺構内出土土器観察表(5)……105
表 9　遺構内出土石器観察表(1)……121
表10　遺構内出土石器観察表(2)……122
第Ⅴ章　ズクノ山第2遺跡E地区
表 1　集石遺構観察表 …… 210
表 2　遺構覆土注記(1)…… 211
表 3　遺構覆土注記(2)…… 212
表 4　遺構覆土注記(3)…… 213
表 5　遺構覆土注記(4)…… 214
表 6　遺構覆土注記(5)…… 215
表 7　遺構覆土注記(6)…… 216
表 8　遺構覆土注記(7)…… 217
表 9　遺構覆土注記(8)…… 218
表10　遺構覆土注記(9)…… 219
表11　遺構内出土土器観察表(1)…… 223
表12　遺構内出土土器観察表(2)…… 224
表13　出土土器観察表(1)…… 237
表14　出土土器観察表(2)…… 238
表15　出土土器観察表(3)…… 239
表16　出土土器観察表(4)…… 240
表17　出土土器観察表(5)…… 241
表18　出土土器観察表(6)…… 242
表19　出土土器観察表(7)…… 243
表20　出土石鏃観察表(1)…… 255
表21　出土石鏃観察表(2)…… 256
表22　出土石鏃観察表(3)…… 257
表23　出土石鏃観察表(4)…… 258
表24　出土尖頭状石器観察表…… 258
表25　出土石錐観察表…… 258
表26　出土磨石観察表…… 275
第Ⅵ章　まとめ
表 1　縄文早期遺跡別遺物出土状況…… 340
表 2　ズクノ山第2遺跡E地区
出土石鏃形態散布図…… 341
表 3　ズクノ山第2遺跡F地区
出土石鏃形態散布図…… 341
表 4　ズクノ山第2遺跡E地区
出土石鏃石材割合表…… 341
表 5　ズクノ山第2遺跡F地区
出土石鏃石材割合表…… 341

写真図版目次

第Ⅱ章　前ノ原第2遺跡
図版1　鹿村野台地航空写真(南から)…… 42
図版2　調査区近景、ピット群…… 43
図版3　礫群、SI－01・SI－02、SI－03、
SI－04…… 44
図版4　SI－05、SI－06、SI－10、SI－11、
SI－13、SI－16…… 45
図版5　SI－18、SI－19、SI－21、
SI－22、SI－23、SI－24…… 46
図版6　出土土器(Ⅰ・ⅡA・ⅡB類)…… 47
図版7　出土土器(ⅡBc・Ⅲ・Ⅳ類、Ⅴ
・ⅥA・ⅥB類)…… 48
図版8　出土土器(ⅥB～ⅥD・Ⅶ・Ⅷ類)…49

図版９　出土土器(Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類)…… 50
図版10　出土土器(ⅡA・Ⅲ・Ⅳ・Ⅹ類)、
出土石器(石鏃ほか)…… 51
図版11　出土石器(剥片・石斧、磨石・凹石)
…… 52
第Ⅲ章　ズクノ山第１遺跡
図版１　集石遺構検出状況全景…… 139
図版２　調査区南端検出状況…… 140
図版３　集石遺構検出状況…… 141
図版４　集石遺構検出状況…… 142
図版５　弥生時代遺構検出状況遠景…… 143
図版６　弥生時代遺構検出状況遠景…… 144
図版７　作業風景　SA－01完掘状況
SA－02検出状況(北から)……145
図版８　SA－03検出状況　SA－03遺物
出土状況　SA-04検出状況…… 146
図版９　SA－05検出状況SA－06検出状況
SA－07検出状況 …… 147
図版10　SA－32完掘状況 SA－33完掘状況
SA－35検出状況 …… 148
図版11　SA－08検出状況　SA－09初期
検出状況　SA－09検出状況 …… 149
図版12　SA－10検出状況　SA－10
遺物出土状況　SA－10検出状況 150
図版13　SA－11検出状況 SA－11完掘状況
SA－12検出状況 …… 151
図版14　SA－13検出状況 SA－13遺物
出土状況 SA－13完掘状況…… 152
図版15　SA－14完掘状況 SA－15完掘状況
SA－16検出状況 …… 153
図版16　SA－16遺物出土状況 SA－16土坑
内遺物出土状況　SA－16完掘状況 154
図版17　SA－17検出状況　SA－17遺物
出土状況　SA－17完掘状況 …… 155
図版18　SA－19検出状況　SA－19完掘状況
SA－21完掘状況 …… 156
図版19　SA－22･23･24検出状況
SA－23･24検出状況
SA－23完掘状況…… 157
図版20　SA－26完掘状況 SA－27完掘状況
SA－28完掘状況…… 158
図版21　SA－29完掘状況 SA－30検出状況
SA－31完掘状況…… 159
図版22　縄文時代の出土遺物 …… 160
図版23　弥生時代の出土遺物 …… 161
図版24　弥生時代の出土遺物 …… 162
図版25　弥生時代の出土遺物 …… 163
図版26　弥生時代の出土遺物 …… 164
図版27　弥生時代の出土遺物 …… 165
図版28　弥生時代の出土遺物 …… 166
図版29　弥生時代の出土遺物 …… 167
図版30　弥生時代の出土遺物 …… 168
図版31　弥生時代の出土遺物 …… 169
図版32　弥生時代の出土遺物 …… 170
図版33　弥生時代の出土遺物 …… 171
図版34　弥生時代の出土遺物 …… 172
第Ⅳ章　ズクノ山第２遺跡A，B，C地区
図版１　A区調査区近景、B区調査区近景、
C区調査区近景、C区溝状遺構、
B区溝状遺構、A区ピット群…… 182
図版２　A区ピット群、A区東壁、B区南壁、
C区北壁、作業風景…… 183
図版３　出土遺物(土器・石鏃)、(磨石)… 184
第Ⅴ章　ズクノ山第２遺跡E地区
図版１　礫群01、礫群02、礫群03、
礫群04、礫群05、礫群06…… 283
図版２　礫群07、礫群08、SI－09、SI－10、
SI－11 …… 284
図版３　SI－12 …… 285
図版４　SI－12、SI－13、SI－14、SI－15
…… 286
図版５　SI－16、SI－17 …… 287

図版 6　SI－17、SI－18・19、SI－20… 288
図版 7　SI－21、SI－22、SI－23、SI－24 …… 289
図版 8　SI－25、SI－26、SI－27…… 290
図版 9　SI－28、SI－29、SI－30…… 291
図版10　SI－31、SI－32、SI－33、SI－34 …… 292
図版11　SI－34、SI－36、SI－37、SI－38 …… 293
図版12　SI－39、SI－41、SI－42…… 294
図版13　SI－43、SI－44、SI－42～44、SI－45 …… 295
図版14　SI－45、SI－46、SI－61…… 296
図版15　SI－61、SI－48…… 297
図版16　SI－48、SI－49、SI－50…… 298
図版17　SI－50、SI－51、SI－52…… 299
図版18　SI－53、SI－54、SI－55…… 300
図版19　SI－55、SI－56、SI－57…… 301
図版20　SI－57、SI－58、SI－59、SI－60、SI－47 …… 302
図版21　SI－62、SI－63、SI－64…… 303
図版22　SI－65、SI－66、SI－67…… 304
図版23　SI－67、SI－68、SI－69…… 305
図版24　SI－70 …… 306
図版25　SI－70 …… 307
図版26　SI－71、SI－72、SI－73、SI－74、集石遺構検出作業…… 308
図版27　集石遺構剥ぎ取り作業……309
図版28　土坑列(SC－76～81)、SC－76、SC－77 …… 310
図版29　SC－78、SC－79、SC－80、SC－81、SC－82……311
図版30　SC－83、SC－84、SC－85、SC－86、SP－87……312
図版31　SP－87、SX－88……313
図版32　SX－88、SX－89……314
図版33　SX－89 …… 315
図版34　SX－89、SX－90、SX－91…… 316
図版35　SX－91、SX－92 …… 317
図版36　SX－92、SX－93 …… 318
図版37　出土土器(遺構内) …… 319
図版38　出土土器(遺構内) ……320
図版39　出土土器(遺構内)、出土土器(Ⅰ類)…… 321
図版40　出土土器(Ⅱ・ⅢA・ⅢB・Ⅳ類 VA類) …… 322
図版41　出土土器(VA・ⅦC類) …… 323
図版42　出土土器(VB・VC類) …… 324
図版43　出土土器(VC～VE・Ⅵ類) …… 325
図版44　出土土器(Ⅶ類・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ類)… 326
図版45　出土土器(ⅩⅠ類)、出土石器(石鏃)…… 327
図版46　出土石器(石鏃)…… 328
図版47　出土石器(石鏃)…… 329
図版48　出土石器(石鏃)…… 330
図版49　出土石器(石鏃・尖頭状石器・石錐)…… 331
図版50　出土石器(剥片石器)…… 332
図版51　出土石器(剥片石器)…… 333
図版52　出土石器(剥片石器)…… 334
図版53　出土石器(剥片石器・磨石)…… 335
図版54　出土石器(磨石)…… 336
図版55　出土石器(磨石・用途不明石器)… 337

第Ⅰ章　　序　説

第１節 調査に至る経緯

田野町は、宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、それを取り囲む鰐塚山を始めとする山々からなり、１市（宮崎市）と５町（清武町、高岡町、山之口町、三股町、北郷町）に接している。主な産業は、大根やタバコなどを主体とする農業であるが、近年は、高速道路や国県道の整備によって交通の要衝の地となり、更に工業団地の整備、企業や専門学校の誘致、宅地開発の振興が行われた結果、徐々にではあるが商･工業の町として発展を見せている。その反面で、農業基盤整備事業や各種開発事業に伴う埋蔵文化財の保存は大きな問題となっており、町教育委員会でも調整や調査体制の整備充実を図ってきた。しかし、遺跡の大半は記録保存の対象となり、消滅しているのが現状である。

平成9年度、町北東部にあたる鹿村野台地において県営畑地帯総合整備事業鹿村野地区が実施されることとなり、県文化課が事業地内に試掘調査を行ったところ、アカホヤ火山灰層上層において、部分的に柱穴や縄文時代後期にあたる遺物が確認された。この地点は農道が敷設される予定であったため、生活跡が確認された部分の周辺に、調査による記録保存を実施することとなった。調査は平成10年1月19日に着手し、３月19日まで行われた。遺跡名は「ズクノ山第2遺跡A～C地区」である。

平成10年度には、台地南端と北端の２箇所が事業予定地となった。県文化課の試掘調査により、集石遺構などの縄文時代早期の生活跡が分布する事が明らかとなった。この結果を受け、設計施工上消滅を免れない部分について、発掘調査による記録保存を実施する事となり、平成10年８月11日より現地の調査に着手した。調査は12月21日まで行われた。遺跡名は、台地北端が「ズクノ山第2遺跡E地区」、南端が「前ノ原第2遺跡」である。

平成11年度は、台地北部の丘陵地が事業予定地となり、発掘調査が行われた。この調査結果については、「田野町文化財調査報告書第42集　ズクノ山第2遺跡F地区」で既に報告したとおりである。

平成12年度には、丘陵地の西側が事業予定地となった。県文化課の試掘により、アカホヤ火山灰層下部において縄文時代早期の生活跡が分布することが明らかとなった。この結果を受け、設計施工上やむを得ず消滅を免れない部分について、発掘調査による記録保存を実施する事となり、平成12年９月１日より現地の調査に着手した。当初は縄文時代早期を調査する予定であったが、アカホヤ火山灰層を取り除いた段階で、弥生時代の住居跡が多数存在することが明らかとなった。調査は同年12月28日まで行われた。遺跡名は「ズクノ山第1遺跡」である。

第２節 遺跡の位置と歴史的環境

鹿村野地区は、田野町の北々東、清武町と宮崎市の境界付近にある、標高95～110mの台地である。東側には清武川が北側に向かって流れ、西側には黒北川が台地の縁辺に鋸歯状の谷

を刻みながら流れるため、周囲から半ば孤立している。現在は起伏の少ない平坦地が広がっているが、開墾前は開析谷と微高地が混在する地形であったことが、表土除去作業を通して明らかになった。

鹿村野地区に広がる台地上は、平成9年度より12年度まで続けられた発掘調査の成果によって、先史時代の遺跡が多く分布することが明らかとなっている。平成10年度に行われたズクノ山第2遺跡D地区の調査では、アカホヤ火山灰層下部で検出されたピットより、山形押型文と撚糸文が併用された土器が出土した。また、北側に位置する丘陵の傾斜面上に立地するF地区からは、30基以上の集石遺構や3基の炉穴が検出されたほか、主に縄文時代早期中葉の遺物が多く出土した。台地南側は前ノ原第2遺跡以外に遺跡の分布は確認されていないが、調査区の隣接地より抉状耳飾が採集されている。

鹿村野台地周辺は、清武川が北側に大きく蛇行する地点であり、この左岸の台地上は、宮崎市・清武町に跨って先史時代の遺跡が密集する。鹿村野台地より黒北川を挟んで北側にある椎屋形地区には椎屋形第1・第2遺跡が立地しており、旧石器時代の遺物や縄文時代草創期の爪形文土器、早期前葉に当たる礫群・炉穴等が検出されている。開析谷を挟んだ東側には時屋地区遺跡群が立地しており、上の原第1～第4遺跡からは、旧石器時代から中世まで幅広い年代にわたって生活跡が確認されている。また、白ヶ野第2・第3遺跡は、縄文時代を通して集落が検出されている。更にその南東には、清武町教育委員会により、平成8年度から、平成14年度である現在まで調査が続けられている、船引地区遺跡群が立地している。

このように、鹿村野地区及びその周辺には、多くの遺跡が集中する地点である。これらの遺跡の変遷は、第Ⅵ章で詳しくまとめたい。

なお、次頁の表1は、第1図内に示した遺跡の概略を示したものである。

(参考文献)

九州前方後円墳研究会　2001『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第Ⅱ分冊

清武町教育委員会　1997「白ヶ野第1・第4遺跡」『清武町文化財調査報告書』第5集

清武町教育委員会　1998「滑川第1・第2遺跡-1-・滑川第3遺跡」『清武町文化財調査報告書』第6集

清武町教育委員会　1999「滑川第1遺跡-2-滑川第2遺跡-2-」『清武町文化財調査報告書』第7集

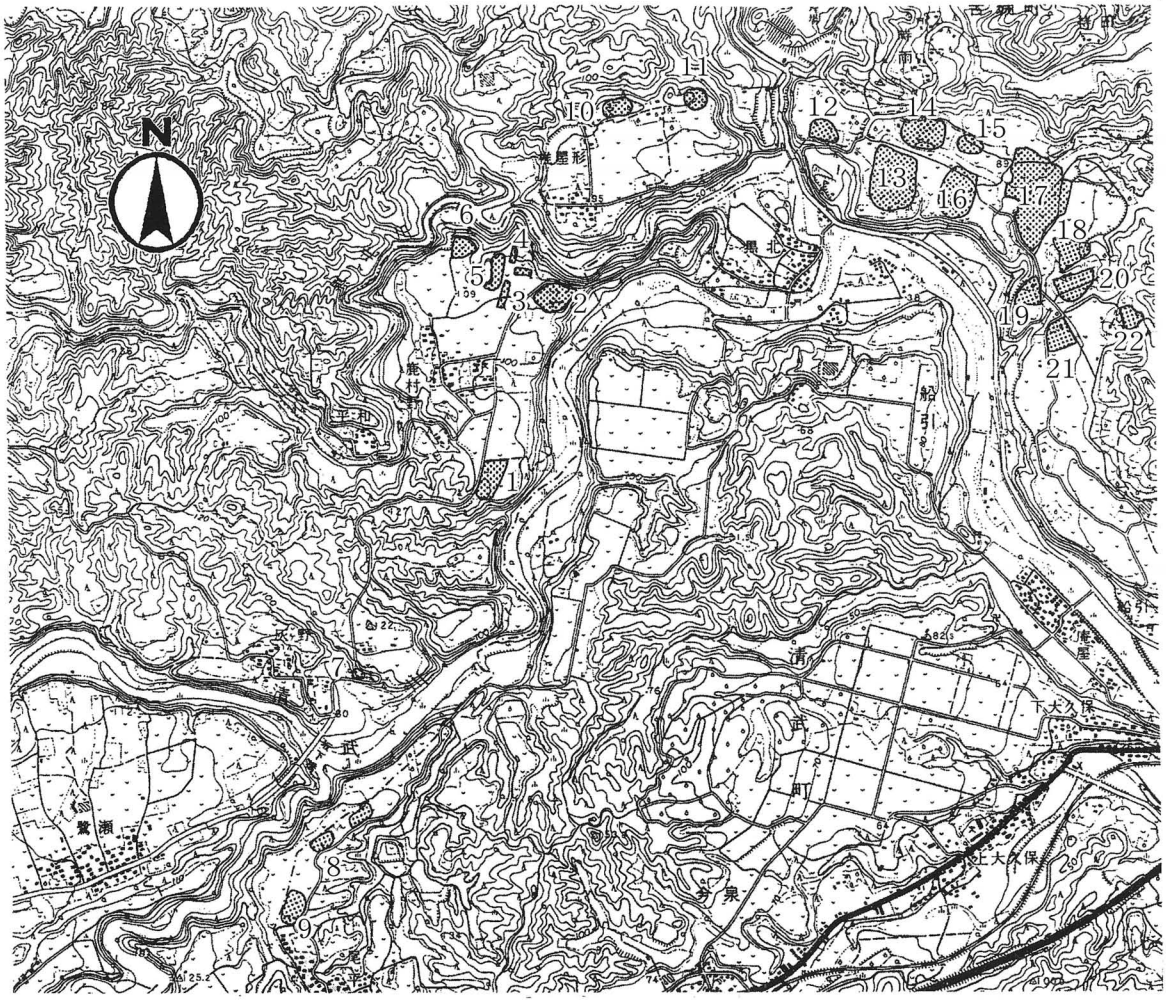
清武町教育委員会　2000「山田第1・山田第2遺跡」『清武町文化財調査報告書』第8集

宮崎県埋蔵文化財センター　1997「尾平・楢原遺跡　楢原遺跡」
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第8集

宮崎県埋蔵文化財センター　1999「上の原第3遺跡」
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第13集

宮崎県埋蔵文化財センター　2000「上の原第4遺跡　白ヶ野第3遺跡A地区　上の原第2遺跡
上の原第1遺跡　白ヶ野第3遺跡B地区」
『宮崎県埋蔵文化財センター』第25集

宮崎県埋蔵文化財センター　2002「白ヶ野第2・第3遺跡」
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第52集



第１図　鹿村野地区周辺遺跡分布図(1/35,000)

1. 前ノ原第2遺跡　2.ズクノ山第2遺跡Ｅ地区　3.同Ａ～Ｃ地区　4.同Ｄ地区　5.同Ｆ地区　6.ズクノ山第1遺跡　7.灰ヶ野地下式横穴墓　8.尾平・楢原遺跡　9.尾平遺跡　10.椎屋形第２遺跡　11.椎屋形第１遺跡　12.上の原遺跡13.上の原第２遺跡　14.上の原第3遺跡　15.上の原第4遺跡　16.上の原第1遺跡　17.白ヶ野第１～第3遺跡　18.白ヶ野第1遺跡　19.滑川第1遺跡　20.滑川第2遺跡　21.山田第1遺跡　22.山田第2遺跡

1. 前ノ原第2遺跡
2. ズクノ山第2遺跡Ｅ地区
3. ズクノ山第2遺跡Ａ地区
4. ズクノ山第2遺跡Ｂ地区
5. ズクノ山第2遺跡Ｃ地区
6. ズクノ山第2遺跡Ｄ地区
7. ズクノ山第2遺跡Ｆ地区
8. ズクノ山第1遺跡

第２図　鹿村野地区遺跡分布図(1/10,000)

宮崎県埋蔵文化財センター　2002「白ヶ野第２・第３遺跡　上の原第１遺跡（B 地区）
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 62 集
宮崎市教育委員会　1996「椎屋形第１遺跡・椎屋形第２遺跡・上の原遺跡」
田野町教育委員会　1999「前ノ原第２遺跡・ズクノ山第２遺跡 E 地区」
『田野町文化財調査報告書』第 30 集
田野町教育委員会　1999「ズクノ山第２遺跡 D 地区」『田野町文化財調査報告書』第 29 集
田野町教育委員会　2001「ズクノ山第１遺跡」『田野町文化財調査報告書』第 41 集
田野町教育委員会　2002「ズクノ山第２遺跡 F 地区」『田野町文化財調査報告書』第 43 集

表１　鹿村野台地周辺の遺跡地名表

No	遺　跡　名	調査年度	調査主体	遺跡の時代（時期）
1	前ノ原第２遺跡	H10 年度	田野町教育委員会	縄文(早)
2	ズクノ山第2遺跡 E地区	H10 年度	田野町教育委員会	縄文(早)
3	ズクノ山第2遺跡 A～C地区	H9 年度	田野町教育委員会	縄文(早・後)
4	ズクノ山第2遺跡 D地区	H11 年度	田野町教育委員会	縄文(早)
5	ズクノ山第2遺跡 F地区	H11 年度	田野町教育委員会	旧石器, 縄文(早)
6	ズクノ山第１遺跡	H12 年度	田野町教育委員会	縄文(早), 弥生
7	灰ヶ野地下式横穴墓	S47 年	宮崎県総合博物館 田野町教育委員会	古墳(後)
8	楢原遺跡	H6・7 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・後)古代・中世
9	尾平・楢原遺跡	H6・7 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早), 古墳
10	椎屋形第２遺跡	H4 年度	宮崎市教育委員会	縄文(早)
11	椎屋形第１遺跡	H3 年度	宮崎市教育委員会	縄文(草・早), 弥生(後)
12	上の原遺跡	H5 年度	宮崎市教育委員会	旧石器、縄文(草・早), 古代
13	上の原第２遺跡	H6 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・後), 中近世
14	上の原第３遺跡	H6 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早期), 古墳(中)
15	上の原第４遺跡	H7 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早), 古墳(前)
16	白ヶ野第１遺跡	H7・8 年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前), 古代
17	白ヶ野第2・第３遺跡	H7・8 年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・中・後)
18	滑川第３遺跡	H９年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前)
19	滑川第１遺跡	H10 年度	清武町教育委員会	縄文(早・前)
20	滑川第２遺跡	H10 年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前)
21	山田第１遺跡	H11 年度	清武町教育委員会	縄文(早), 古代
22	山田第２遺跡	H11 年度	清武町教育委員会	縄文(早)

第Ⅱ章　　前ノ原第２遺跡

第１節　調査の概要

前ノ原第2遺跡は、鹿村野地区台地の南端部、県道花見田野線の東側にある。調査前の地形は、南西から北東方向にかけて緩やかな傾斜を呈する畑地であったが、耕作土を除去した段階で調査区南側は既にシラス層が露出しており、開墾の影響をかなり受けていることを確認したほか、調査区中央部には、天地返しを行った部分も見られた。また、西側中央には、比較的深い谷地形も確認した。詳細に調査した面積は、文化層の消滅部分を除くと、約2,800㎡である。

本遺跡の調査にあたっては、前段階で実施された試掘調査のデータに基づいて、縄文時代早期の遺構・遺物が出土することを想定した。なお、県道を挟んだ西側において抉状耳飾が採集されていることから、縄文時代前期の集落跡の検出も念頭に置き(註1)、第2層直上まで機械掘削を行った。この面で、縄文時代の前期以降と考えられるピット群を検出した。更に第3層まで掘削したのち、手掘りによる遺物包含層の調査並びに遺構の検出作業を進めた。第3層直上においては焼礫が数点見られる程度であったが、同層掘り下げの段階で遺物の出土量も増し、第4層直上に至った段階で集石遺構を検出した。また、第4層掘り下げの段階でも、集石遺構や遺物が確認されたことから、集落の営続期間は、縄文時代早期でも幅広い時期にわたると推定される。

第2節　層序

調査区内の基本層位は以下の通りである。堆積状況は第２図の通りである。

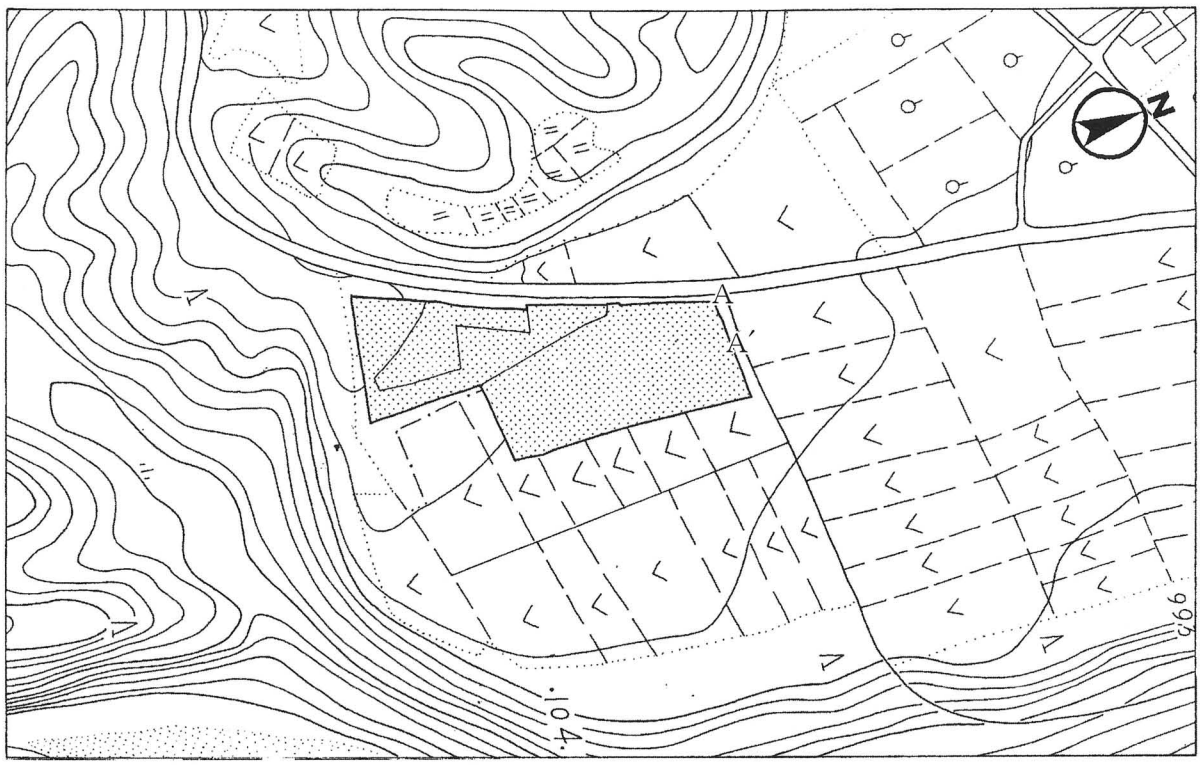
第1層：耕作土層
第2層：アカホヤ火山灰堆積層
第3層：暗褐色硬質土層（通称カシワバン）
第4層：褐色土層1
第5層：褐色土層2
第6層：褐色硬質土層（小林降下軽石混入）

一部アカホヤ火山灰堆積層の上層においてアカホヤ火山灰二次堆積（または腐植土）層や黒色土層も確認した。

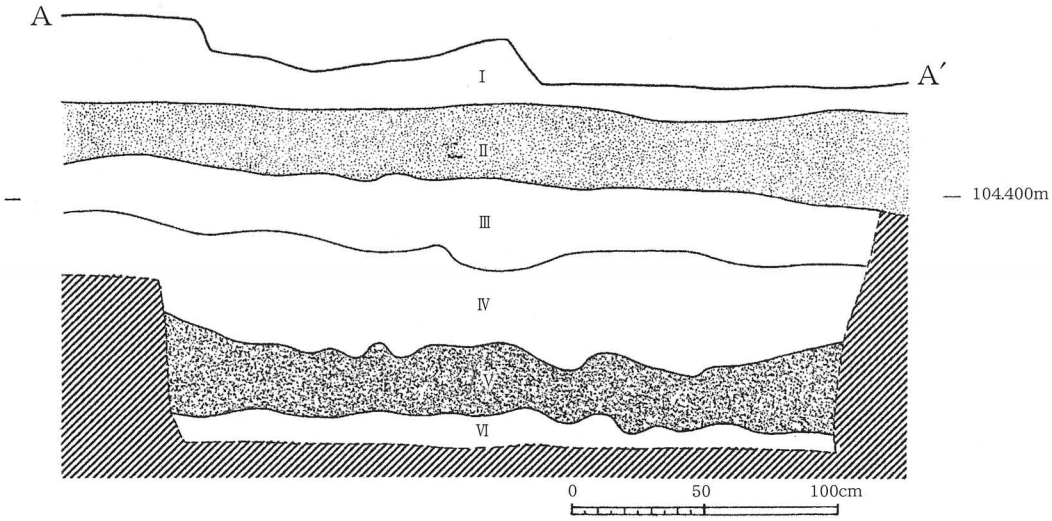
第3節　検出遺構

Ⅰ・ピット（第４図）

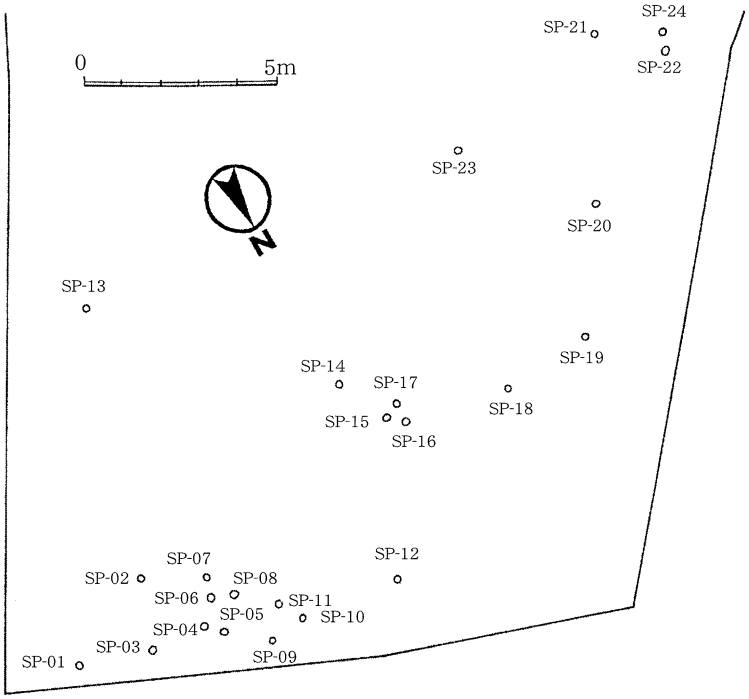
2層上位より検出された。全体で24基検出されたが、半分は北端部に集中しており、他は疎らな状態で分布する。平面形はやや歪な楕円形を呈するものが多数を占める。断面形はテラスや段を設けるものもあるが、直に落ちるものが殆どである。深さは1mに達するものから30cm前後のものまでまちまちである。覆土中から遺物の出土はないため、具体的な時期は断定できないが、いずれもアカホヤ火山灰二次堆積(または腐植土)層を覆土としていることから、



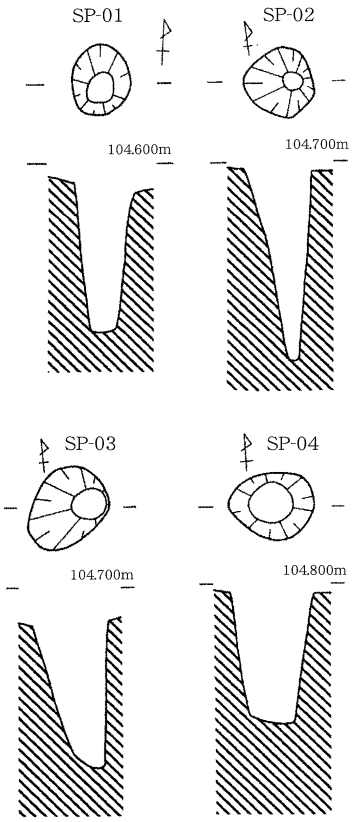
第1図　前ノ原第2遺跡周辺地形図（S=1/1000）

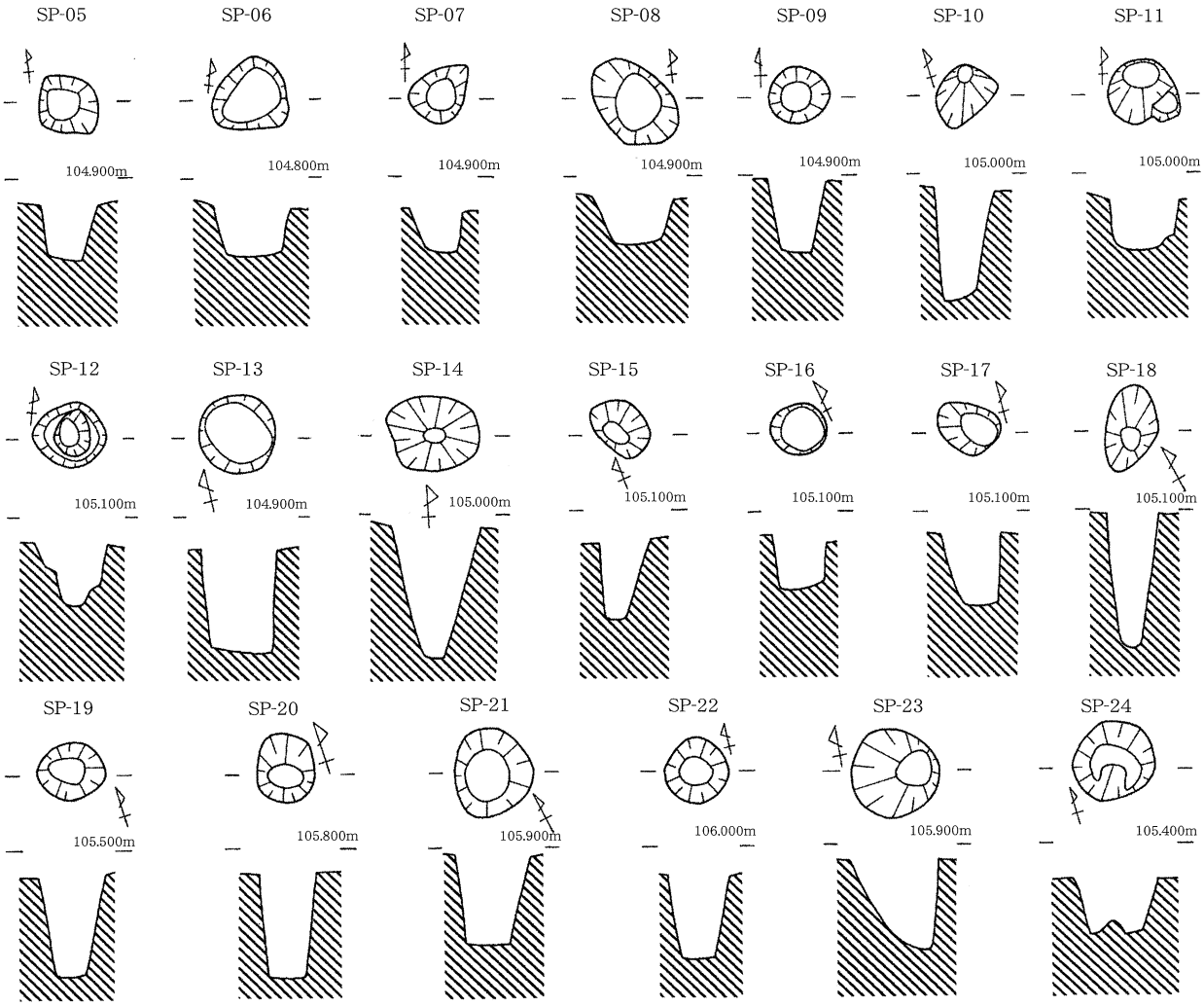


第2図　前ノ原第2遺跡土層断面図



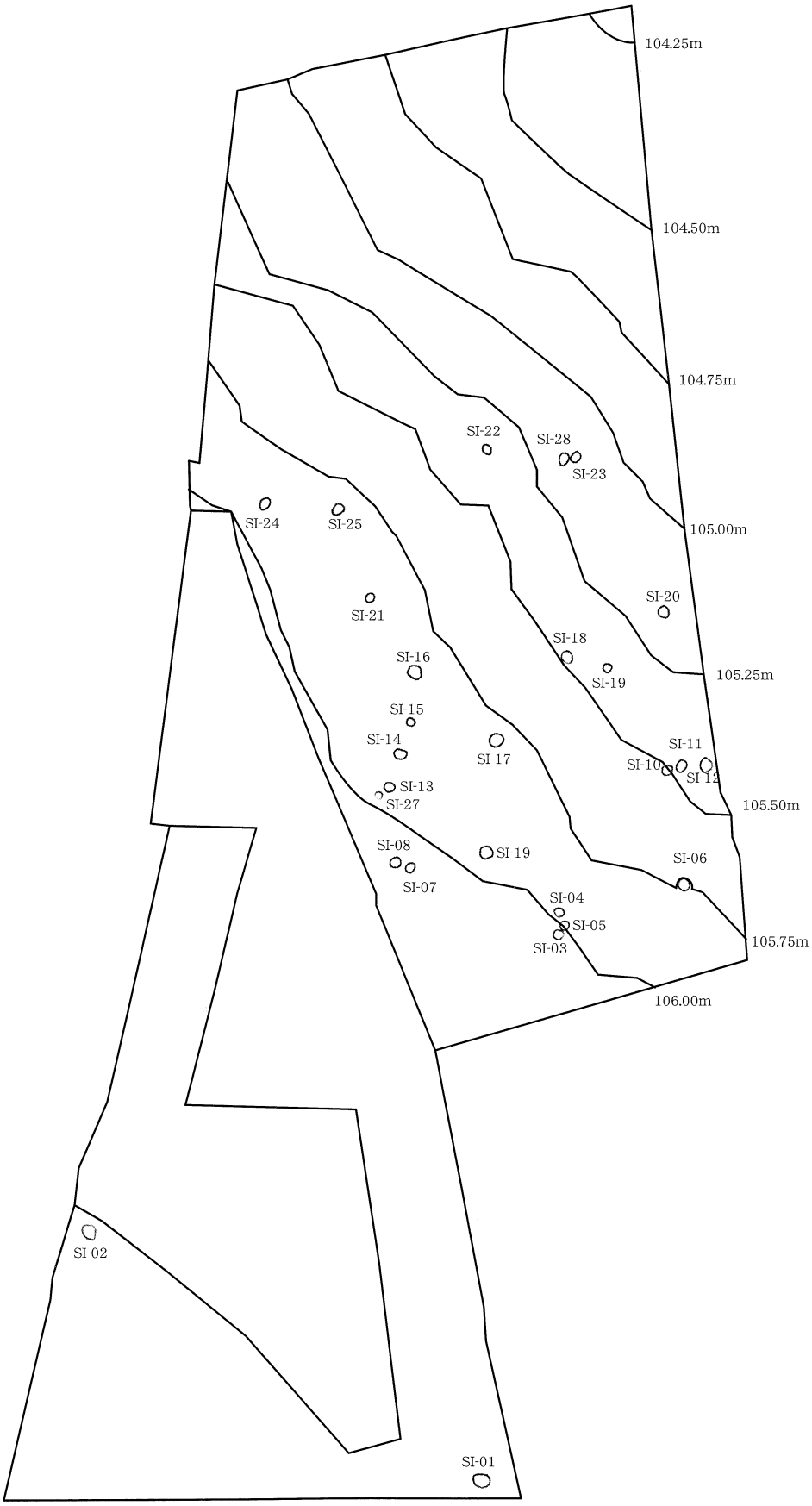
第3図　ピット群平面分布図(S=1/200)



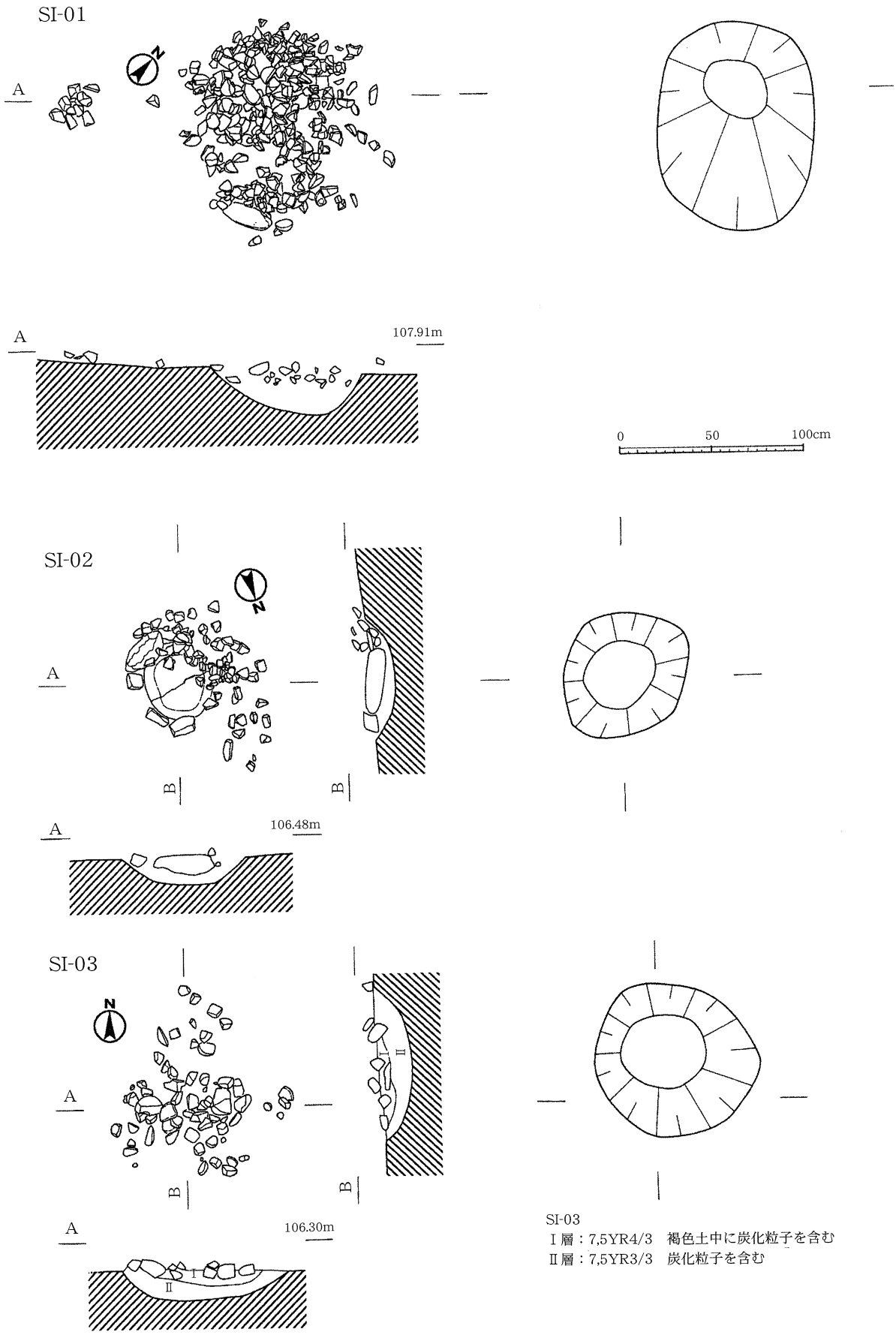


第4図　ピット実測図(S＝1/30)

第5図　焼礫及び風倒木痕平面分布図(1/200)

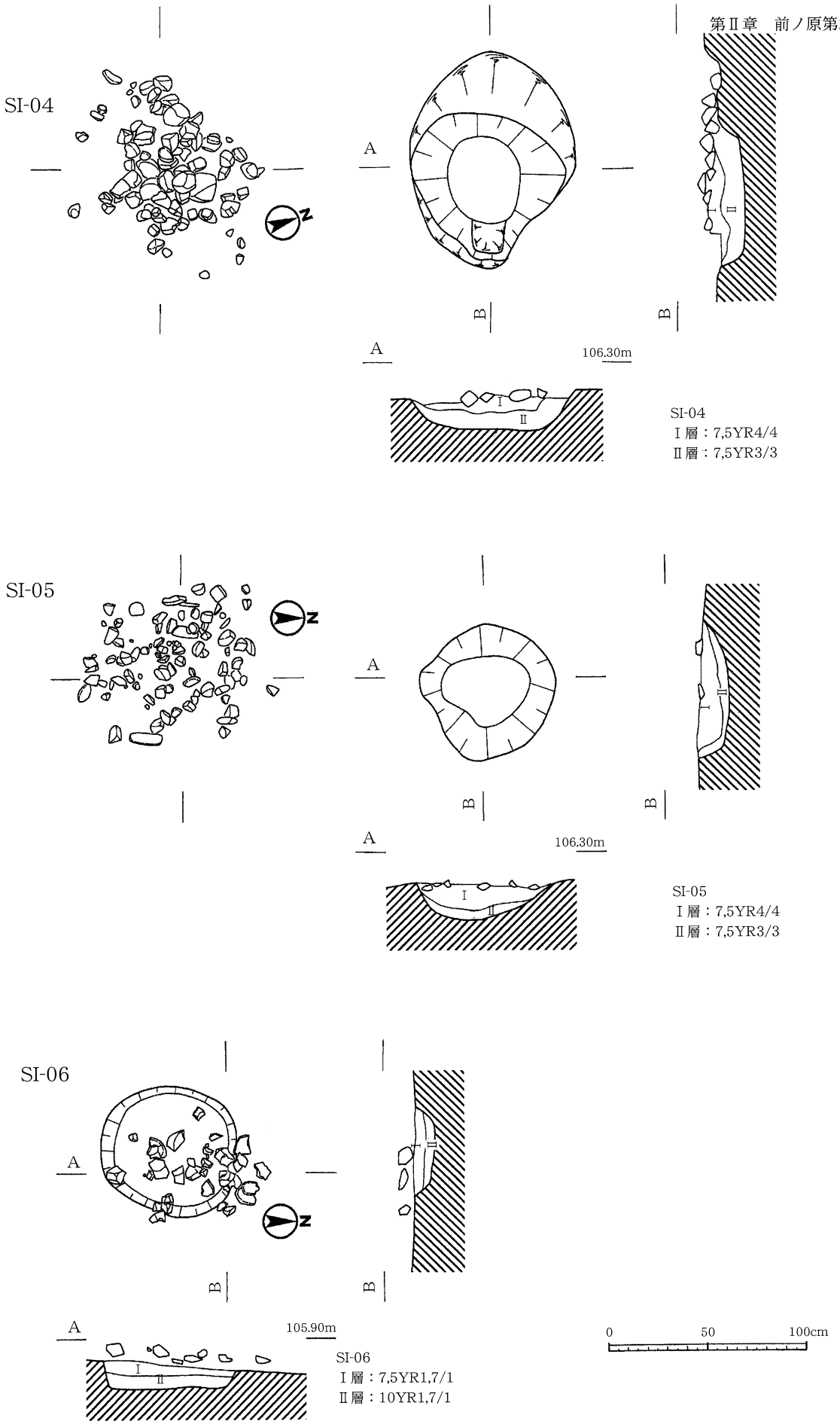


第6図　集石遺構平面分布図(1/200)

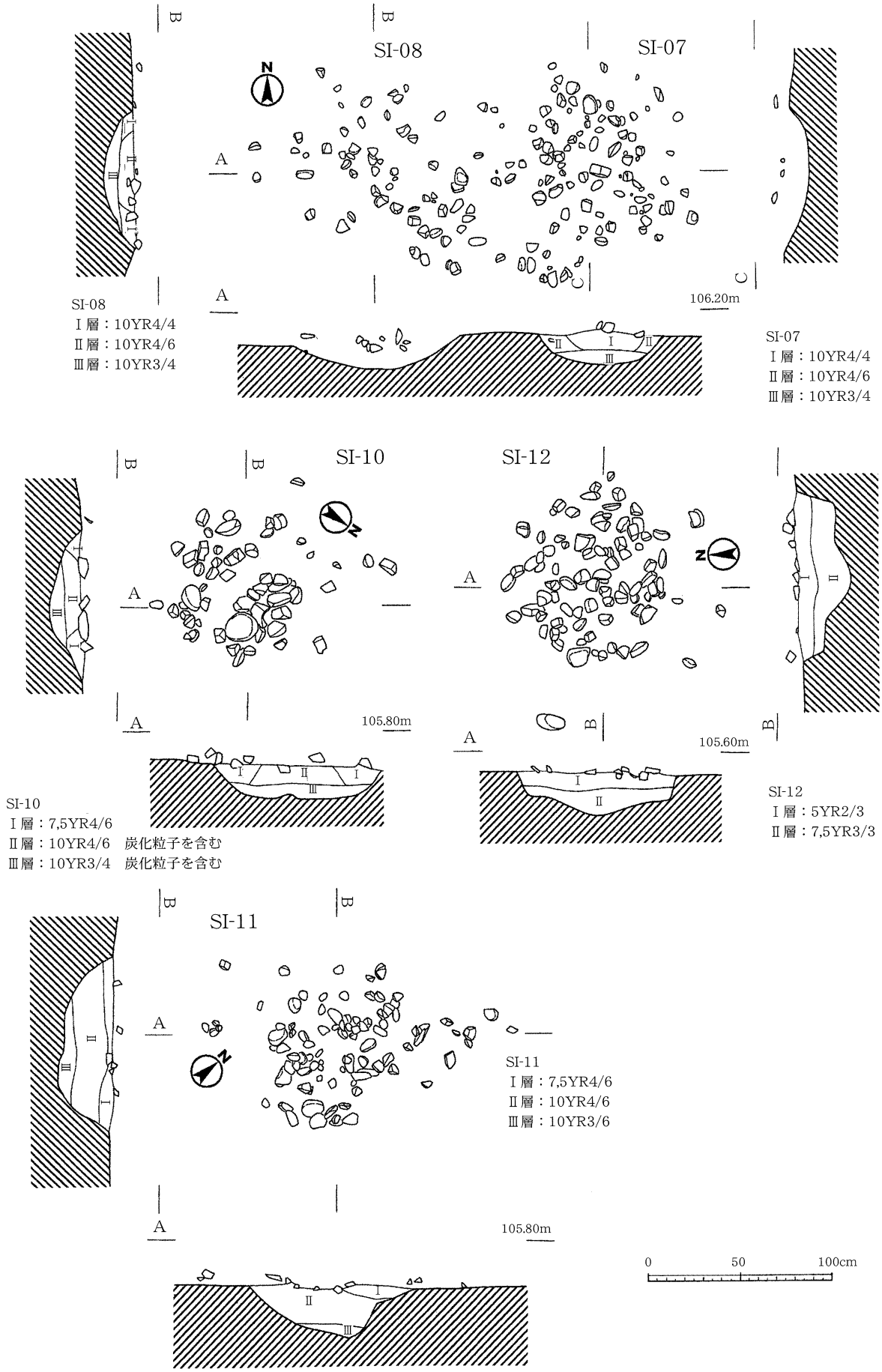


SI-03
Ⅰ層：7,5YR4/3　褐色土中に炭化粒子を含む
Ⅱ層：7,5YR3/3　炭化粒子を含む

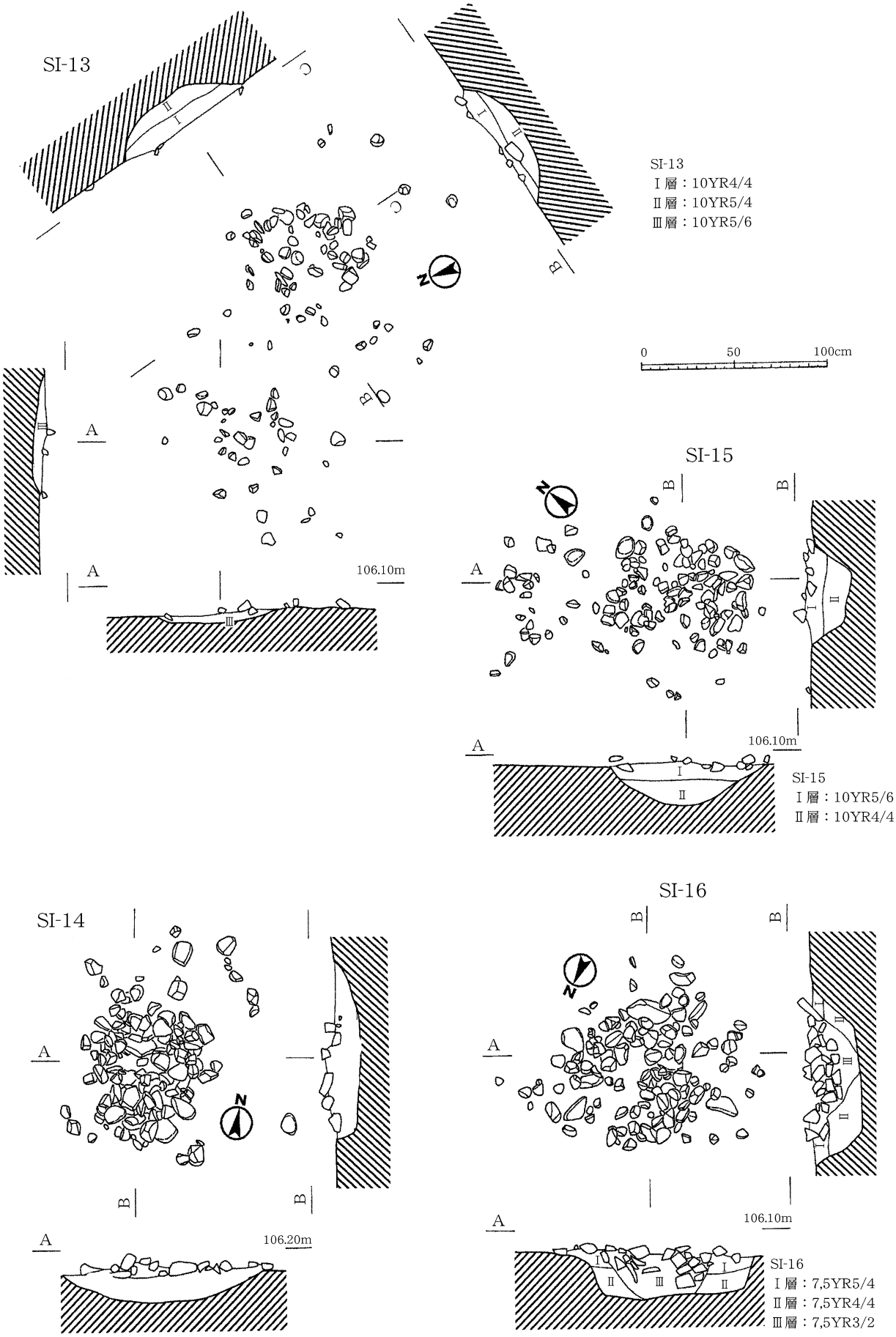
第7図　集石遺構実測図(1)



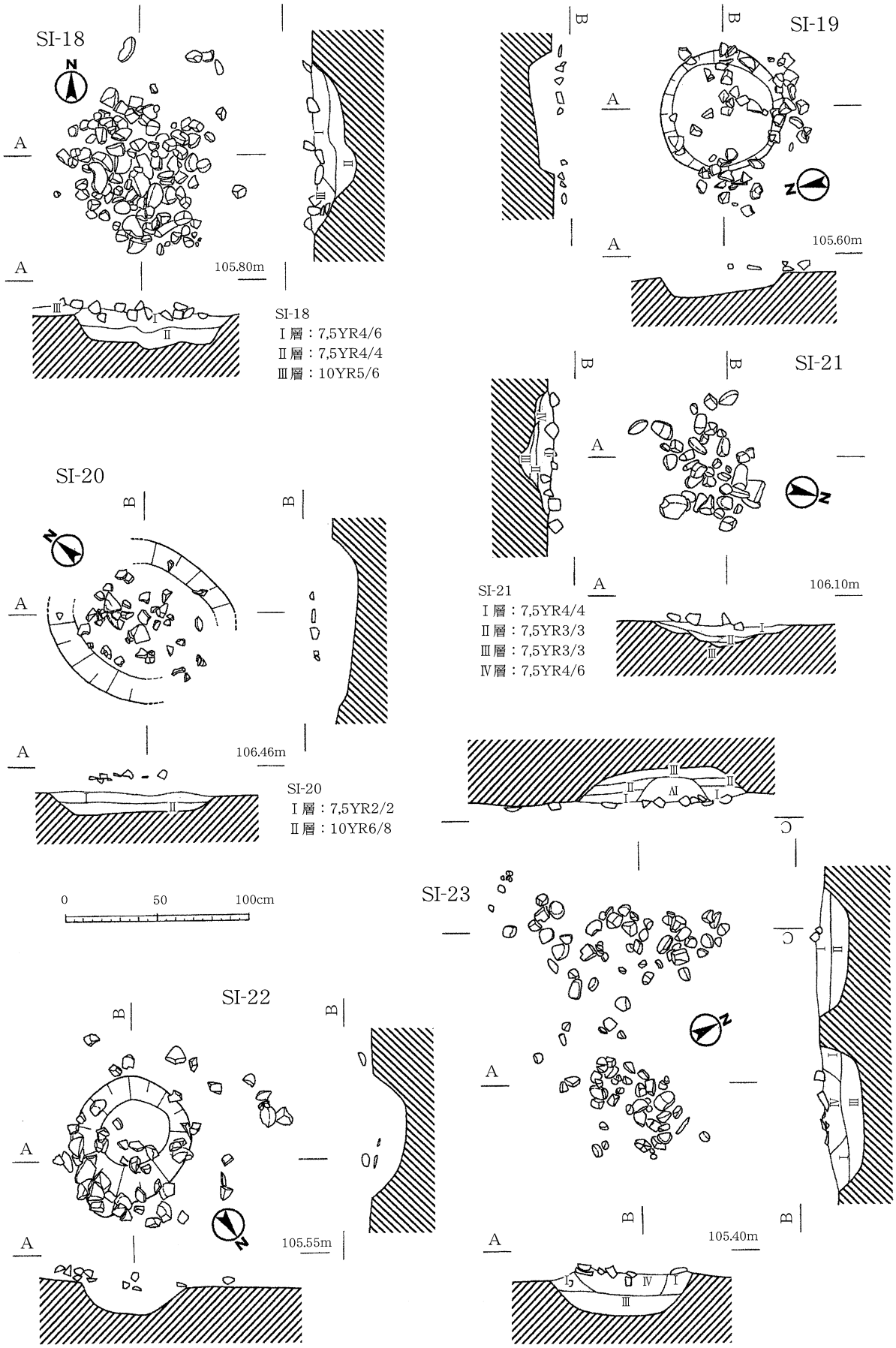
第8図　集石遺構実測図(2)



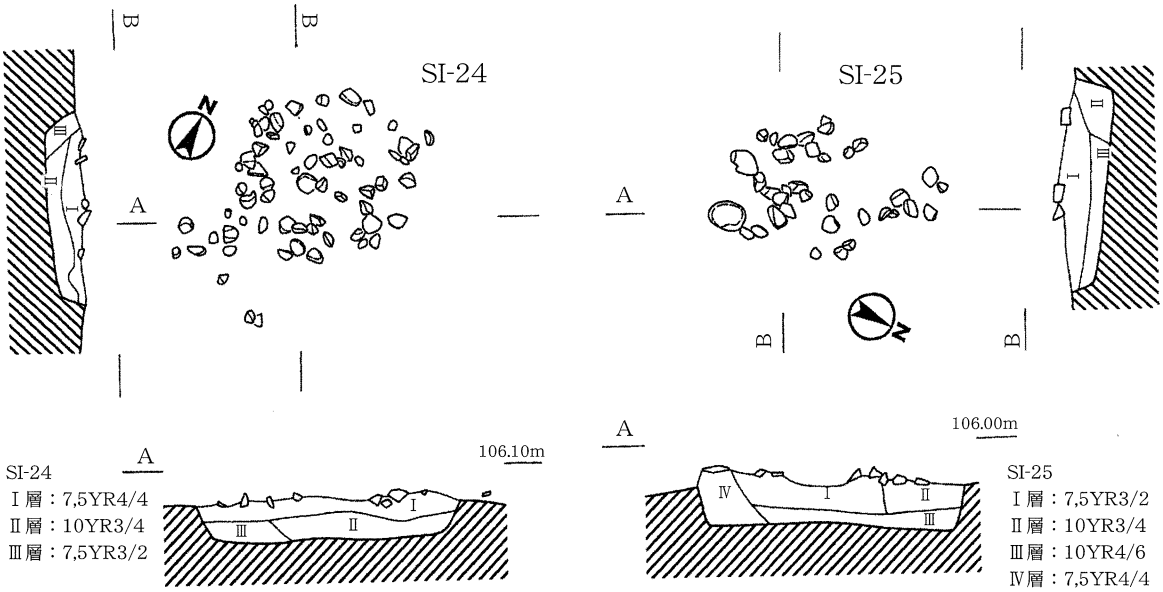
第9図　集石遺構実測図(3)



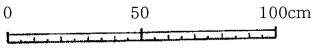
第10図　集石遺構実測図(4)



第11図　集石遺構実測図(5)



第12図　集石遺構実測図(6)



これらは縄文時代前期若しくはやや下る時期に、集中的に構築されたと考えられる。但し、これらの配置には、建物を想起させるような規則性は認められなかった。

Ⅱ・集石遺構（第７～12図）

26基検出された。観察結果の詳細は、表８のとおりである。全て掘り込みを伴うものであるが、礫の検出が掘り込みの下部にまで達していた遺構は僅かである。また、底石等の付加施設は殆ど伴わない。

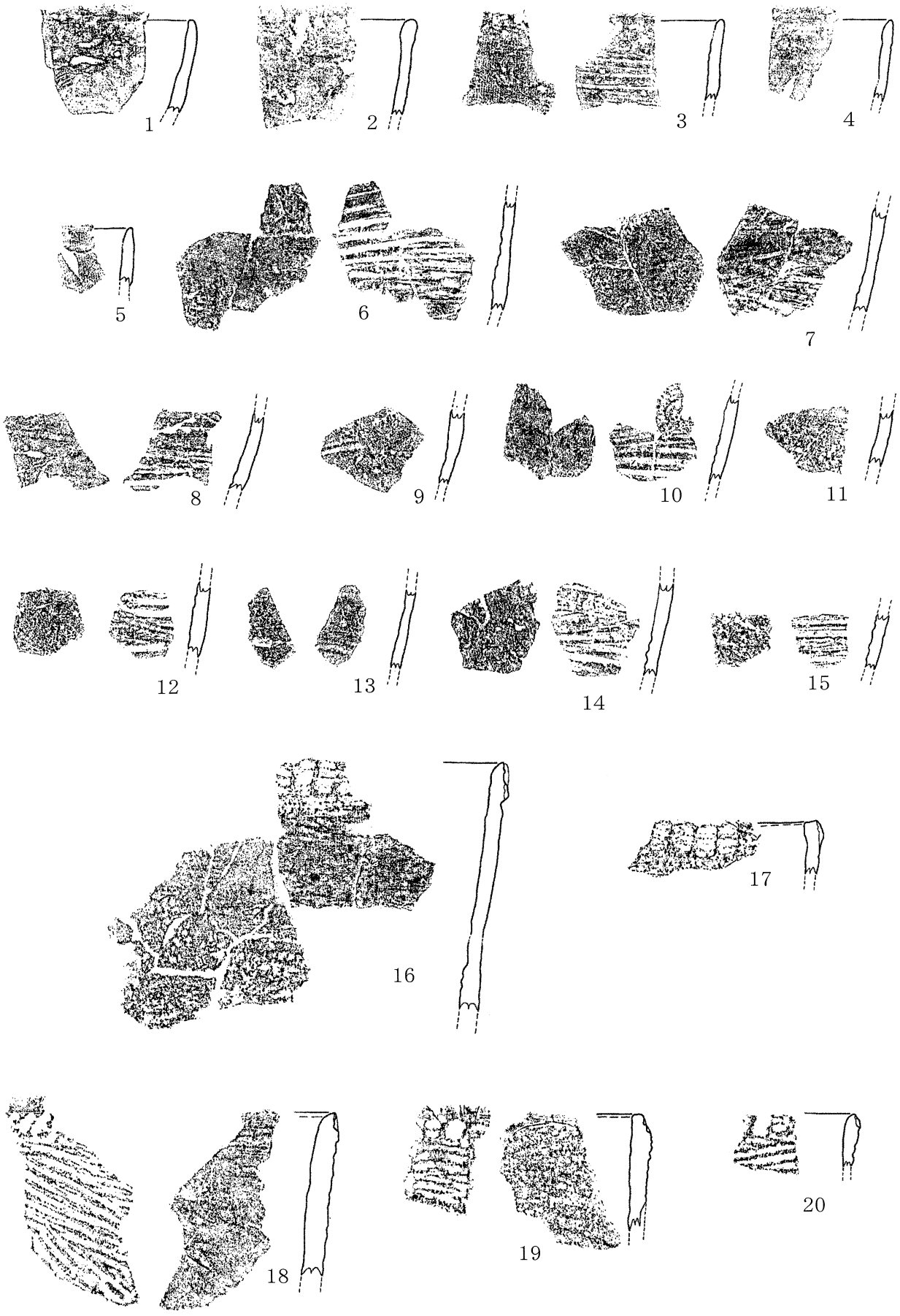
第4節　出土遺物

Ⅰ・土器

出土した土器は、次のⅠ～ⅩⅠ類に分類を行った。

Ⅰ類：無文で薄手の土器群（第13図1～15）

底部から口縁部にかけて殆ど変化することなく外反する器形を呈する。口縁部の断面は、(１)はやや内傾し、(３)は僅かに外反する。また(２)は、口縁直下の調整が雑であるが、全体的には口縁部から胴部まで大きな変化なく外反する器形を呈する。内面は横方向の条痕が施された後、口縁部付近のみナデが行われている。色調は、多くが暗褐色であり、胎土は、長石・角閃石など一般的な混和材の量が少ない一方、器面には繊維の痕跡が認められる多くは同一個体と思われる。



第13図　出土土器実測図(1)

Ⅱ類：前平式土器

2類に細別が可能である。

ⅡA：胴部にナデによる調整が行われる土器群（第14図16・17）

僅かに外反した、円筒状の器形を呈しており、口唇部が内傾する一群である。口縁部付近には、貝殻腹縁刺突が行われている。(16)は、口縁部文様帯と胴部の境界にも、貝殻腹縁を横位に2列刺突する。外面の胴部及び内面は、丁寧なナデ調整が行われる。

ⅡB：胴部に貝殻条痕による調整が行われる土器群

更に3類に細別が可能である。

ⅡBa：口縁部に貝殻腹縁刺突が行われる土器（第13図18～20）

僅かに外反した、円筒状の器形を呈する。(18・20)の口唇部は内傾するが、(19)は水平に近い。文様は、胴部に斜位の深い条痕を行った後、口縁部付近に貝殻腹縁刺突を施す。内面は、斜位に粗雑なナデ調整が行われる。

ⅡBb：口縁部に工具による刺突が行われる土器（第14図21～27）

僅かに外反した、円筒状の器形を呈する。口唇部は内傾する。文様は、口縁部に工具による連点を巡らせた後、胴部に斜位の深い条痕を施す。口縁部の刺突は、(21)を除いて2列である。内面は斜位の粗いナデ調整が行われる。なお、(27)の口唇部には、工具による押引が行われる。

ⅡBc：a・bの胴部片（第14図28～44）

a・bのどちらかであろうと思われる胴部である。いずれも僅かに外反する器形を呈し、外面に深い条痕が残される。条痕の方向は多くが斜位である。

Ⅲ類：貝殻条痕文土器（第15図45～49）

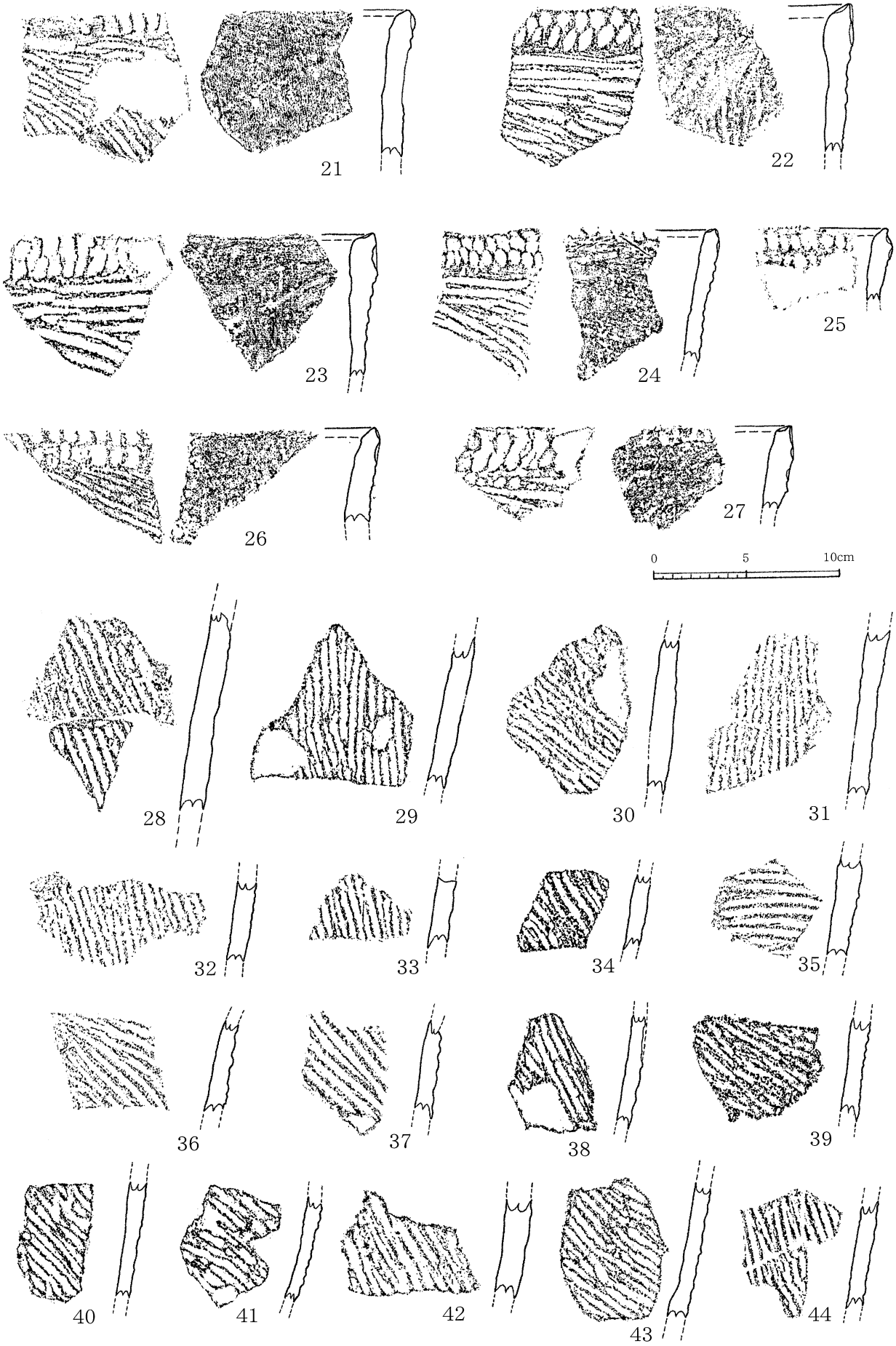
胴部が膨らみ、口縁部がやや外反する器形を呈する。外面には、二枚貝条痕が行われる。口唇部に稜は設けられず、口縁部に貝殻腹縁刺突は行われない。後述するが、ズクノ山第2遺跡E地区からは、この一群が主体的に出土した。

Ⅳ類：中原式土器（第15図50～53）

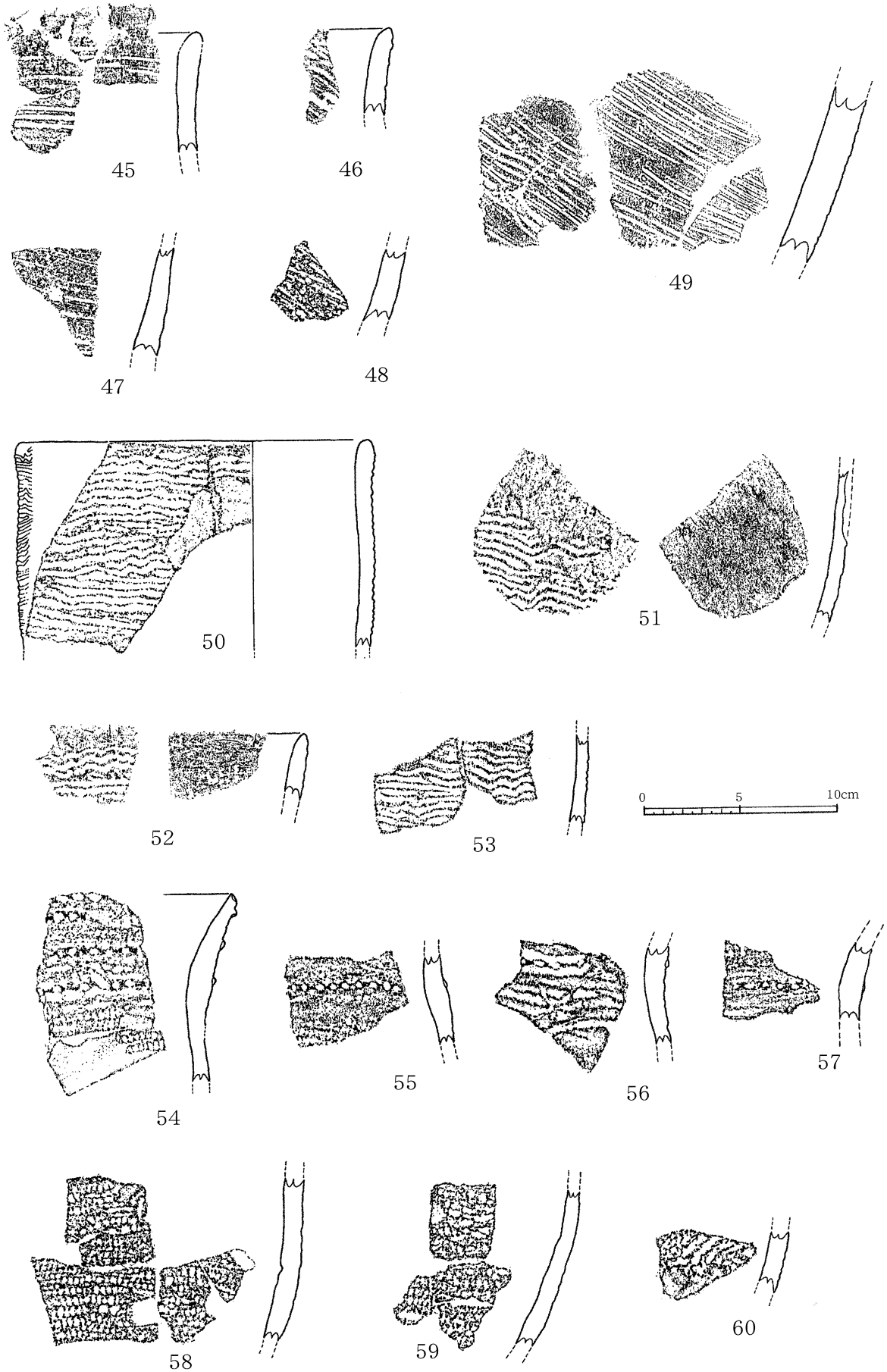
全体的に円筒状の器形であるが、胴部が僅かに膨らみ、口縁部がやや外反する器形を呈する。外面は工具による波状の条痕文が横位に巡る。内面は、Ⅱ類と同様に粗いナデが行われる。いずれも暗い色調である。木崎氏の編年に従えば(註2)、Ⅲ式もしくはⅣ式にあたる。

Ⅴ類：妙見式土器（第15図54～60）

口縁部が大きく外反し、頸部で明瞭な屈曲が見られ、胴部が膨らむ器形を呈する。押圧縄文が全面に施文され、口縁部にはその上に刻目を有する突帯が横位に数条貼り付けられる。色調は、いずれも赤みがかかっている。



第14図　出土土器実測図(2)



第15図　出土土器実測図(3)

Ⅵ類：平栫式土器

4類に細分が可能である。

ⅥA：口縁部文様帯に沈線文が多用される土器（第16図61～65）

肥厚する口縁部が大きく外反する器形を呈する。いずれも口縁部片であるが、同一型式である、B類と同様の器形を呈すると思われる。他の出土土器と比べ、焼成が良好である。

ⅥB：口縁部文様帯に刺突文が多用される土器（第16図66～86）

外反気味になる口縁部を持ち、頸部で屈曲し、胴部が膨らむ器形を呈する。文様は沈線と工具刺突を多用しており、縄文は使用しない。施文部位は主に口縁部と胴部である。(73)は、頸部に施文されたもので、刻目を有する突帯が2条貼り付けられる。内面は横位のナデが行われる。

ⅥC：その他の土器（第16図87～95）

(87～89)は、頸部から外反し、口縁部に肥厚帯が設けられる。波状口縁を呈しており、内外面共にナデによる調整を行う。施文は全く行われない。(90)は、大きく外反する口縁部であり、刻目を持つ隆帯が横位に数条貼り付けられる。(91)は、肥厚帯に縄文が施文さ　れる。(94・95)は、口縁端部にて突帯が貼り付けられる。突帯は、その下位にも貼り付けられるが、口縁に平行しない。

ⅥD：A～Cの胴部片（第16・17図96～111）

(96・100・102)は、胴部上半に膨らみが認められる。(97～99・101)は、縄文の後に、撚糸文を幾重にも施文する。(103)は、刻目突帯と櫛状の工具による条痕が施文されている。(108・109)は、Ⅵ類Bと同様の刺突が行われている。

Ⅶ類：塞ノ神式土器（第17図112・113）

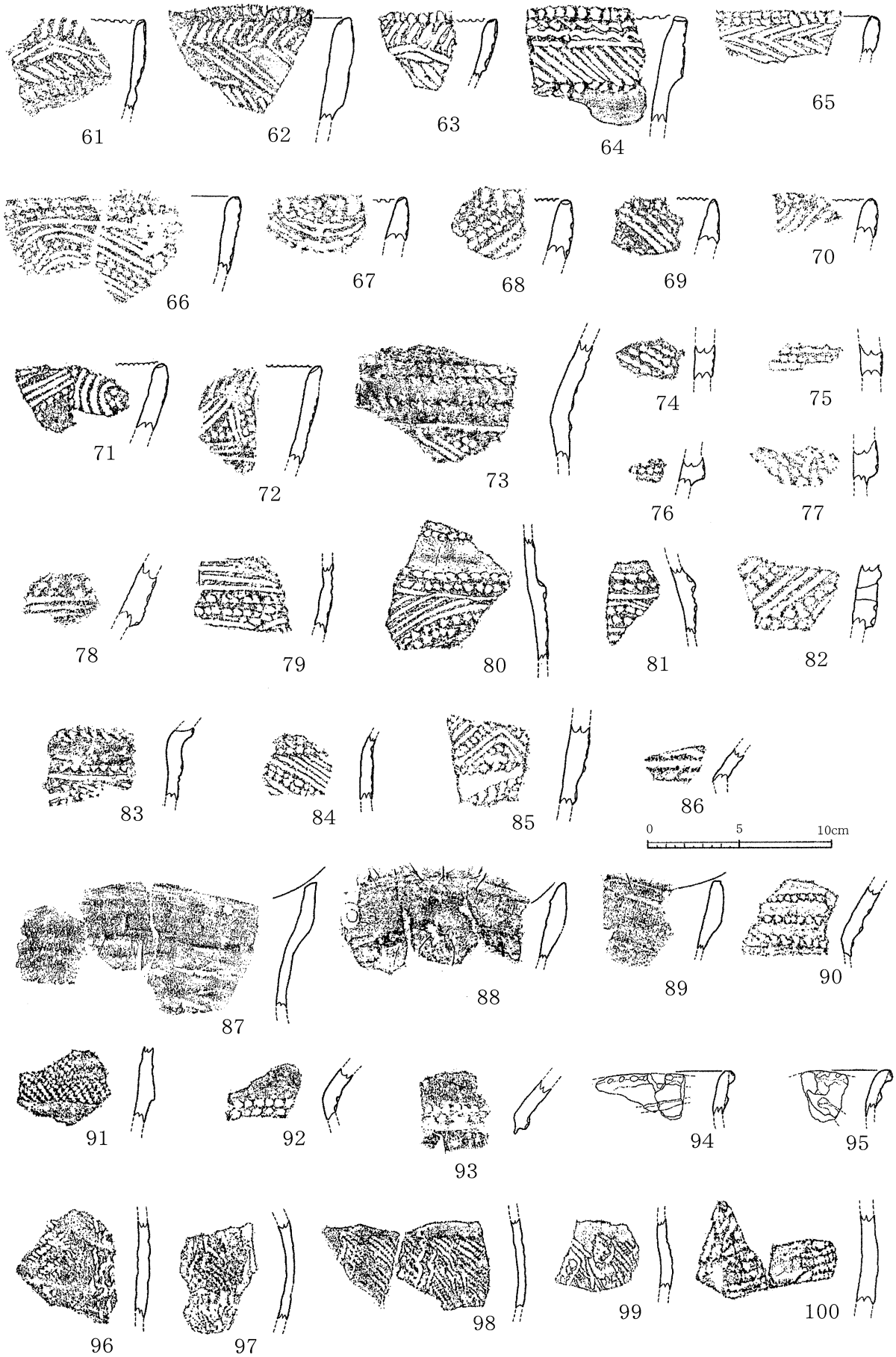
(112)は、膨らみを持たず、底部までほぼ垂直に達する胴部片である。外面には網目状の撚糸文が縦位に施文されており、その上に沈線が施文される。(113)は、口縁部と胴部の境界にあたり、口縁は大きく外反する。刻目を持つ突帯が2列にわたって貼り付けられる。

Ⅷ類：鎌石橋式土器・轟Ⅰ式土器（第17図114～116）

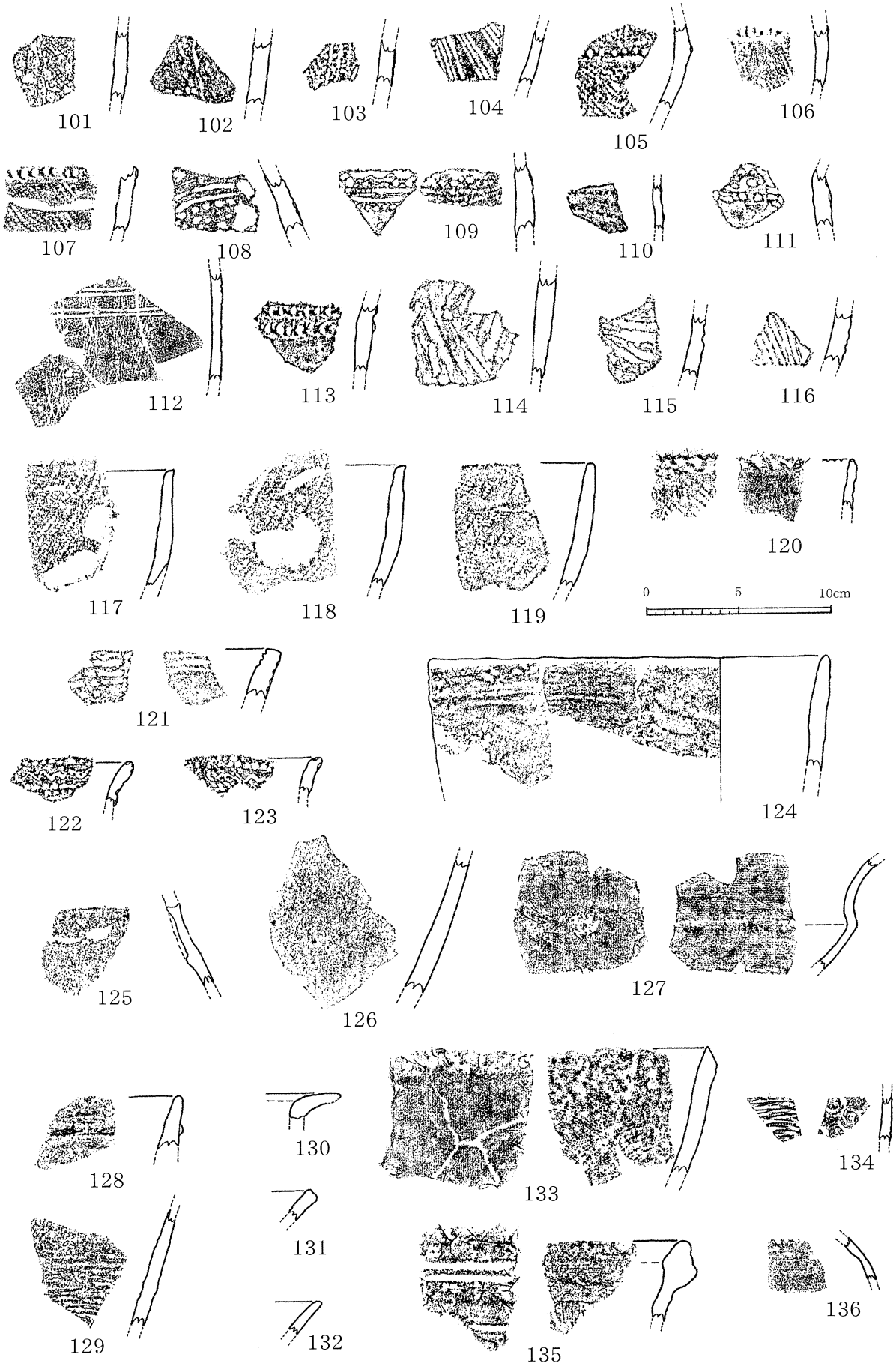
口縁部から底部にかけて、やや外反する器形を呈すると思われる。(114・115)は、ヘラ状工具による条痕を一定間隔に行い、脇にはみ出た粘土で微隆起を作出したものである。(116)は、細い鋭利な工具で粗い条痕を行ったものである。

Ⅸ類：縄文系土器（第17図117～120）

(117～119)は同一個体であり、口縁部はやや内傾気味である。(120)は、口唇部に刻みが行われている。



第16図　出土土器実測図(4)



第17図　出土土器実測図(5)

Ⅹ類：その他の土器（第17図121～136）

(121)は、外面に二枚貝による文様が横位に施文され、内面の口縁部付近には撚糸文が施文される。口唇部の断面は方形を呈し、口縁は外反する。(122・123)は同一個体である。口縁の径が著しく小さく、口縁部が外反する一方、頸部は窄まっていることから、壷形土器であると考えられる。(124)は口縁部片である。僅かに外反しながら胴部に至る器形を呈すると考えられる。内外面には、条痕の後にナデが行われるが、文様は全く施文されない。(125)も、同様に壷形土器と考えられる。

(126～129)は、縄文時代早期以降の縄文土器である。

(126)は、胴部下半にあたると考えられる。全面にわたって丁寧なナデ調整が斜位に行われている。焼成は良好であり、縄文後期～晩期の土器と考えられる。(127)は、入念に磨かれた黒色磨研土器である。

(128・129)は、時期不明の縄文土器である。(128)は、口縁直下に隆帯が一条、口縁に平行して貼付けられる。内外面にはナデ調整が行われる。(129)の内面には、刷け目状の調整が行われる。

(130～136)は、縄文時代以降の土器である。

(130～132)は、胎土や器形から、弥生土器である可能性が高い。(133)は、椀形の器形を呈し、口縁部には鋭利な稜が設けられる。外面には目立った調整は行われず、内面には布の圧痕が認められる。焼きは脆く、混和材の割合も少ない。古代に生産された布痕土器である。(134)は須恵器である。外面に横方向の平行タタキが行われ、内面には同心円当具痕が見られる。極めて薄手である。(135)は陶器である、口縁部に設けられた肥厚帯には凹線が2条巡っており、内面には鋭利な沈線が縦位に施される。器形から擂り鉢と考えられる。(136)も陶器であり、蓋にあたるものと思われる。ロクロを使って生産されており、内面には濃厚に釉薬が付着する。釉薬は外面下部にも認められる。

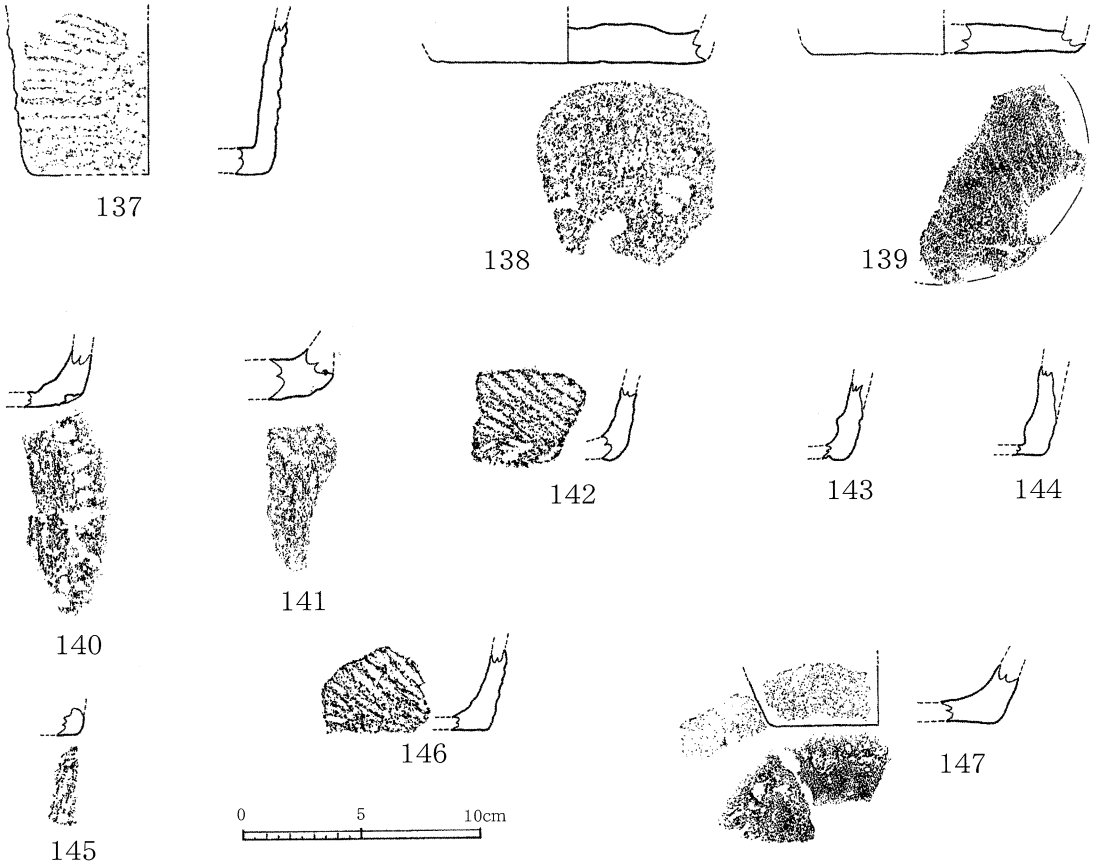
ⅩⅠ類：底部（第18図137～147）

(137)は、外面に深い条痕が残る。(138)の内側は、調整が行われないが、(139)は、内外面にわたって丁寧なナデ調整が行われる。(140)は、底面の縁の一部に工具による刺突が施文される。(141・142)の底部は極端に薄く作られている。

Ⅱ・石器

石鏃（第19図148～160）

いずれも基部に抉りを有する。中でも(148・149・153・155・156)の基部には深い抉りが認められるが、それ以外の基部は抉りが浅い。(155)は、尖端部と基部の計3箇所が鋭利になるよう、微細な調整を行い、形状を整えたものである。一方、(154・159)の調整は全体に粗く、



第18図　出土土器実測図(6)

特に尖端部に対する調整が不足していることから、製作途中である可能性も考えられる。(160)は、尖端部が欠損した後に、上部から剥離を行うことによって再製作を行おうとしたものである。しかし、剥離を数回行った段階で、製作を中断、若しくは放棄している。

尖頭状石器（第19図161）

粗悪なチャートを剥離する際に生じた厚手の剥片を用いたもので、両面からの大まかな調製により、尖頭部を作出する。ただし、尖端部をより鋭利にすることを目的とした調製は少ない。

両面加工石器（第19図162）

両面からの剥離により、紡錘形に成形する石器である。面的な調整により、断面が凸レンズ状となっている。一方、両端を尖らせるよう意図した調整は乏しい。

二次加工剥片（第19図163）

同一方向から連続的に剥離された不定形な剥片の上部に、両側から剥離を加えたものである。この調整により、剥片上部につまみ状の突出部が作出される。一見すると石匙にも見えるが、

胎土(A:角閃石　B:雲母片　C:白色粒　D:長石　E:砂粒　F:赤褐色粒　G:黒曜石片　H:パミス　)　　(特多:特に多量　多:多量　中:中量　少:少量　微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　　調	胎　　土	備考
1	第22図	Ⅰ	口縁部	**外:** 粗雑な横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:少D:中E:少F:微H:微	煮こぼれ付着
2	第22図	Ⅰ	口縁部	**外:** 粗雑なナデ **内:** 横位ヘラケズリ→ナデ	**外:** 黄灰2.5Y5/1 **内:** 黄灰2.5Y5/1	C:中D:少	胎土に繊維混入
3	第22図	Ⅰ	口縁部	**外:** 丁寧な横位ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** 黄灰2.5Y5/1 **内:** 褐灰10YR5/1	A:微C:多D:少F:微	胎土に繊維混入
4	第22図	Ⅰ	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 黄灰2.5Y6/1 **内:** 黄灰2.5Y6/1	A:微C:多D:中E:微F:微	胎土に繊維混入
5	第22図	Ⅰ	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 灰黄褐10YR6/2 **内:** 灰黄褐10YR6/2	A:微C:多D:少F:微	
6	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** 明黄褐10YR7/3 **内:** 黄灰2.5Y5/1	A:微C:多D:微E:微	胎土に繊維混入
7	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 丁寧な横位ナデ **内:** 不定方向の条痕→ナデ	**外:** にぶい黄褐10YR5/4 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:微C:微D:少	胎土に繊維混入
8	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位条痕→ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** 暗灰黄2.5Y5/2	A:微C:少D:中E:微F:微	胎土に繊維混入
9	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位条痕→ナデ **内:** 斜位条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:少C:中D:中F:微	胎土に繊維混入
10	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** 灰黄褐10YR6/2 **内:** 灰黄2.5Y6/2	C:多D:中E:中	胎土に繊維混入
11	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位条痕→ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:微C:中D:中E:微	胎土に繊維混入
12	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** 灰黄2.5Y6/2	A:微C:中D:少E:少	胎土に繊維混入
13	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 丁寧な横位ナデ **内:** 横位条痕→ナデ	**外:** 黄灰2.5Y5/1 **内:** 黄灰2.5Y6/1	A:微C:多D:多	胎土に繊維混入
14	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 丁寧なナデ **内:** 斜位条痕→横位条痕	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 灰黄2.5Y6/2	C:中D:多	
15	第22図	Ⅰ	胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位条痕	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 灰黄2.5Y6/3	A:微C:中D:少E:少	
16	第23図	ⅡA	口縁～胴部	**外:** 横位条痕→横位工具ナデ→横位貝殻腹縁押引→横位貝殻腹縁刺突 **内:** 横位ナデ	**外:** 灰黄褐10YR5/2 **内:** 灰黄褐10YR5/2	A:多C:多D:多E:少F:少H:少	17と同一個体 C粗大
17	第23図	ⅡA	口縁部	**外:** 横位貝殻腹縁押引→横位貝殻腹縁刺突 **内:** ナデ	**外:** 灰黄褐10YR5/2 **内:** 灰黄褐10YR4/2	A:中C:特多D:多F:微	16と同一個体
18	第23図	ⅡBa	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→斜位貝殻腹縁刺突 **内:** 粗雑なナデ	**外:** 橙7.5YR67/6 **内:** 橙7.5YR67/6	A:少C:中D:多E:少	
19	第23図	ⅡBa	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕→縦位貝殻腹縁刺突 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 橙7.5YR67/6	A:中C:多D:多F:少H:少	
20	第23図	ⅡBa	口縁部	**外:** 貝殻腹縁刺突・斜位貝殻条痕 **内:** 摩滅により不明	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:少C:中D:少E:少H:少	
21	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→斜位条痕 **内:** 粗雑な斜位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:多C:多D:多E:中F:少	C粗大

表1　出土土器観察表(1)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
22	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→横位条痕→斜位条痕 **内:** 粗雑な斜位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:多D:中E:少F:少	口唇部に刻目 C粗大
23	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→横位条痕→斜位条痕 **内:** 粗雑斜位なナデ	**外:** 暗黄褐10YR4/2 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	B:中C:多D:多E:少F:少	口唇部に押引 C粗大
24	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→横位条痕→斜位条痕 **内:** 粗雑な斜位ナデ	**外:** にぶい褐7.5YR5/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	B:微C:多D:中E:微F:微G:微	C粗大
25	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:中D:中E:中F:少H:微	
26	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→斜位貝殻条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄褐10YR5/4 **内:** 橙5YR6/6	A:多C:多D:特多E:少	
27	第23図	ⅡBb	口縁部	**外:** 連点→横位ナデ→横位条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** 褐灰7.5YR4/1 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:中D:中E:微F:微G:微	口唇部に押引
28	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 粗雑な縦位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:中D:少E:少F:微	
29	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 縦位条痕 **内:** 粗雑な縦位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:多D:少E:少F:微G:微	外面に煤付着
30	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 剥落により不明	**外:** 橙5YR6/4 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:多D:特多E:中F:微	C粗大
31	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 縦位条痕 **内:** 縦位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:多D:中E:中	31～33は同一個体 C粗大
32	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 縦位条痕 **内:** 縦位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:少C:中D:中E:少	31～33は同一個体 C粗大
33	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 縦位条痕 **内:** 縦位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:中F:微	31～33は同一個体
34	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 斜位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:多D:中E:微	
35	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 横位条痕 **内:** ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:少	
36	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 粗雑な斜位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:中D:少E:少	
37	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 斜位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:少D:少E:少	
38	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:中D:中E:少F:微	
39	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 粗雑な不定方向のナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:微C:中D:中E:少F:微	
40	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:少C:多D:中E:少F:微	
41	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 横位条痕 **内:** ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:中D:中E:少F:微	
42	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 不定方向のナデ	**外:** 灰黄褐10YR5/2 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:少D:中E:微	外面に煤付着

表2　出土土器観察表 (2)

胎土(A:角閃石　B:雲母片　C:白色粒　D:長石　E:砂粒　F:赤褐色粒　G:黒曜石片　H:パミス　)　　(特多:特に多量　多:多量　中:中量　少:少量　微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
43	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 粗雑な不定方向のナデ	**外:** 褐灰7.5YR4/1 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:特多E:少	外面に煤付着・C粗大
44	第23図	ⅡBc	胴部	**外:** 斜位条痕 **内:** 縦位ナデ	**外:** 褐灰7.5YR4/1 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:特多	外面に煤付着
45	第24図	Ⅲ	口縁部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** 灰褐7.5YR5/2	A:中C:中D:特多E:中F:少H:中	口唇部にミガキ
46	第24図	Ⅲ	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 横位ミガキ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい褐7.5YR5/3	A:少C:多D:特多E:少F:微H:中	
47	第24図	Ⅲ	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧なミガキ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/3	A:少C:少D:多F:微H:少	胎土に繊維混入
48	第24図	Ⅲ	口縁部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:多H:微	C粗大
49	第24図	Ⅲ	胴部	**外:** 斜位貝殻条痕 **内:** ミガキ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微B:微C:少D:少F:少H:多	胎土に繊維混入
50	第24図	Ⅳ	口縁部	**外:** 横位波状条痕 **内:** ナデ	**外:** 黄灰2.5Y4/1 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:少D:特多E:少H:少	51と同一個体 煮こぼれ付着
51	第24図	Ⅳ	胴部	**外:** 斜位波状条痕 **内:** ケズリ→ナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:少D:多E:少	50と同一個体
52	第24図	Ⅳ	胴部	**外:** 横位波状条痕 **内:** ナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 淡黄5Y8/3	A:中C:中D:中E:少	
53	第24図	Ⅳ	胴部	**外:** 横位波状条痕 **内:** 斜位工具ナデ	**外:** 灰白2.5Y8/2 **内:** 灰白2.5Y8/2	A:中C:少D:多E:少H:少	
54	第24図	Ⅴ	口縁部	**外:** 横位押圧縄文→刻目突帯貼付→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:少D:多E:少F:少	口唇部に刻目
55	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 斜位縄文？→刻目突帯貼付→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微B:少C:特多D:特多E:少F:少	
56	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 横位押圧縄文→刻目突帯貼付→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:微D:少E:少F:微H:微	
57	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 横位押圧縄文→刻目突帯貼付→ナデ **内:** ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微C:少D:少E:中F:微H:微	
58	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 横位押圧縄文→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:少D:中E:少F:少H:少	59と同一個体
59	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 横位押圧縄文→ナデ **内:** 粗雑な横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:微D:中E:微F:少H:微	58と同一個体
60	第24図	Ⅴ	胴部	**外:** 斜位押圧縄文→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:少C:微D:少F:少H:微	
61	第25図	ⅥA	口縁部	**外:** 横位ナデ→工具による短沈線 **内:** 不定方向のナデ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:少B:多C:特多D:中E:少F:微	口唇部に刻目
62	第25図	ⅥA	口縁部	**外:** 工具による短沈線 **内:** 不定方向のナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 暗灰黄2.5Y5/2	A:微C:中D:少E:微	口唇部に刻目
63	第25図	ⅥA	口縁部	**外:** 横位ナデ→工具による短沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** 橙7.5YR6/6	A:微B:特多C:特多D:少E:少	口唇部に刻目

表3　出土土器観察表(3)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
64	第25図	VIA	口縁部	**外:** 横位波状沈線→斜位短沈線→連点 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙5YR6/8	A:微B:特多C:特多D:微E:少F:微	口唇部に深い刻目
65	第25図	VIA	口縁部	**外:** 羽状短沈線→連点 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微B:中C:特多D:多E:少	口唇部に刻目
66	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による沈線・連点 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:微B:中C:特多D:中E:少F:少	口唇部に刻目
67	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点・工具による押引 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:少C:中D:中E:少	口唇部に刻目
68	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:多C:中D:中F:微	口唇部に刻目
69	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点・工具による押引 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:多D:中E:少	口唇部に刻目
70	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点・工具による押引 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:少D:中E:少F:微	口唇部に刻目
71	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:少C:多D:少E:中F:少	口唇部に刻目 C粗大
72	第25図	VIB	口縁部	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** 丁寧なナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	A:微C:中D:中F:微	口唇部に刻目
73	第25図	VIB	胴部	**外:** 刻目突帯貼付→工具による連点・工具による沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:微B:微C:特多D:特多E:少	
74	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による押引 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:中D:中E:少	
75	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	B:中C:少D:中	
76	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:中D:中F:微	
77	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:特多C:中D:中E:少F:微	
78	第25図	VIB	口縁部付近	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** ナデ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:微B:微C:中D:微F:微	
79	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄2.5Y6/3	A:少B:少C:特多D:多E:少F:微	
80	第25図	VIB	胴部	**外:** 横位ナデ→工具による連点・工具による沈線 **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい橙5YR6/4	A:少B:特多C:少D:微F:微	
81	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい褐7.5YR6/3	A:微B:中C:多D:微E:微	
82	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・工具による沈線 **内:** 横位ナデ	**外:** 浅黄橙7.5YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:中D:少	穿孔有り
83	第25図	VIB	胴部	**外:** 横位ナデ→工具による連点・工具による沈線 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** 橙7.5YR7/6	A:微B:中C:多D:少E:中F:微	
84	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・工具による斜位沈線 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:微B:中C:特多D:微E:少H:微	

表4　出土土器観察表(4)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部位	調整	色調	胎土	備考
85	第25図	VIB	胴部	**外:** 工具による連点・工具による斜位沈線 **内:** 斜位ナデ	**外:** 浅黄橙10YR8/4 **内:** 浅黄橙10YR8/3	A:中C:少D:少E:微F:微	
86	第25図	VIB	胴部	**外:** 刻目突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:微E:微F:少	
87	第25図	VIC	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい黄2.5Y6/3	A:少B:多C:特多D:中E:中F:微	87～89は同一個体
88	第25図	VIC	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	A:微B:多C:特多D:中E:中F:微	87～89は同一個体 穿孔有り
89	第25図	VIC	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微B:中C:多D:微E:中	87～89は同一個体
90	第25図	VIC	胴部	**外:** 横位ナデ→刻目突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:中D:少	
91	第25図	VIC	胴部	**外:** 横位ナデ→縄文→一部ナデ消し **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:中D:少	
92	第25図	VIC	口縁～胴部	**外:** 横位ナデ→連点 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** 橙5YR6/6	A:微B:多C:特多D:中E:中F:微	93と同一個体 D粗大
93	第25図	VIC	口縁～胴部	**外:** 横位ナデ→連点 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** 橙5YR6/6	A:微B:多C:特多D:多E:少F:微H:微	92と同一個体
94	第25図	VIC	口縁部	**外:** ナデ→突帯貼付→刻み **内:** 横位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい赤褐5YR5/3	A:微B:少C:多D:中E:中F:微	95と同一個体 口唇部に浅い刺突
95	第25図	VIC	口縁部	**外:** ナデ→突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい赤褐5YR5/3	A:少B:少C:多D:中E:少F:微	94と同一個体 口唇部に浅い刺突
96	第25図	VID	胴部	**外:** 横位ナデ→結節縄文 **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:微B:少C:特多D:中E:少F:微	
97	第25図	VID	胴部	**外:** 縄文→撚糸文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** 黄灰2.5Y5/1	A:少B:中C:特多D:中E:少	
98	第25図	VID	胴部	**外:** 横位ナデ→縄文→撚糸文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい黄橙10YR6/3	B:中C:多D:少E:微	
99	第25図	VID	胴部	**外:** 横位ナデ→縄文→撚糸文 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR6/4	A:微B:中C:多D:微E:微	
100	第25図	VID	胴部	**外:** 結節縄文→ナデ **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい褐7.5YR6/3	A:少C:中D:中H:少	
101	第25図	VID	胴部	**外:** 縄文→縦位撚糸文 **内:** 横位ナデ	**外:** 黒褐7.5YR3/1 **内:** 褐灰10YR5/1	A:少C:少D:中E:少	
102	第25図	VID	胴部	**外:** 縦位撚糸文・結節縄文 **内:** ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:多D:少E:少F:微	
103	第25図	VID	胴部	**外:** 刻目突帯貼付→工具による沈線 **内:** 斜位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:少D:中E:少	
104	第25図	VID	胴部	**外:** 斜位沈線・刻目突帯貼付 **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:中D:中E:少F:微	
105	第25図	VID	胴部	**外:** 羽状縄文→刻目突帯貼付→ナデ **内:** ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:少C:多D:中E:少F:中	

表5　出土土器観察表(5)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

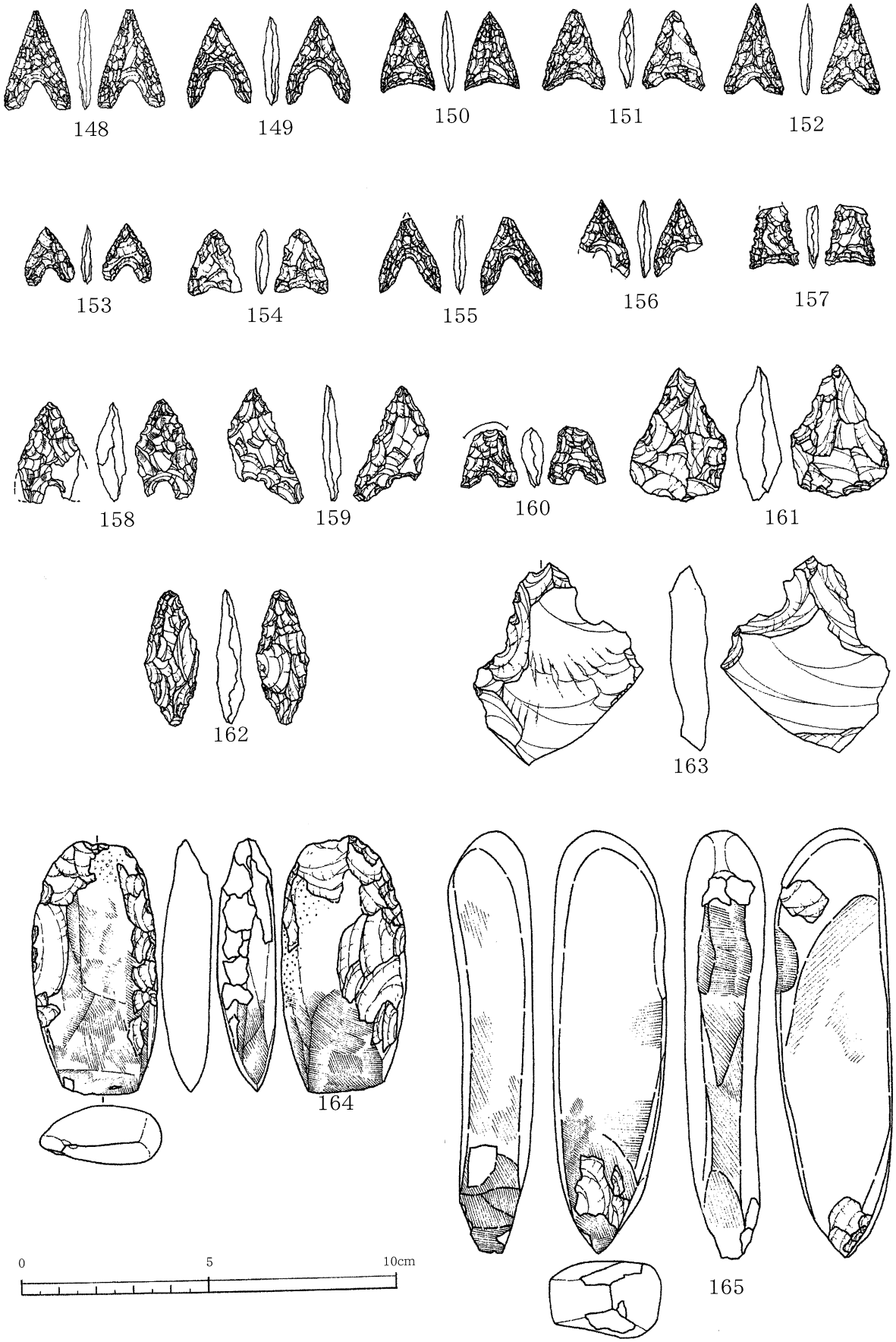
No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　調	胎　土	備考
106	第25図	VID	胴部	**外:** 縄文→刻目突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:中C:中D:多E:少F:少	
107	第25図	VID	胴部	**外:** 縄文→刻目突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR6/6 **内:** 橙7.5YR6/6	A:微C:中D:少E:中F:微	
108	第25図	VID	胴部	**外:** 工具による沈線・連点 **内:** 斜位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:中D:中E:少F:微	
109	第25図	VID	胴部	**外:** 刻目突帯貼付→波状沈線・沈線→連点 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:少C:多D:多E:少:微	
110	第25図	VID	胴部	**外:** 刻目突帯貼付・横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい黄橙10YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:微C:少D:中E:少	
111	第25図	VID	胴部	**外:** 横位ナデ→半竹管工具による連点 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** にぶい橙5YR6/4	A:少B:多C:中D:微E:中	
112	第26図	Ⅶ	胴部	**外:** 縦位撚糸文→工具による横位沈線 **内:** 丁寧なナデ	**外:** にぶい黄橙10YR7/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:中C:少D:多	
113	第26図	Ⅶ	胴部	**外:** 横位ナデ→刻目突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:多D:中E:少F:微	
114	第26図	Ⅷ	胴部	**外:** 粗雑な不定方向の条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:中D:多E:少F:微	
115	第26図	Ⅷ	胴部	**外:** 粗雑な不定方向の条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:少C:少D:中E:少	
116	第26図	Ⅷ	胴部	**外:** 叉状工具による斜位条痕 **内:** 条痕→ナデ	**外:** にぶい褐7.5YR6/3 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:中D:少H:中	
117	第26図	Ⅸ	口縁部	**外:** 押圧縄文 **内:** 条痕→ナデ	**外:** 褐灰5YR4/1 **内:** 黄灰2.5Y5/1	A:少C:中D:多	117～119は同一個体 胎土に繊維混入
118	第26図	Ⅸ	口縁部	**外:** 押圧縄文 **内:** ナデ	**外:** 灰白2.5Y8/2 **内:** 淡黄2.5Y8/3	A:少C:多D:特多F:微	117～119は同一個体 胎土に繊維混入
119	第26図	Ⅸ	口縁部	**外:** 押圧縄文 **内:** 条痕→ナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:少C:中D:特多	117～119は同一個体 胎土に繊維混入・外面に煤付着
120	第26図	Ⅸ	口縁部	**外:** 縄文 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:多D:中E:微F:微	口唇部に刻目
121	—	Ⅹ	口縁部	**外:** 貝殻腹縁刺突→横位貝殻腹縁押引 **内:** ナデ→横位撚糸文	**外:** 淡黄2.5Y8/3 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:中D:中F:微	C粗大
122	—	Ⅹ	口縁部	**外:** 棒状工具による連点・波状沈線 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:中C:多D:少E:中F:微	123と同一個体 口唇部に浅い刺突
123	—	Ⅹ	口縁部	**外:** 棒状工具による連点・波状沈線 **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙5YR7/6 **内:** 橙5YR7/6	A:中C:中D:中E:少F:微	122と同一個体 口唇部に浅い刺突
124	—	Ⅹ	口縁部	**外:** 横位条痕→ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR6/4 **内:** にぶい橙7.5YR6/4	A:多C:中D:多E:少F:微	煮こぼれ付着
125	—	Ⅹ	胴部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 黄橙10YR7/8 **内:** 灰黄7.5YR6/2	A:微C:多D:少	外面に朱が付着？
126	—	Ⅹ	胴部	**外:** 丁寧な斜位ナデ **内:** 横位条痕→丁寧な横位ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** 橙5YR6/6	C:少D:特多F:微H:少	

表6　出土土器観察表 (6)

胎土(A:角閃石 B:雲母片 C:白色粒 D:長石 E:砂粒 F:赤褐色粒 G:黒曜石片 H:パミス)　　(特多:特に多量 多:多量 中:中量 少:少量 微:微量)

No.	平面分布図	分類	部　位	調　　整	色　　調	胎　　土	備考
127	—	X	胴部	**外:** 横位ミガキ **内:** 横位ケズリ→丁寧なナデ	**外:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 灰黄2.5Y7/2	A:微C:少D:特多F:微	
128	—	X	口縁部	**外:** 横位ナデ→突帯貼付 **内:** 横位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/3	A:多C:少D:多	
129	—	X	胴部	**外:** 横位貝殻条痕→ナデ **内:** 横位条痕→ナデ→刷毛目	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** 灰黄褐10YR6/2	A:微C:多D:少E:微F:微	
130	—	X	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 横位ナデ	**外:** 浅橙5YR8/4 **内:** 浅黄橙7.5YR8/4	C:微D:微E:特多F:少	
131	—	X	口縁部	**外:** 丁寧な横位ナデ **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 橙7.5YR7/6 **内:** 橙7.5YR7/6	A:微C:中E:中F:中	
132	—	X	口縁部	**外:** 丁寧な横位ナデ **内:** 丁寧な横位ナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 淡黄2.5Y8/4	A:多C:少D:多	
133	—	X	口縁部	**外:** 横位ナデ **内:** 布目圧痕→指押さえ・ナデ	**外:** 浅黄橙7.5YR8/6 **内:** 浅黄橙7.5YR8/6	C:少E:少F:微	
134	—	X	胴部	**外:** 平行タタキ **内:** 同心円当具痕	**外:** 灰オリーブ5Y6/2 **内:** 灰5Y5/1	C:微	須恵器
135	—	X	口縁部	**外:** 回転横位ナデ→横位沈線 **内:** 回転横位ナデ→縦位沈線	**外:** にぶい赤褐2.5YR5/3 **内:** 灰赤2.5YR5/2	A:微C:多	擂り鉢
136	—	X	蓋部	**外:** 回転ヘラケズリ→施釉 **内:** 施釉	**外:** 灰5Y6/1 **内:** 黒褐2.5Y3/1	C:少	
137	—	XI	底部	**外:** 横位条痕 **内:** ナデ	**外:** 橙5YR6/6 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:中C:多D:多E:少F:少	C粗大 底面ミガキ
138	—	XI	底部	**外:** ナデ **内:** 調整なし	**底:** 浅黄2.5Y7/3 **内:** 浅黄橙10YR8/4	A:少C:多D:中E:中F:少	C粗大
139	—	XI	底部	**外:** 丁寧なナデ **内:** 丁寧なナデ	**底:** 橙7.5YR7/6 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:多D:多F:微	
140	—	XI	底部	**外:** ミガキ→工具による刺突 **内:** ナデ→粗雑なナデによる底部との接着	**外:** 橙5YR6/8 **内:** 橙5YR6/6	A:少C:多D:多	底面に深い刺突 C粗大
141	—	XI	底部	**外:** ナデ **内:** ナデ	**底:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 浅黄2.5Y7/3	A:中C:中D:少E:微	C粗大
142	—	XI	底部	**外:** 斜位条痕 **内:** 横位ナデ	**外:** にぶい橙7.5YR7/4 **内:** にぶい橙7.5YR7/4	A:中C:多D:中E:中F:微	
143	—	XI	底部	**外:** 斜位条痕 **内:** ナデ→粗雑なナデによる底部との接着	**外:** にぶい黄橙10YR7/4 **内:** にぶい黄橙10YR7/3	A:微C:少D:少E:少	
144	—	XI	底部	**外:** 斜位条痕 **内:** 斜位ナデ	**外:** 橙5YR7/8 **内:** にぶい黄橙10YR7/4	A:多C:少D:多E:少F:微	
145	—	XI	底部	**外:** ナデ **内:** —	**外:** にぶい橙5YR6/4 **内:** —	A:少C:多D:中E:少F:少	
146	—	XI	底部	**外:** 斜位条痕 **内:** 斜位ナデ	**外:** 黄橙7.5YR7/6 **内:** 浅黄橙7.5YR8/4	A:少C:中D:中E:少	
147	—	XI	底部	**外:** ミガキ **内:** 丁寧なナデ	**外:** 淡黄2.5Y8/4 **内:** 黄灰2.5Y6/1	A:少C:特多D:多E:少H:中	底面ミガキ

表7　出土土器観察表(7)



第19図　出土石器実測図(1)

表８　集石遺構観察表

No.	礫の範囲(m)	掘込みの深さ(m)	礫密度	配石	炭化物	分類
SI-01	1.88×1.22	0.26	密	×		Ⅱ
SI-02	0.92×0.78	0.15	密	○		Ⅲ
SI-03	1.04×0.99	0.17	疎	×	○	Ⅱ
SI-04	1.06×0.99	0.17	密	×		Ⅱ
SI-05	1.02×0.81	0.18	疎	×		Ⅱ
SI-06	0.83×0.59	0.15	疎	×		Ⅱ
SI-07	1.22×1.19	0.2	疎	×		Ⅱ
SI-08	1.28×1.19	0.15	疎	×		Ⅱ
SI-09	—	—	—	—		—
SI-10	1.35×1.01	0.18	密	×	○	Ⅱ
SI-11	1.71×0.90	0.3	疎	×		Ⅱ
SI-12	1.23×1.05	0.29	密	×		Ⅱ
SI-13	2.05×1.89	0.18	疎	×		Ⅱ
SI-14	1.28×1.26	0.15	密	×		Ⅱ
SI-15	1.49×1.10	0.23	密	×		Ⅱ
SI-16	1.44×1.04	0.26	密	×		Ⅱ
SI-17	—	—	—	—		—
SI-18	1.17×1.05	0.23	密	×		Ⅱ
SI-19	0.95×0.78	0.12	疎	×		Ⅱ
SI-20	0.83×0.66	0.14	疎	×		Ⅱ
SI-21	0.77×0.74	0.18	密	×		Ⅱ
SI-22	1.31×1.04	0.18	疎	×		Ⅱ
SI-23	1.56×1.31	0.23	疎	×		Ⅱ
SI-24	0.98×0.87	0.15	疎	×		Ⅱ
SI-25	0.90×0.53	0.15	疎	×		Ⅱ
SI-26	—	—	—	—		—

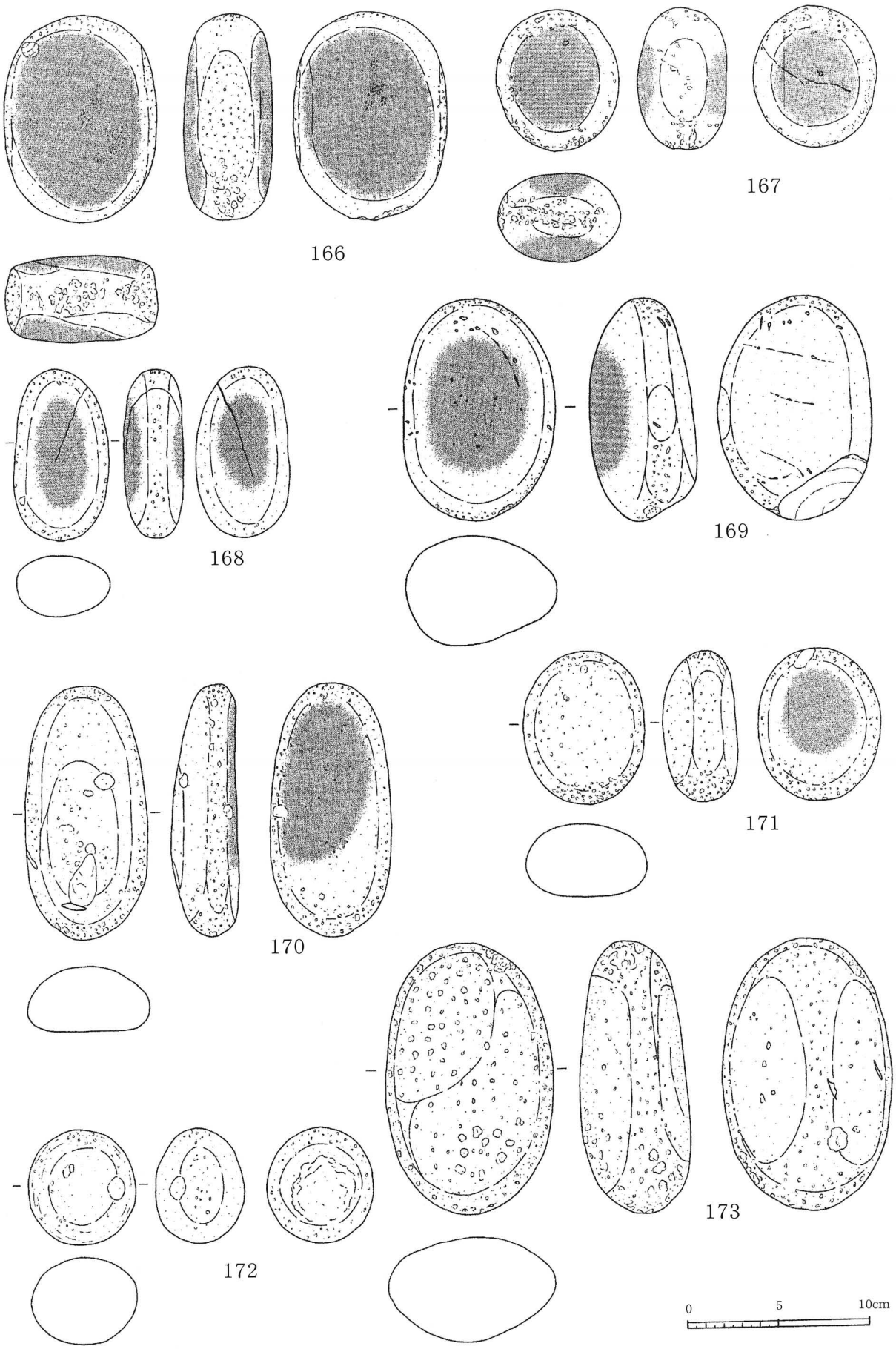
＊「分類」の概念は　八木澤一郎　1994『南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No, 8の基準に従った。

表９　出土石鏃観察表

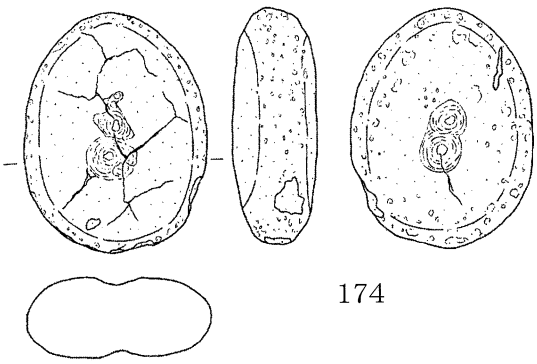
No.	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石　　材	欠損部位
148	2.6	1.8	0.7	良質チャート	尖・片脚部
149	2.35	1.7	0.9	良質チャート	尖端部
150	2.15	1.45	0.2	ホルンフェルス	片脚部
151	2.15	1.7	0.3	安山岩質	
152	2.4	1.6	0.4	安山岩質	
153	1.6	1.3	0.45	安山岩質	片脚部
154	1.75	1.4	0.2	砂岩	
155	—	1.6	0.95	良質チャート	
156	2.05	1.4	0.7	良質チャート	
157	—	1.35	0.15	ホルンフェルス	
158	2.7	—	0.5	黒曜石Ａ	
159	3.1	2.6	0.6	良質チャート	片脚部
160	—	1.55	0.35	良質チャート	片脚部

表10　出土磨石観察表

No.	石材名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	敲打痕	研磨痕
166	砂岩	11.3	8.4	4.9	800	周縁及び両面	両面
167	尾鈴酸性岩	7.7	6.7	4.8	370	周縁	両面
168	砂岩	9.3	5.2	3.2	250	周縁	両面
169	砂岩	12.2	8.3	5.8	800	両端部及び片面	片面
170	砂岩	14	6.7	3.7	480	ほぼ全面	片面
171	砂岩	8.4	6.7	4	310	周縁及び片面	片面
172	砂岩	6.3	5.8	4.9	250	周縁	無
173	砂岩	15	9.2	5.9	1000	全面	無



第20図　出土石器実測図(2)



第21図　出土石器実測図(3)

刃部調整は行われない。

石斧（第19図164）

1点出土した。堆積岩を両縁から剥離した後、刃部には研磨を、柄にあたる部分には敲打を行い仕上げたものである。

磨石（第20図166～173）

約30点出土した。ここでは、うち8点を掲載した。具体的な観察結果は表10のとおりである。

凹み石（第21図174）

平坦面に使用による凹みがあることから、磨石とは区別した。凹みは、両面の中央部にそれぞれ2箇所並んでいる。周縁には敲打痕が明確に認められる。

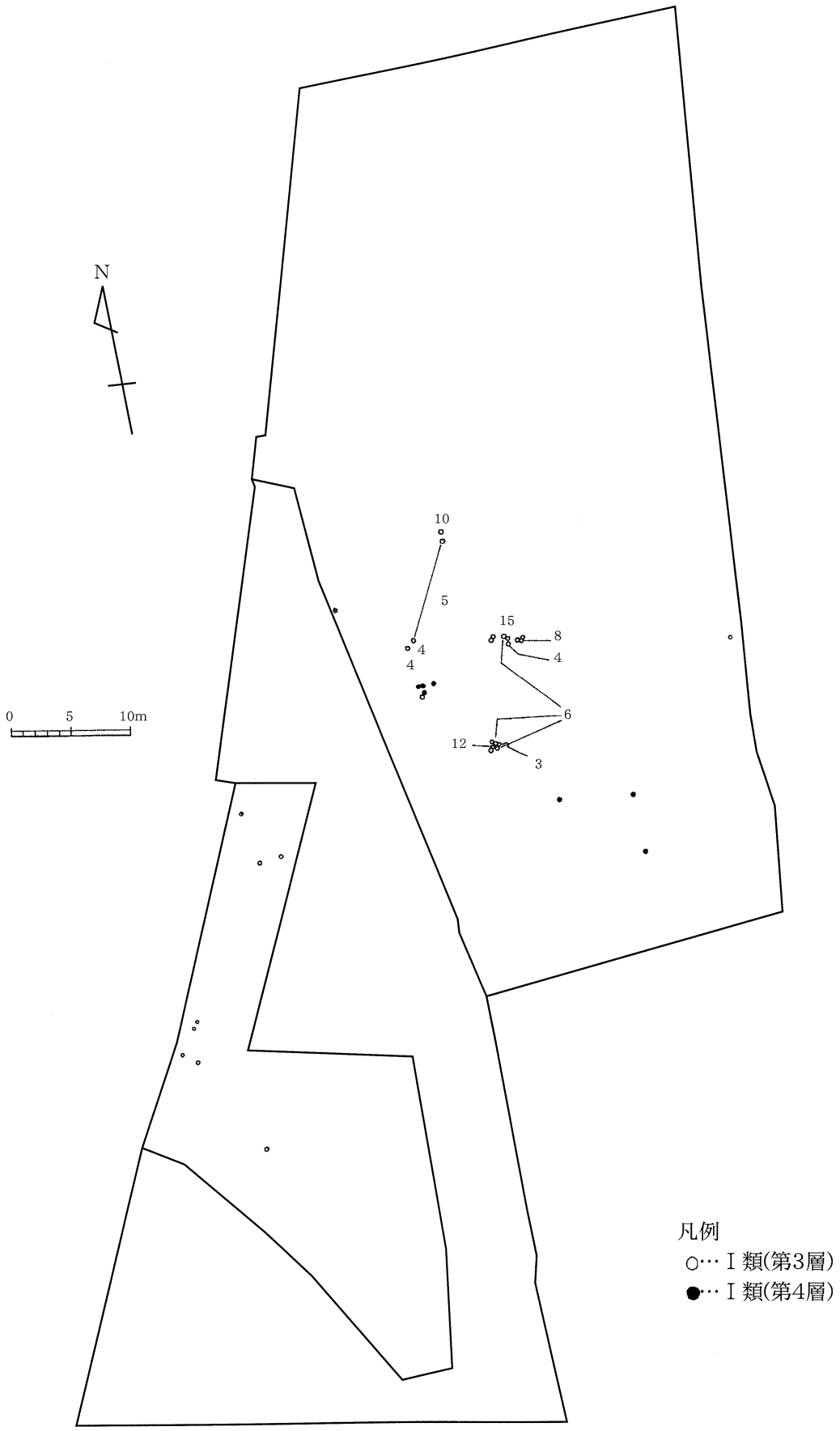
抉入片刃石斧（第19図165）

棒状の円礫を用い端部に側縁から面的な剥離を行い、更に研磨を行うことにより、刃部を作出する。研磨は片側の側縁にも顕著に行われ、柄がずれないよう、ストッパーも設けられている。弥生時代に使用された石斧の一種(註3)であるが、北部九州で見られるれるものよりも、研磨による成形が希薄であり、原礫の形状に大きな変更はない。アカホヤ火山灰層の上面で確認された。

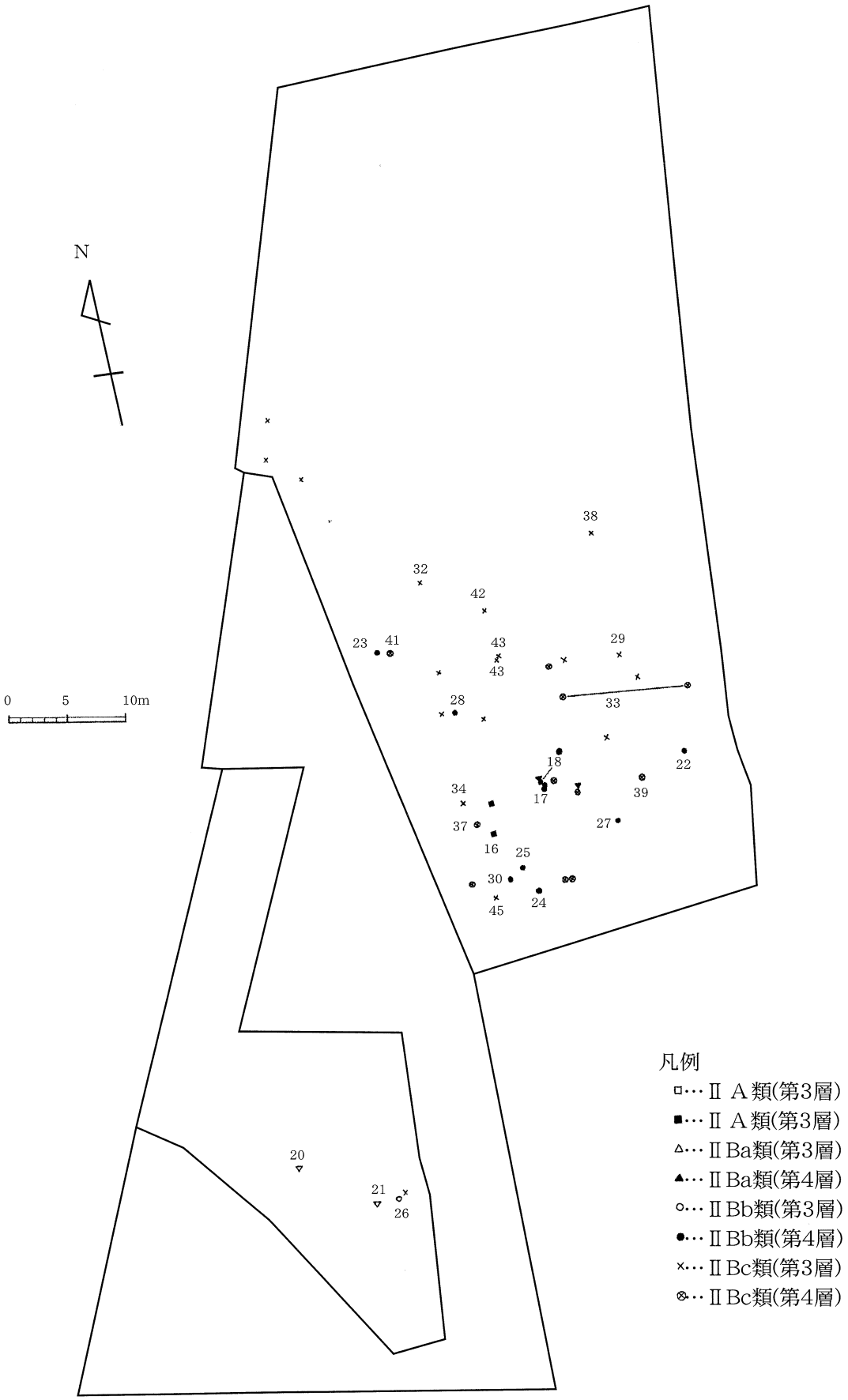
第5節 小結

前ノ原第2遺跡からは、幅広い年代の生活跡が確認された。

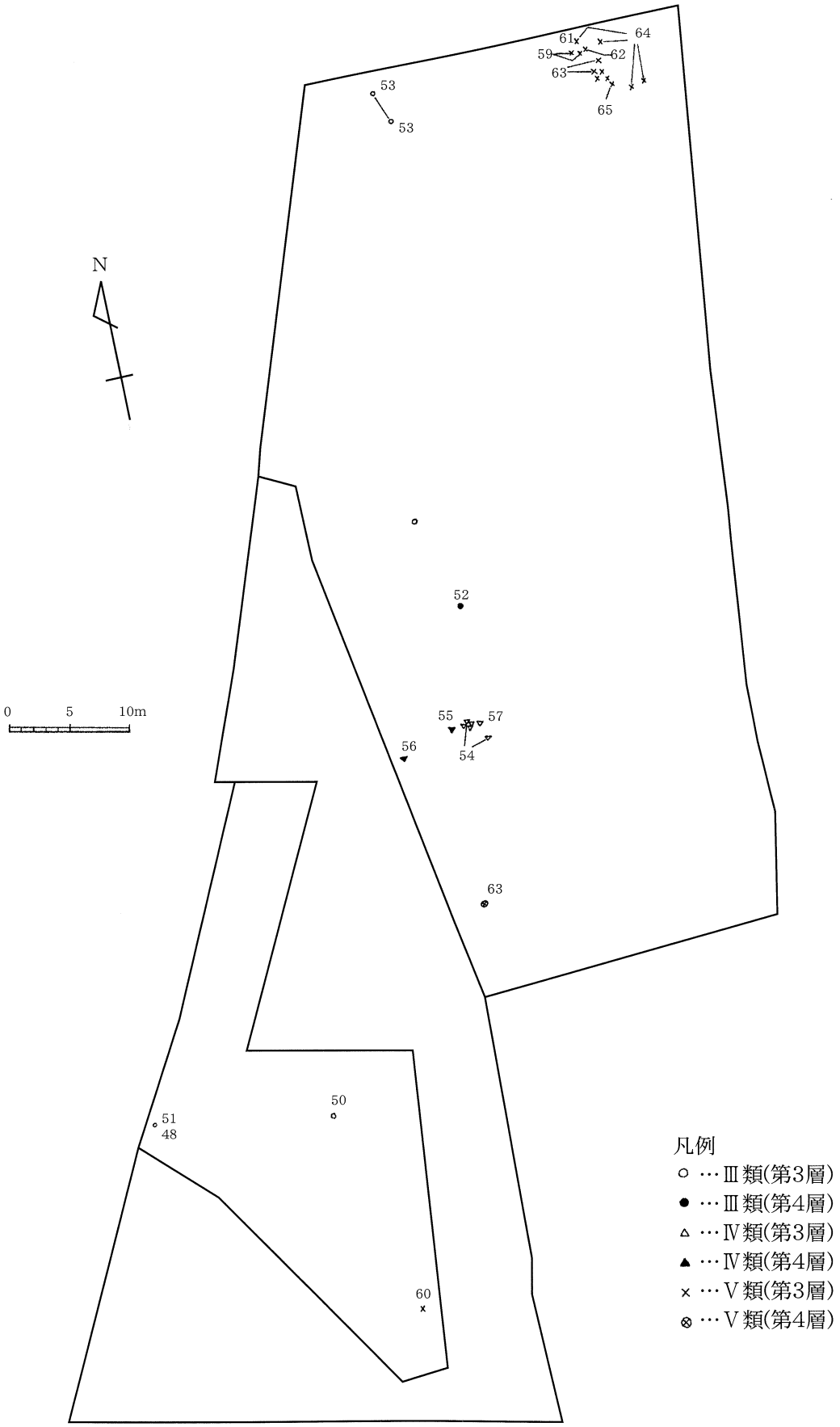
最も古い年代は縄文時代早期であり、早期の前葉から末にかけて、長期間にわたる集落が営



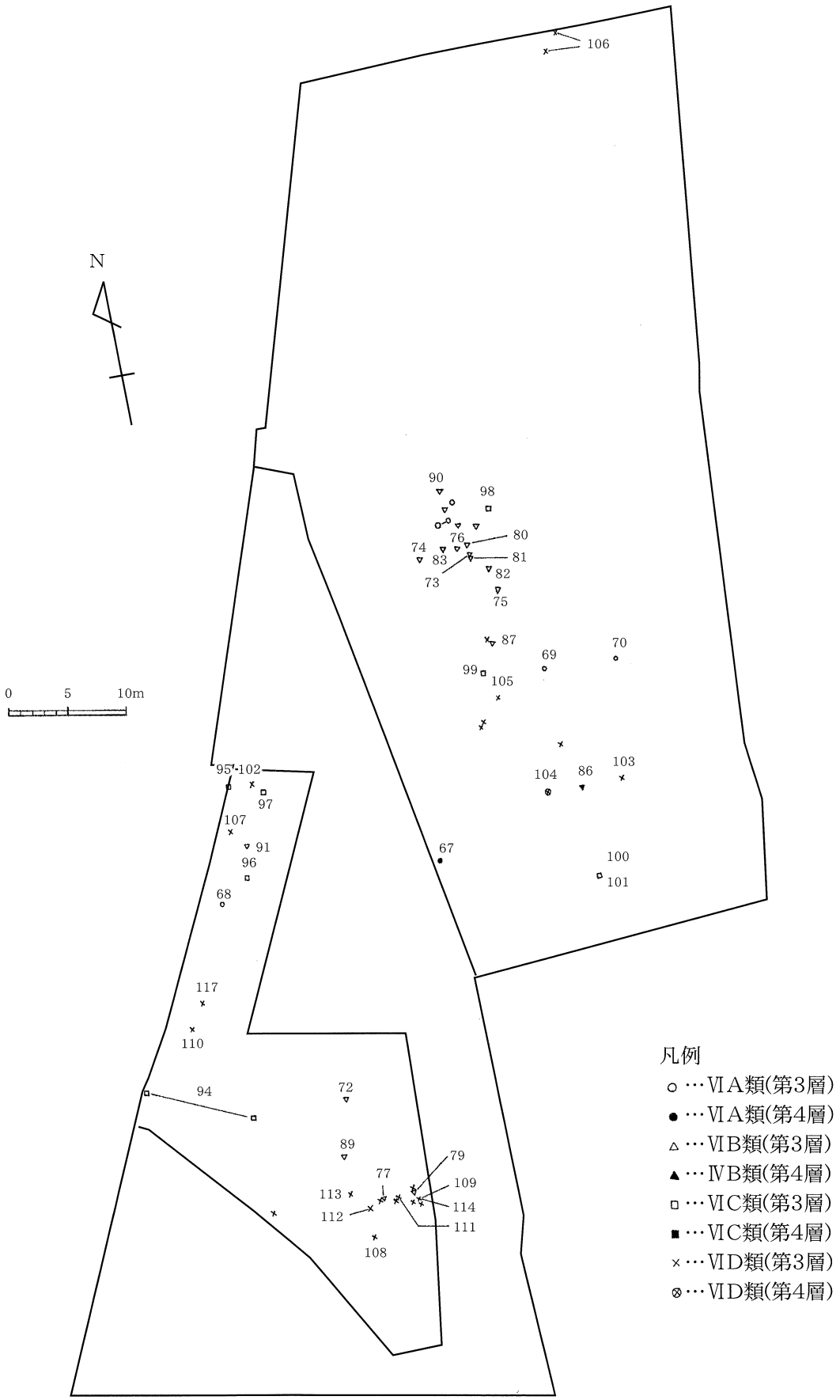
第22図　出土土器平面分布図(Ⅰ類)



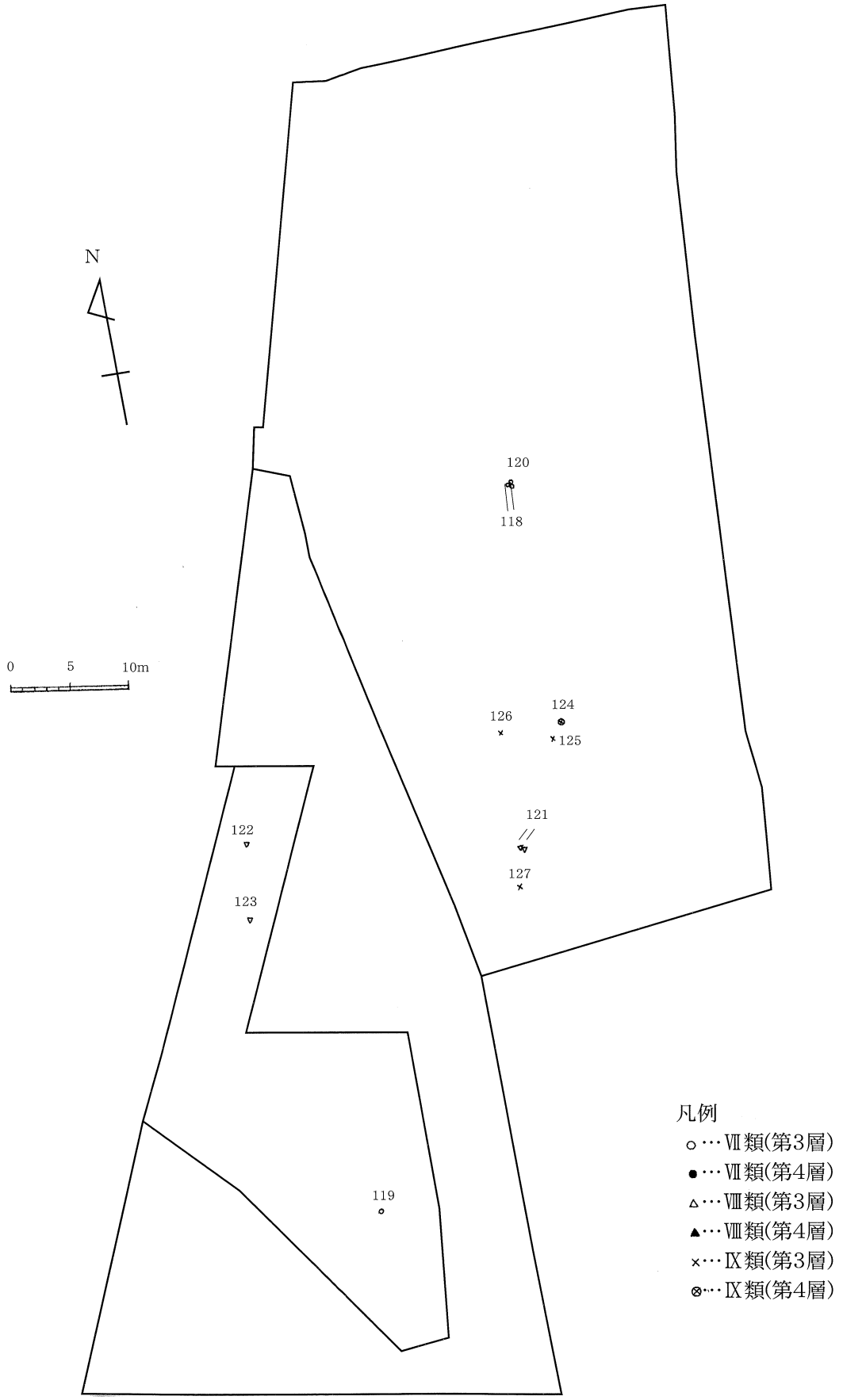
第23図　出土土器平面分布図(Ⅱ類)



第24図　出土土器平面分布図(Ⅲ～Ⅴ類)



第25図　出土土器平面分布図(Ⅵ類)



第26図　出土土器平面分布図(Ⅶ～Ⅸ類)

まれていたことが明らかとなった。中でも、早期前葉の前平式と、後葉の平栫式の出土量は多く、集落の規模が比較的大きかったことを窺わせる。一方、早期中葉の土器群は、中原Ⅲ・Ⅳ式が一個体出土するのみであり、集落の縮小が考えられる。

調査区内からは検出された集石遺構は26基に上る。形態的には、殆どが掘り込みを伴い、底石を配置しない、八木澤氏の分類ではⅡ類にあたるものである(註4)。また、磨石も約30点出土している。このような出土状況は、縄文時代早期を通して、この地点が集落内における調理場であったことを物語っている。なお、石製品に目を向けると、石鏃が8点しか出土せず、調査区内から出土する剥片も極めて少量であることから、石器の製作場は、調査区外に設けられていたと想定される。

生活跡は、縄文時代早期以降も見受けられる。アカホヤ火山灰層の上面からは、縄文後～晩期の土器や、弥生時代の遺物が少量出土し、古代の布痕土器も確認されている。また、時期不明ながら、柱穴と考えられるピット群も検出されている。アカホヤ火山灰層の上層が殆ど削平されていたために詳細は不明であるが、縄文時代早期以降も、たびたび集落が形成されていたことが窺える。

註

1：上田　耕・桑畑光博　1997「宮崎県内の抉状耳飾」『南九州縄文通信』No.11

2：熊本県教育委員会　1996「蒲生・上の原遺跡」『熊本県文化財調査報告書』第158集

3：甲元真之・山崎純男　1984『弥生時代の知識』東京美術

4：八木澤一郎　1994「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No.8

図版1

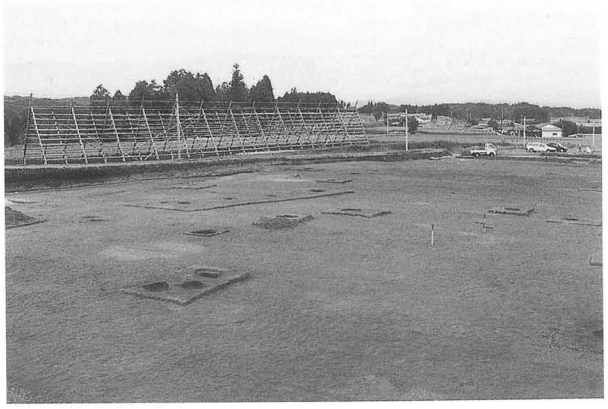
鹿村野台地　航空写真（南から）

図版2

調査区近景

調査区近景

調査区近景

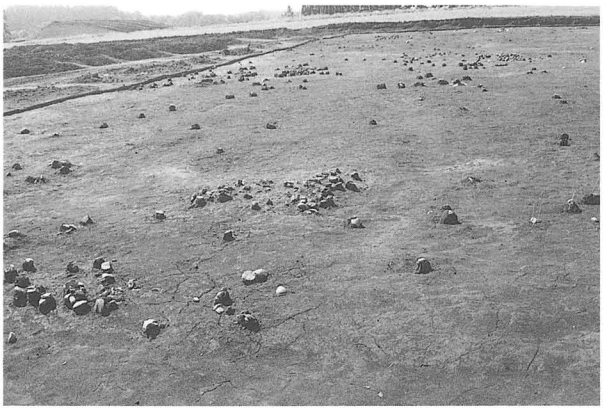


調査区近景

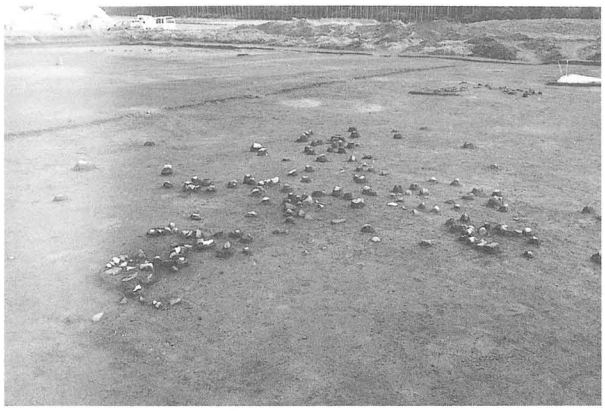
ピット群検出状況

ピット群検出状況

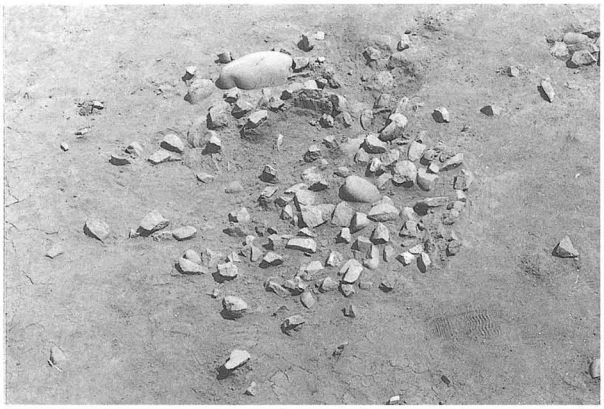
図版3



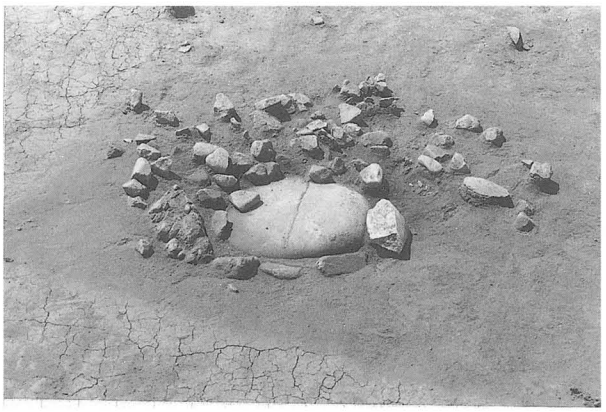
礫群　検出状況



礫群　検出状況

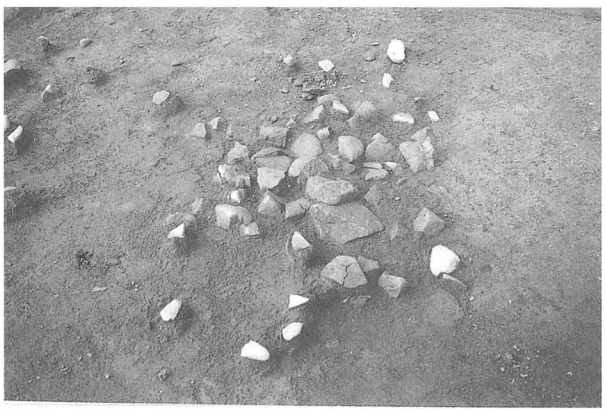


SI-01　検出状況



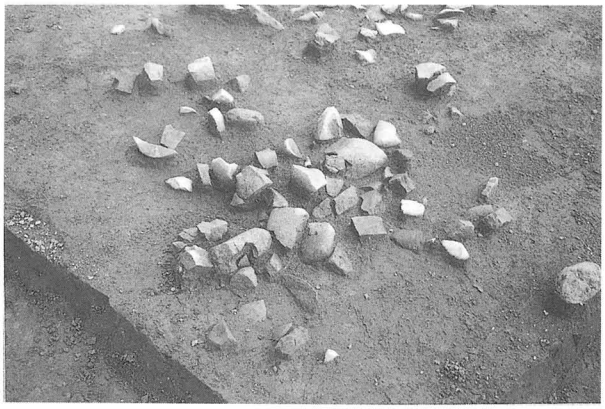
SI-02　検出状況

SI-03　検出状況



SI-04　検出状況

SI-05　検出状況

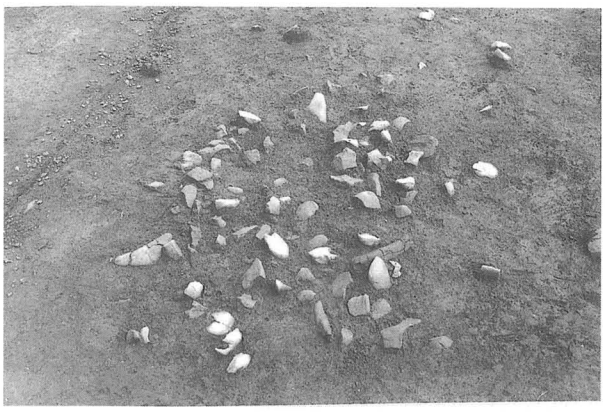


SI-06　検出状況

SI-10　検出状況

SI-11　検出状況

SI-13　検出状況

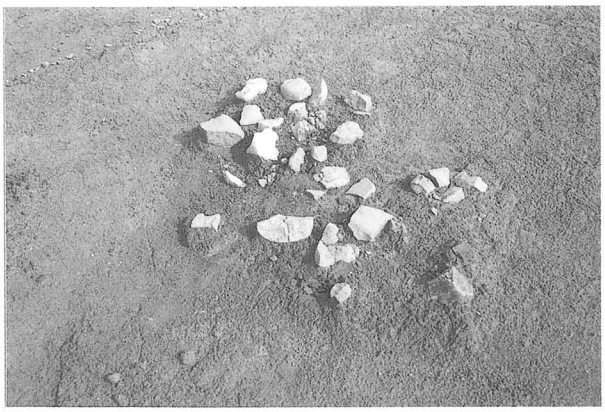


SI-16　検出状況

図版5

SI-18　検出状況

SI-19　検出状況



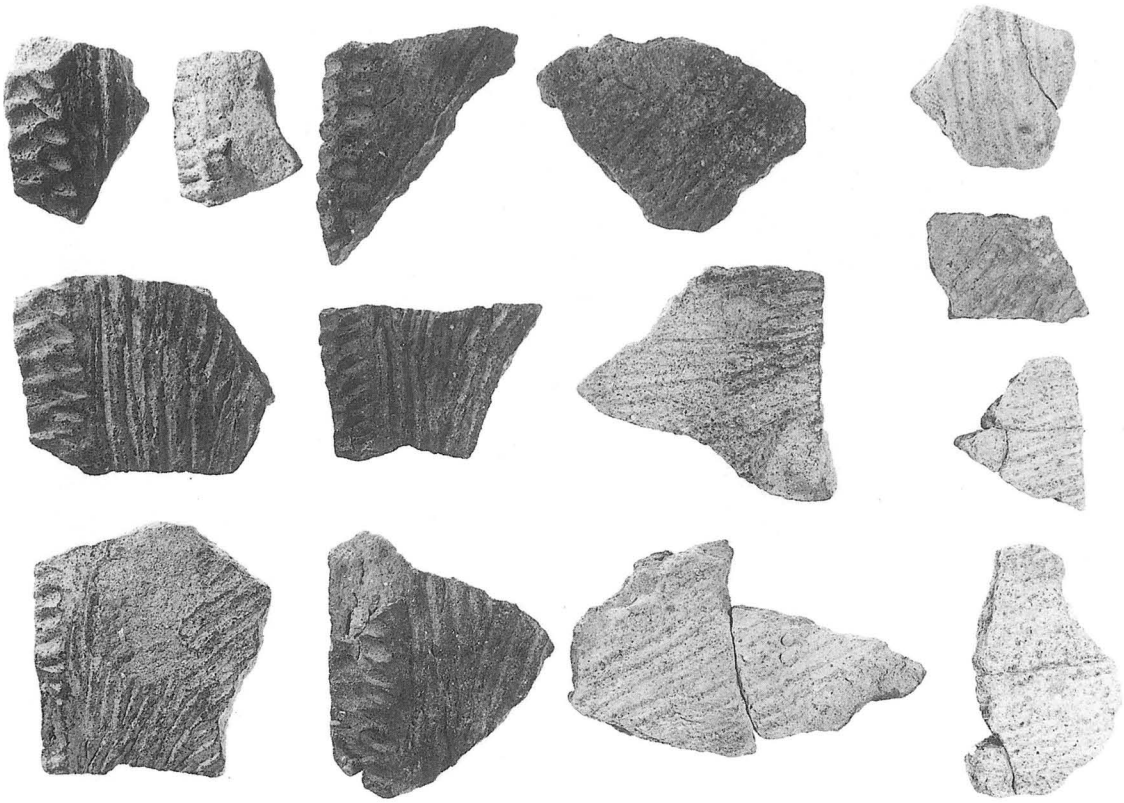
SI-21　検出状況

SI-22　検出状況

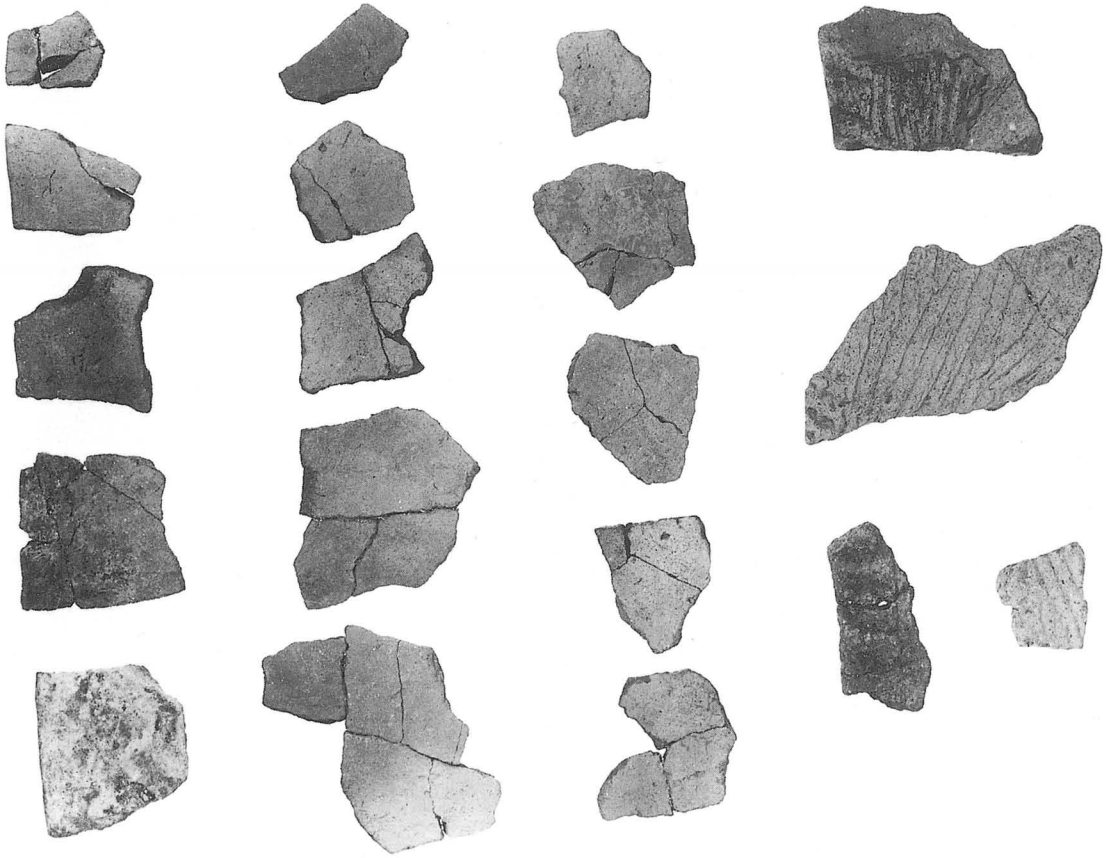
SI-23　検出状況

SI-24　検出状況

図版6

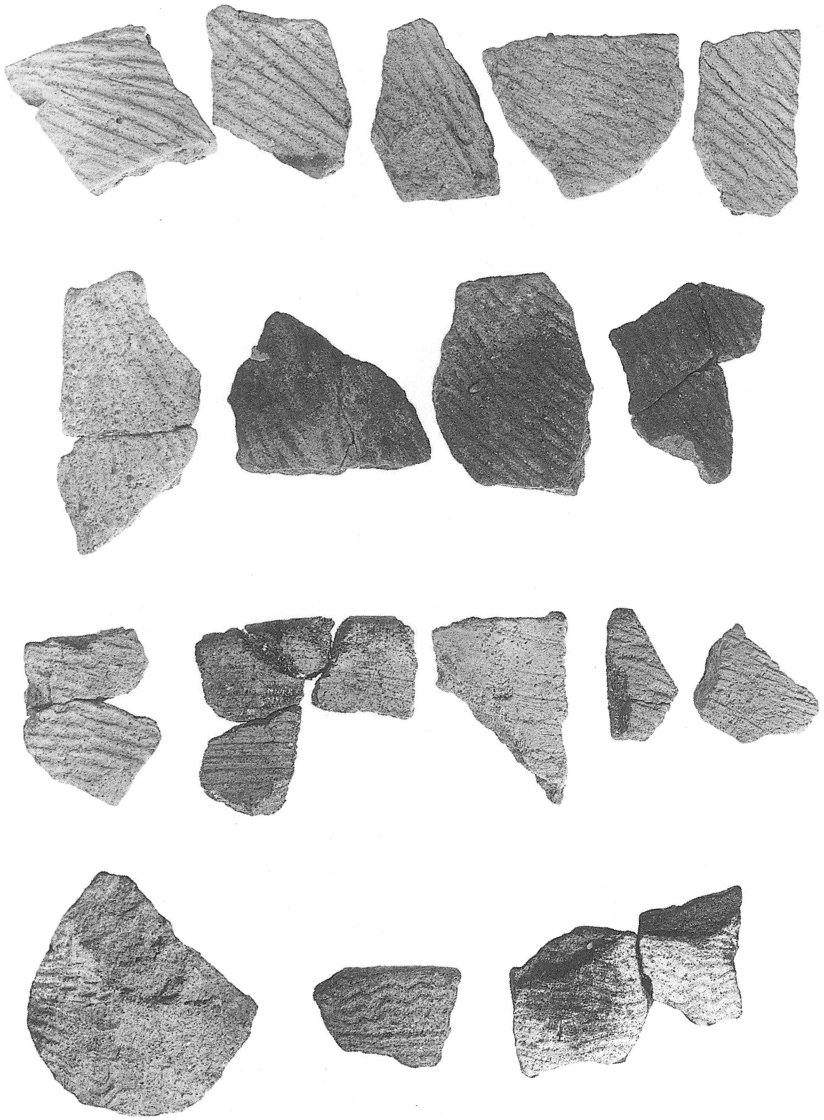


出土土器(ⅡBb・ⅡBc類)



出土土器(Ⅰ・ⅡA・ⅡBa類)

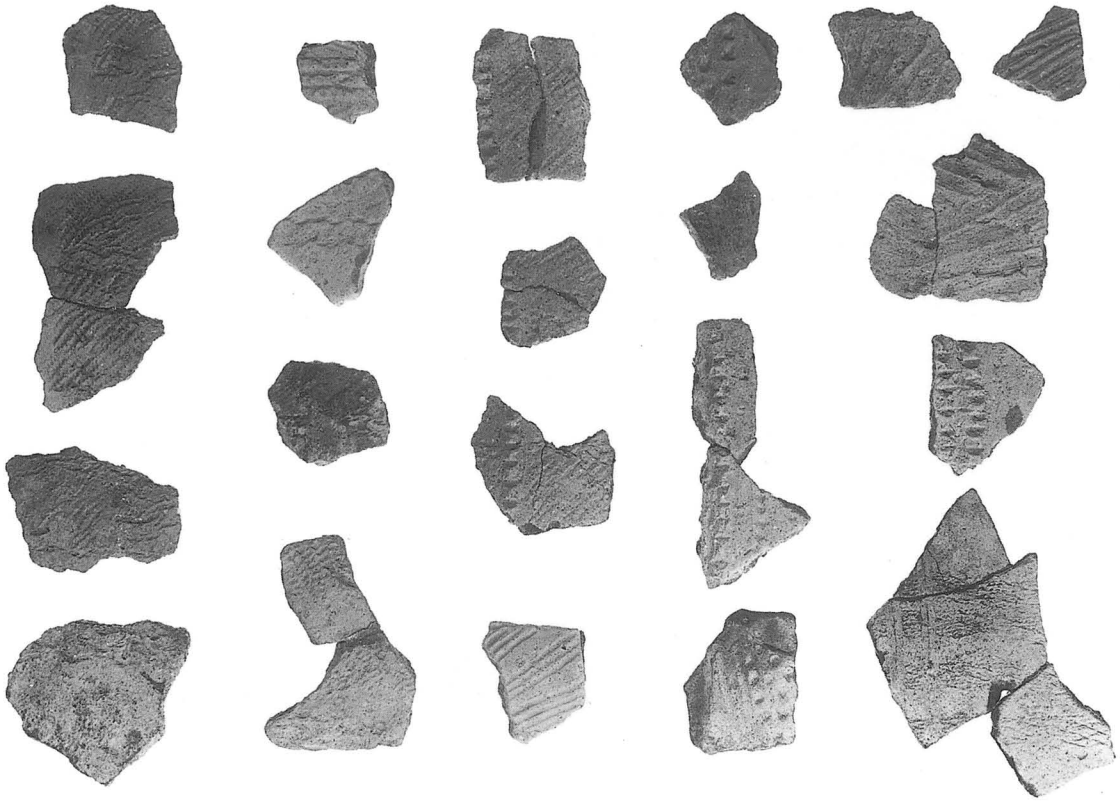
図版7



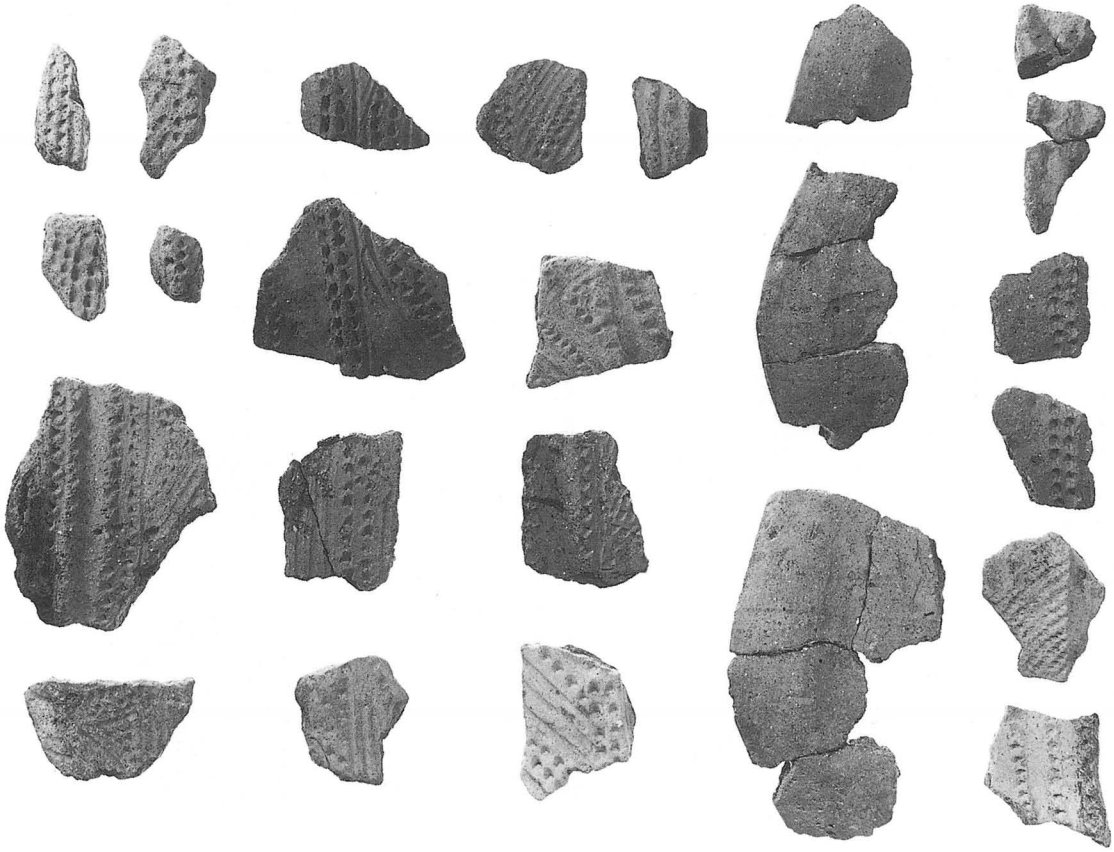
出土土器(ⅡBc・Ⅲ・Ⅳ類)

出土土器(Ⅴ・ⅥA・ⅥB類)

図版8



出土土器(ⅥD・Ⅶ・Ⅷ類)



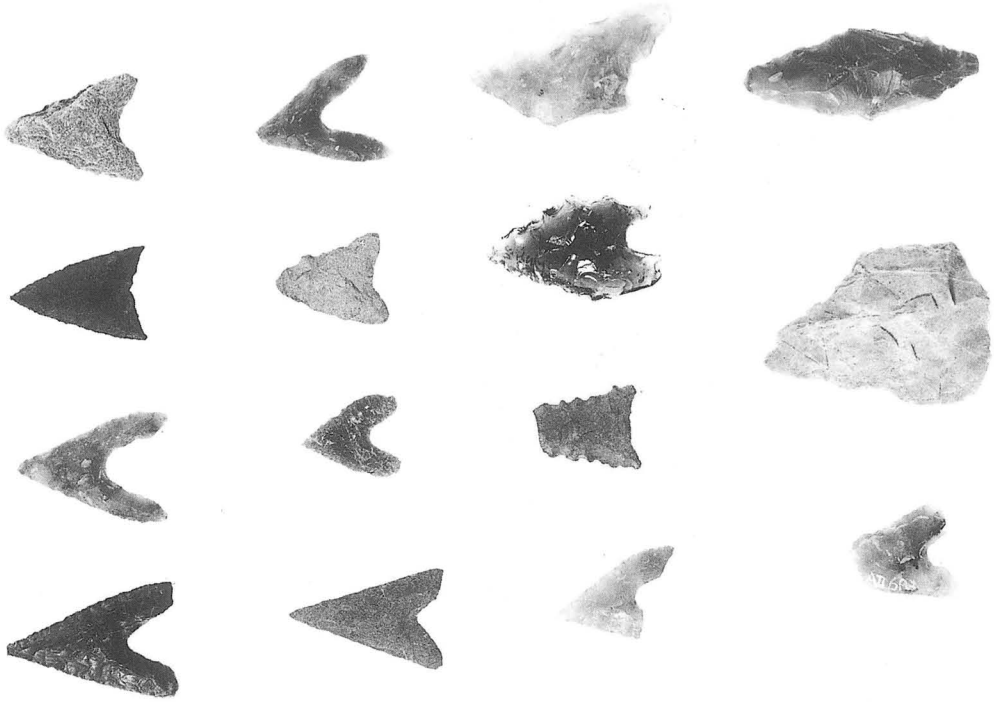
出土土器(ⅥB・ⅥC類)

図版9

出土土器(XⅠ類)

出土土器(Ⅸ・Ⅹ類)

図版10

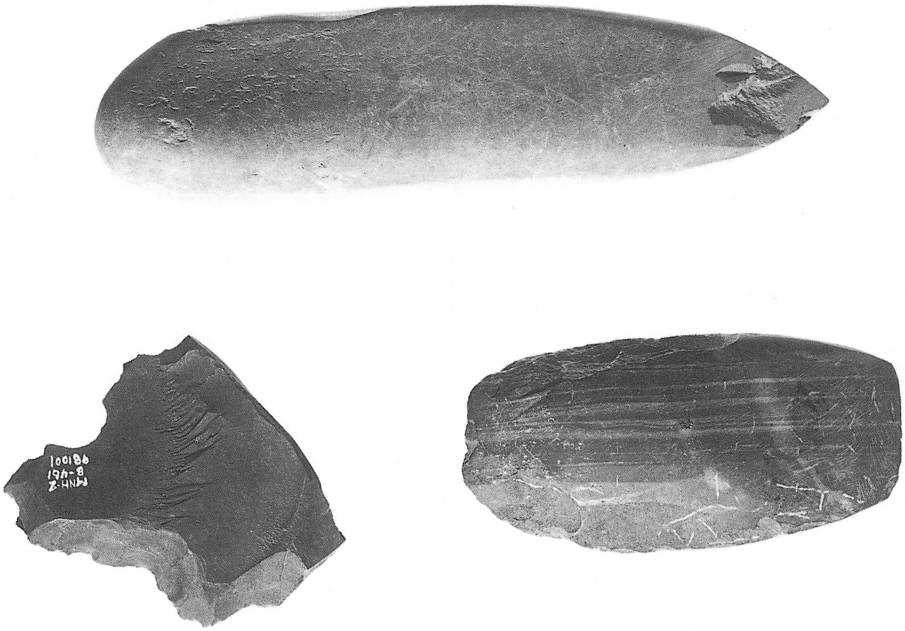


出土石器(石鏃ほか)

出土土器(上からⅡA・Ⅲ・Ⅳ・X類)

図版11

出土石器(磨石・凹石)



出土石器(剥片・石斧)

第Ⅲ章　ズクノ山第１遺跡

第１節 調査の概要

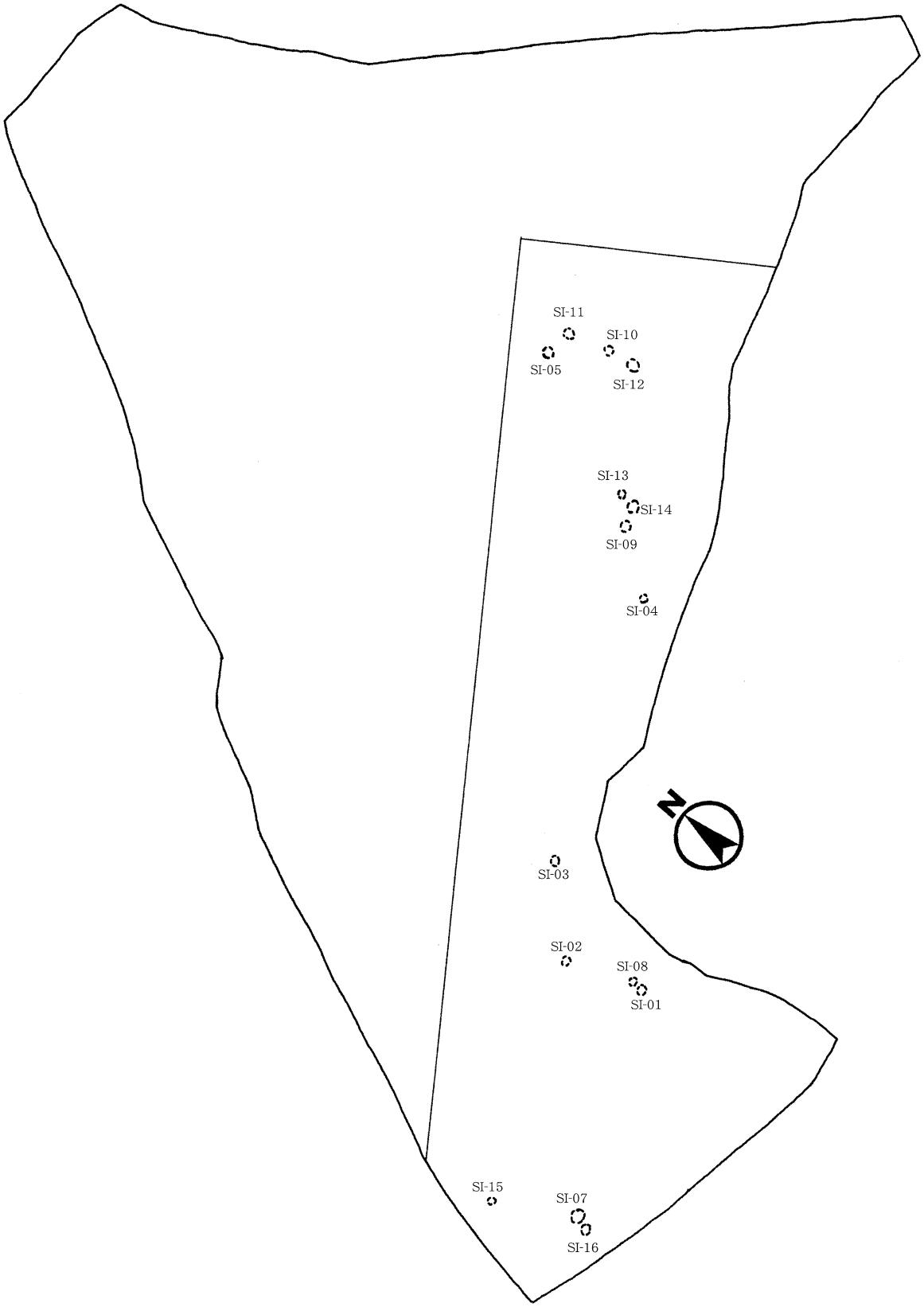
遺跡は黒北川の右岸にあたる鹿村野地区台地上の北部にある。この河川との高低差は60mを越え、特に北端側はシラス堆積層の侵食等により断崖絶壁ともいえる地形を形成している。遺跡の東側には、やはりシラスの侵食により形成されたと見られる谷地形を挟んでズクノ山第２遺跡Ｅ区が所在し、谷部においては湧水やそれに伴う「水穴」と呼ばれる空洞が数箇所確認された。調査は高低差約５ｍを有するやや緩やかな斜面上に営まれた畑地のうち、工事施工からの影響を免れないと判断された約5,650㎡を対象として実施した。

調査を実施するにあたり、宮崎県文化課による事前試掘調査のデータを基に、主にアカホヤ堆積層より下部の縄文時代早期包含層及び遺構検出を想定していた。しかし、耕作土を除去した時点で、弥生時代の竪穴住居跡が発見されたため、急きょ同時代の集落跡調査を行うこととなった。検出面はアカホヤ火山灰堆積層と縄文時代早期の遺物包含層である暗褐色硬質土層上面までを対象とした。これは畑地開墾等の影響により既に一部のアカホヤ層が滅失していたからである。調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡35軒のほか、時期は確定できなかったが掘立柱建物も３軒検出された。調査の大半は弥生時代出土資料の記録作業に費やすこととなり、縄文時代早期についてはその分布域をトレンチ調査で絞り込み、必要最小限の区域のみを調査した。約15基の集石遺構が検出されたが、遺物の出土は少量にとどまった。

調査区内の層序は、上層から①耕作土層②黄橙色土層③アカホヤ火山灰堆積層④暗褐色硬質土層⑤褐色土層を基本とし、④⑤が縄文時代早期の遺物包含層にあたる。②については弥生時代の遺物も出土するが、③の腐食土層または二次堆積層である可能性もあり、プライマリーな遺物包含層であるかは疑わしい。調査区の北端及び北東部で堆積が見られる。これらの層は東側の谷と微高地を隔てたズクノ山第２遺跡などとは土色標記が異なるが、②を除いてほぼ各遺跡調査区と共通するものである。

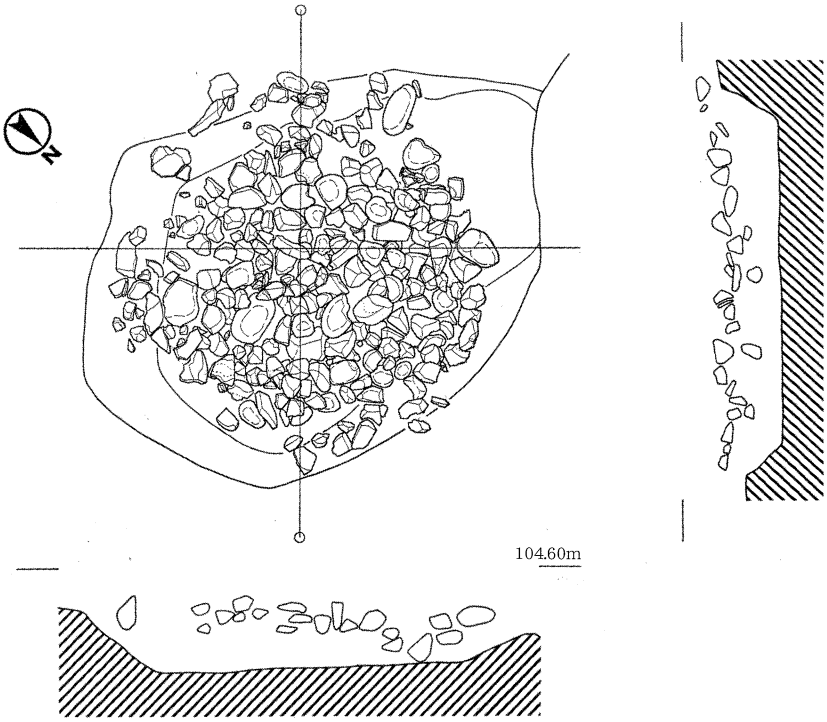
第２節 縄文時代早期の遺構と遺物

主に調査区南及び南東の、アカホヤ層直下にあたる褐色硬質土層中及びその下層の褐色土層中において15基の集石遺構を検出した。大半が土坑を伴い、焼礫の出土状況は密なものと疎らなものがある。受熱による破砕のためか、各礫は拳大前後の小ぶりのものが大半であった。遺構内からの良好な出土遺物も無い。同期の包含層からは貝殻条痕文系・押型文土器・手向山式土器・塞ノ神式土器・苦浜式土器・轟Ⅰ式土器などが出土している。これらのことから、集石遺構の時期は早期と考えられるが、検出層位からみて、やや時期の下る押型文土器以降のものと判断できよう。その他詳細については、機を得て再度報告したい。

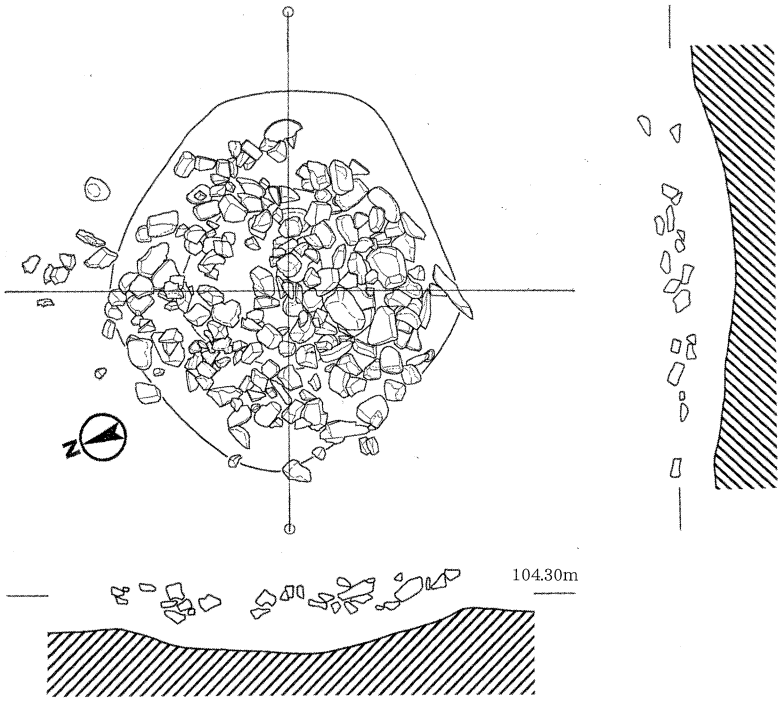


第1図　集石遺構分布図(S＝1/500)

SI-01

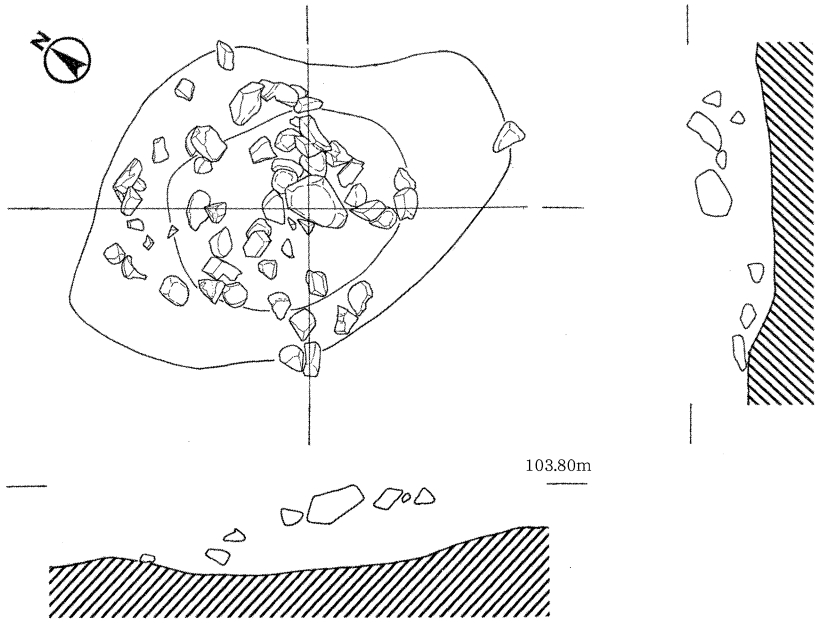


SI-02

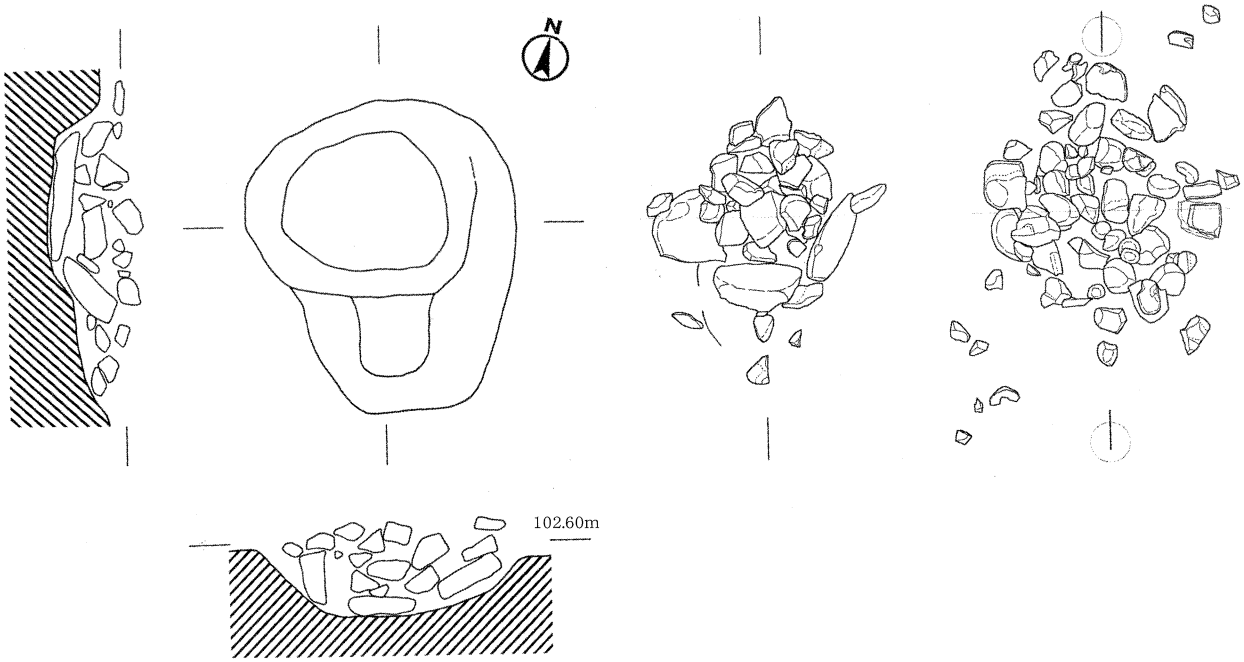


第2図　集石遺構実測図（S＝1/20）

SI-03

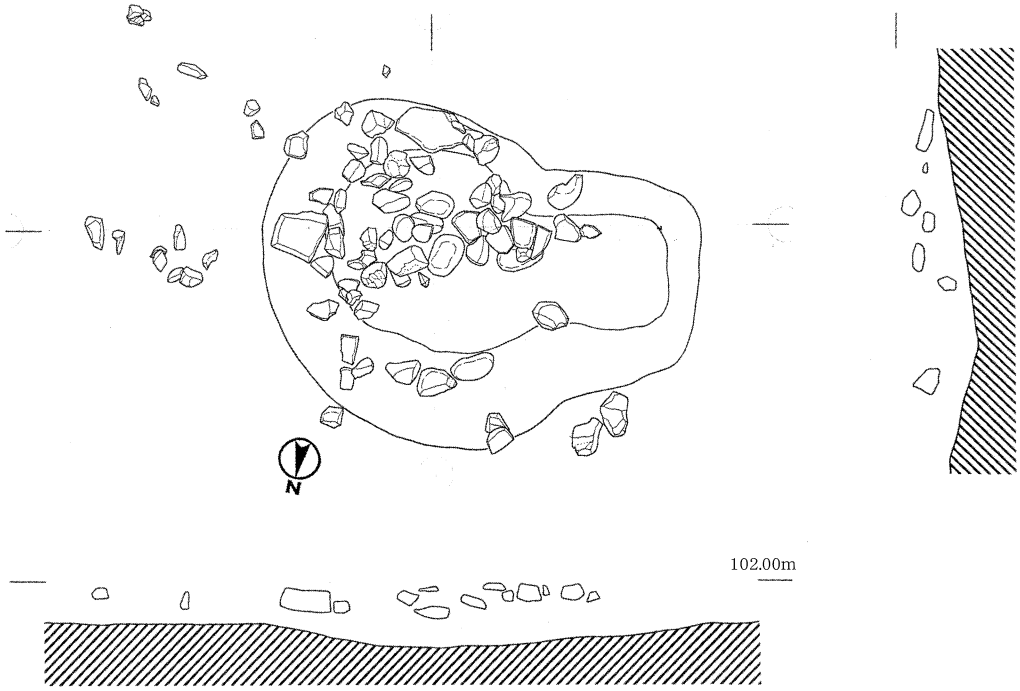


SI-04

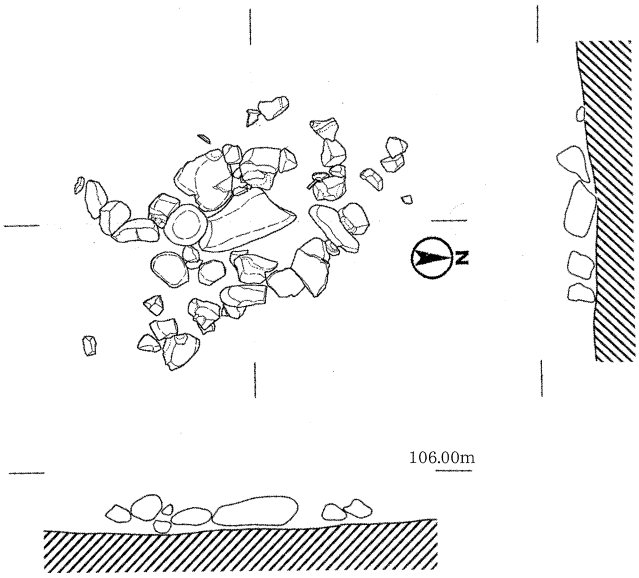


第3図　集石遺構実測図 (S=1/20)

SI-05



SI-06

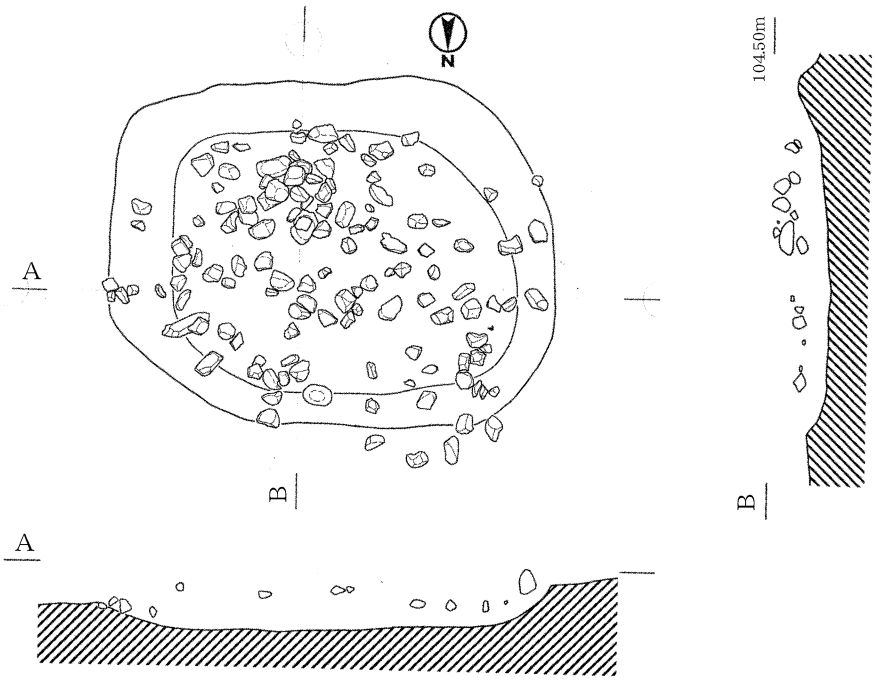


第4図　集石遺構実測図（S＝1/20）

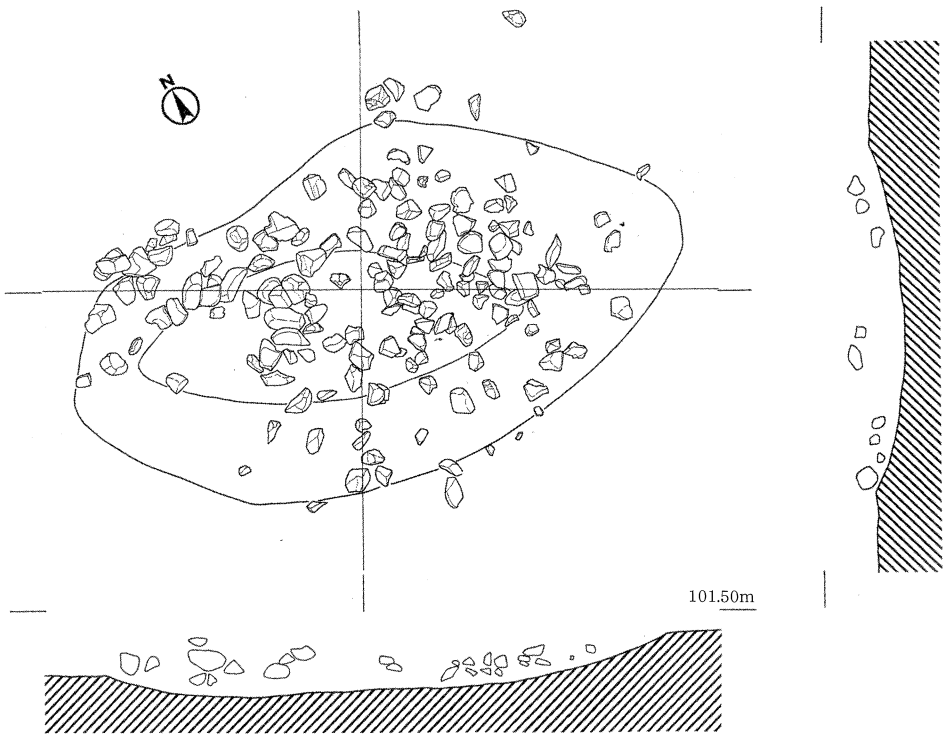
SI-07

第5図　集石遺構実測図 (S=1/20)

SI-08



SI-09



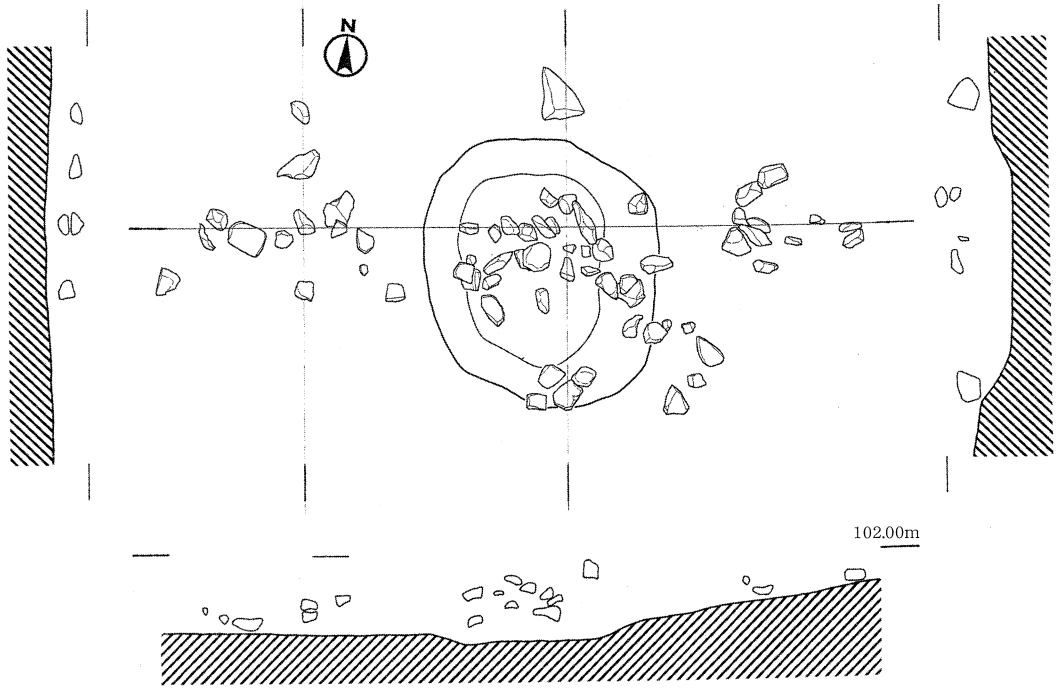
第6図　集石遺構実測図（S＝1/20）

SI-10

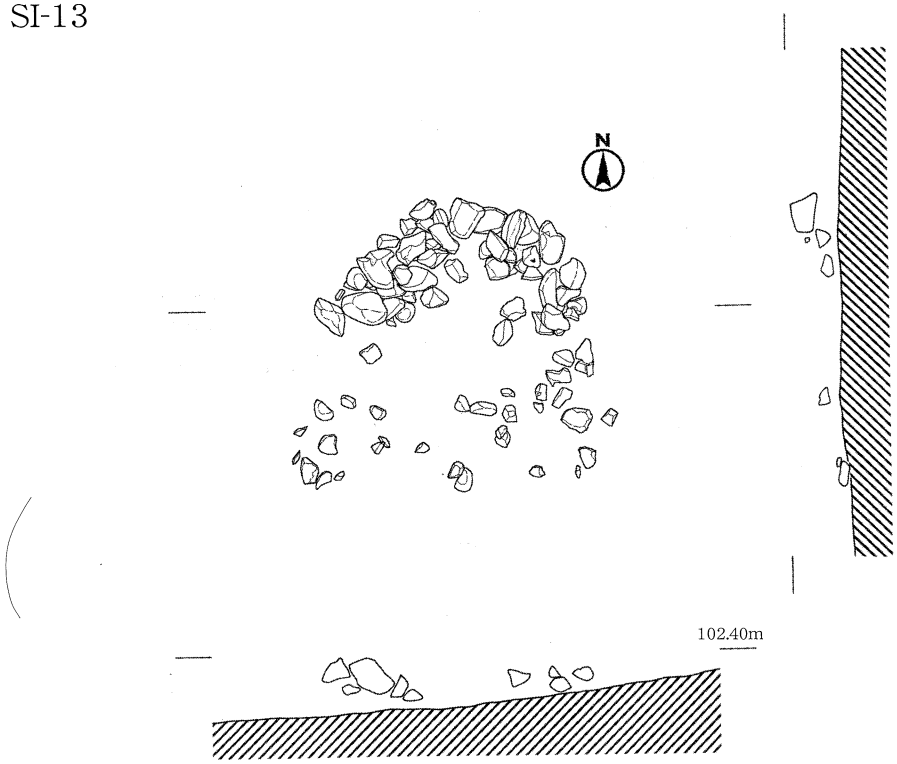
SI-11

第7図　集石遺構実測図 (S=1/20)

SI-12

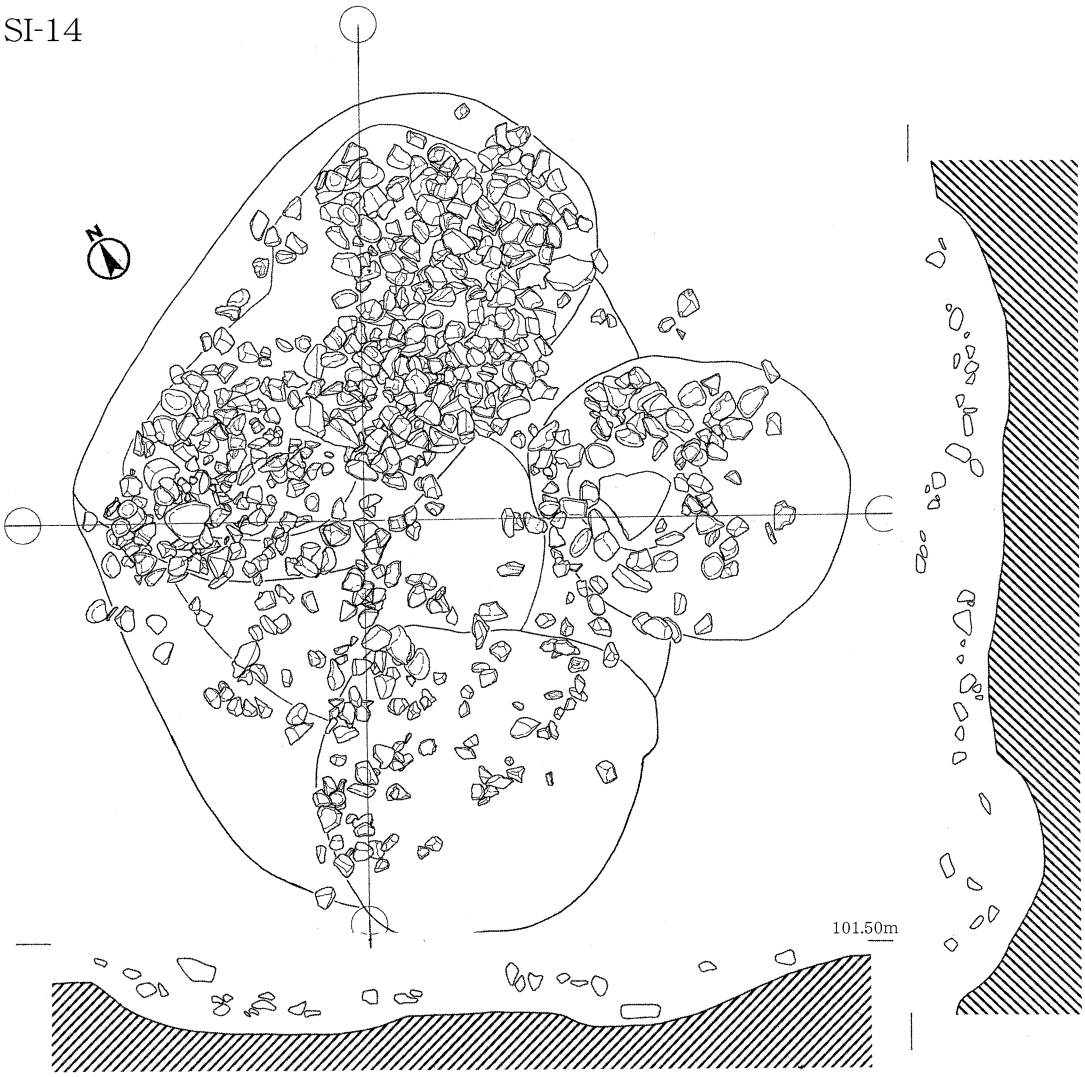


SI-13

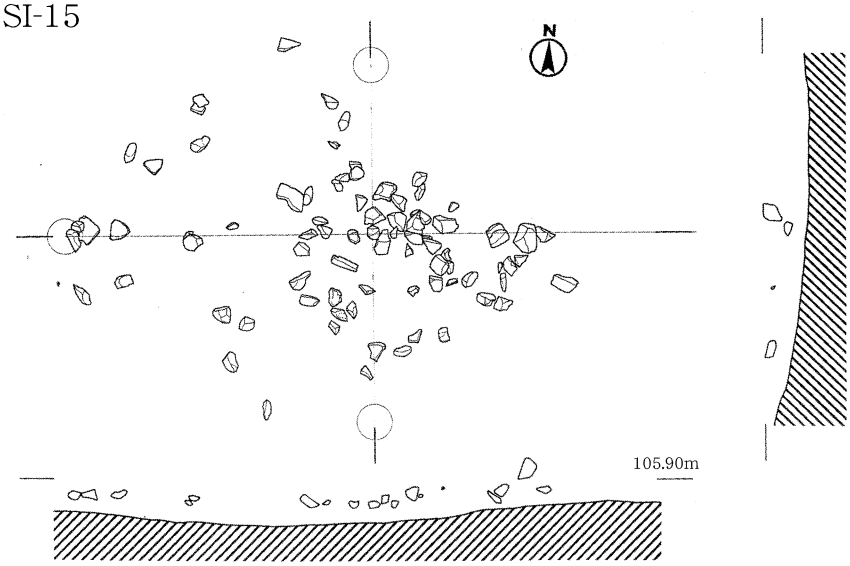


第8図　集石遺構実測図（S＝1/20）

SI-14



SI-15

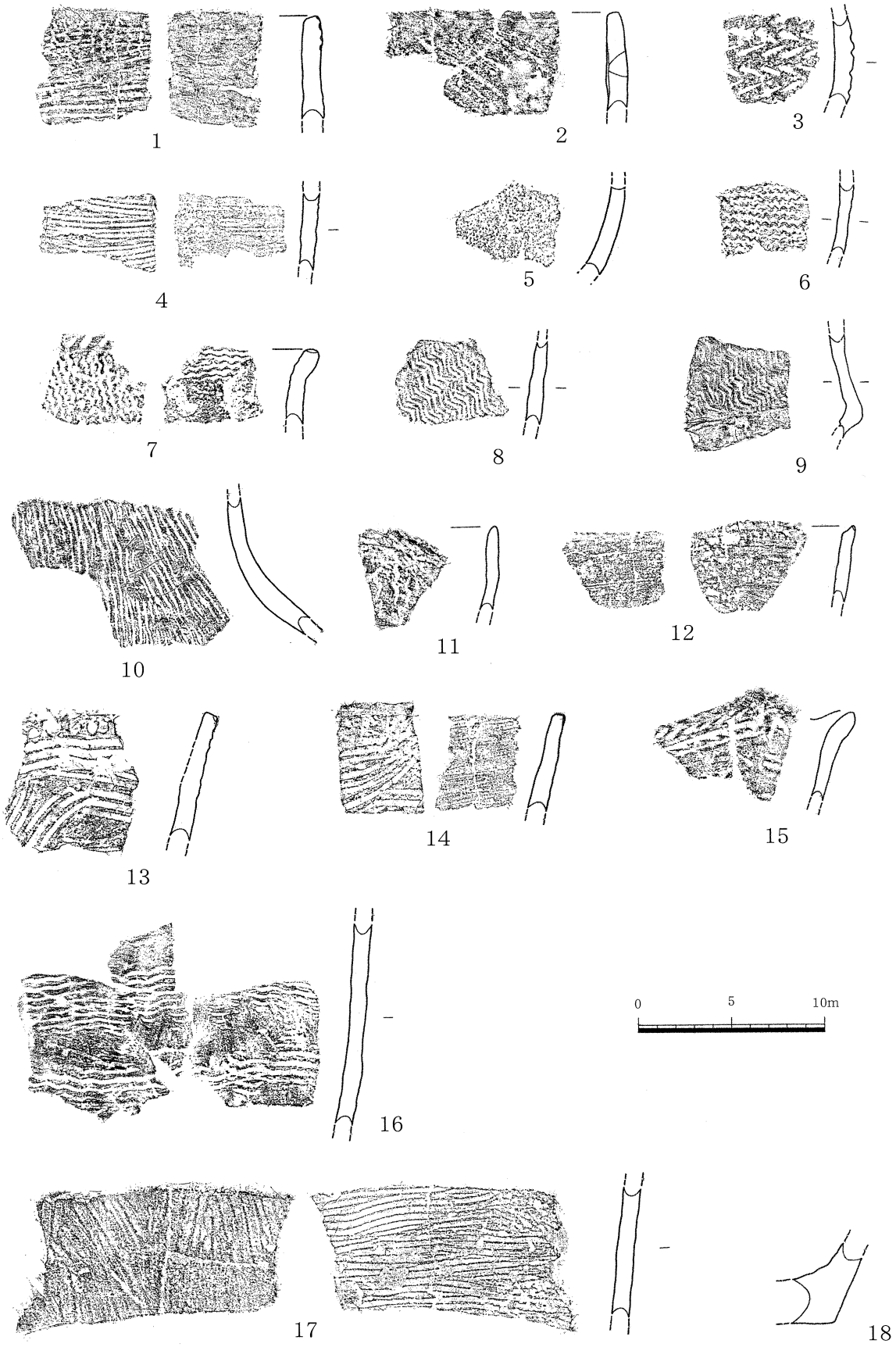


第9図　集石遺構実測図 (S=1/20)

表1　包含層出土土器観察表

胎土(A:雲母片　B:長石　C:砂粒　D:白色粒)（多:多量　中:中量　少:少量　微:微量）

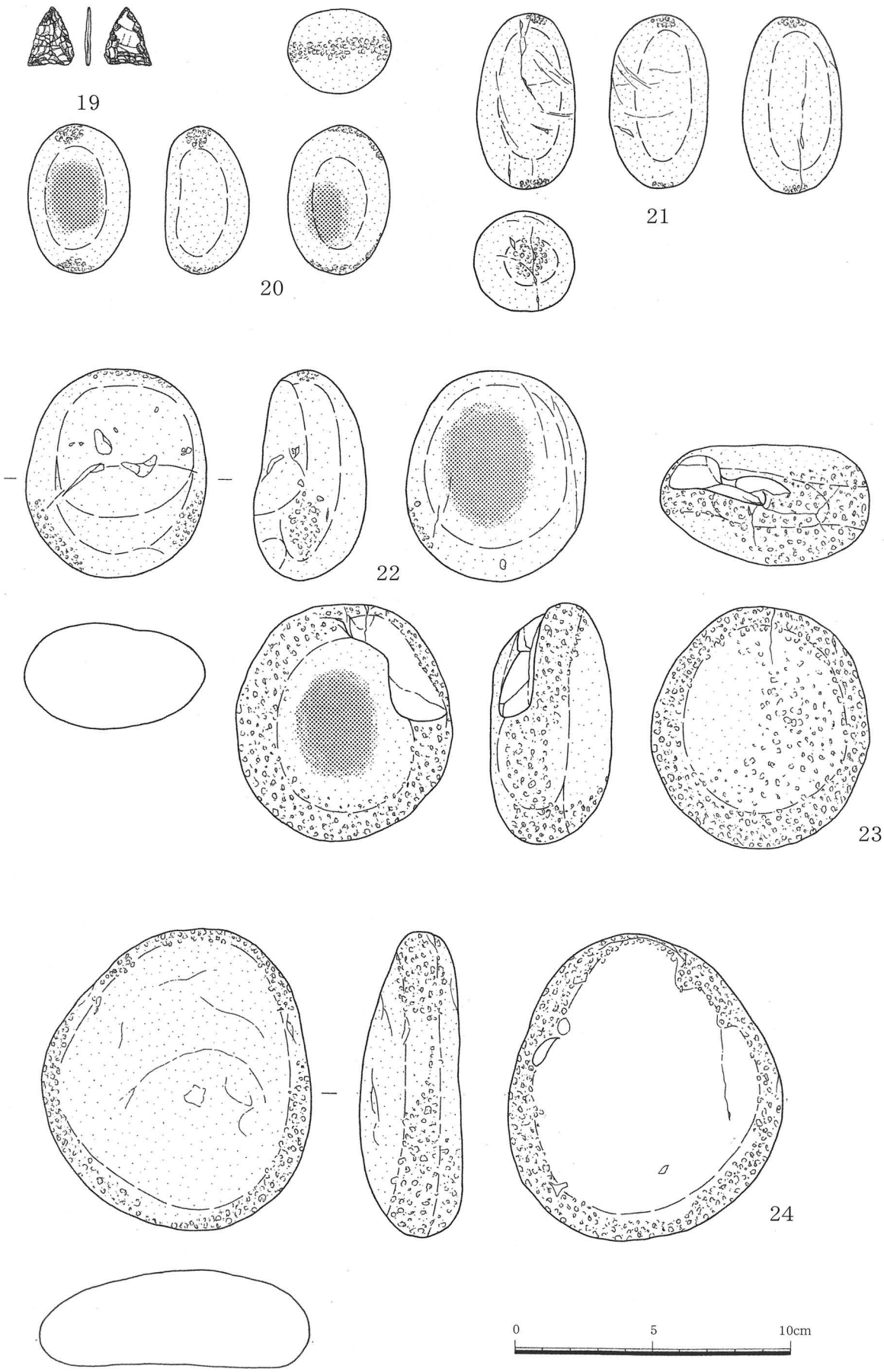
図面番号	遺物番号	部　位	調　　整	色　　調	胎　土	備考
10	1	口縁部	**外:** 横位の貝殻押引文、条痕文 **内:** 条痕のちｹｽﾞﾘ	**外:** 浅黄(2.5Y7/3) **内:** 暗灰黄 (2.5Y5/2)	D:微	
10	2	口縁部	**外:** 斜位の条痕 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄橙(10YR6/3) **内:** にぶい黄橙(10YR7/3)	C:多	
10	3	胴部	**外:** ー **内:** ｹｽﾞﾘ	**外:** にぶい黄橙(10YR6/3) **内:** 灰黄褐(10YR5/2)	C:中	
10	4	胴部	**外:** 横位条痕文 **内:** 条痕	**外:** 橙(7.5YR7/6) **内:** にぶい黄褐(10YR5/3)	B:少C:微	
10	5	胴部	**外:** 押型文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄橙(10YR7/3) **内:** にぶい黄褐(10YR5/3)	B:微C:中	
10	6	胴部	**外:** 横位の山形押型文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄橙(10YR6/3) **内:** 灰黄褐(10YR5/2)	A:微C:少	
10	7	口縁部	**外:** 縦位の山形押型文 **内:** 横位の山形押型文	**外:** 橙(7.5YR6/6) **内:** にぶい赤褐(5YR5/4)	B:微C:中	
10	8	胴部	**外:** 縦位の山形押型文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄褐(10YR5/3) **内:** にぶい褐(7.5YR5/4)	A:少C:少	
10	9	胴部	**外:** 縦位の山形押型文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄褐(10YR5/3) **内:** にぶい褐(7.5YR5/4)	A:少C:少	
10	10	頸部	**外:** 撚糸文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄橙(10YR7/4) **内:** にぶい黄橙(10YR6/3)	B:微C:微	
10	11	口縁部	**外:** 撚糸文 **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい褐(7.5YR5/4) **内:** にぶい褐(7.5YR5/4)	B:微C:微	
10	12	口縁部	**外:** ﾅﾃﾞ **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** 明黄褐(10YR7/6) **内:** 淡黄(2.5Y8/4)	B:微C:微	
10	13	口縁部	**外:** 条痕からﾅﾃﾞ **内:** 不明	**外:** にぶい褐(7.5YR5/4) **内:** 褐(7.5YR4/4)	C:少	
10	14	口縁部	**外:** ﾅﾃﾞ **内:** 条痕	**外:** 橙(7.5YR7/6) **内:** にぶい黄橙(10YR7/3)	B:微C:微	
10	15	口縁部	**外:** ﾅﾃﾞ **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい黄橙(10YR7/4) **内:** にぶい黄橙(10YR6/4)	B:微C:微	
10	16	胴部	**外:** ？ **内:** 条痕からﾅﾃﾞ	**外:** 黄(2.5Y8/6) **内:** 浅黄(2.5Y7/3)	C:少	
10	17	胴部	**外:** 条痕文 **内:** 条痕	**外:** 淡黄(2.5Y8/4) **内:** 浅黄(2.5Y7/3)	C:中	
10	18	底部	**外:** ｹｽﾞﾘ **内:** ﾅﾃﾞ	**外:** にぶい橙(5YR6/4) **内:** にぶい黄橙(10YR6/3)	C:多	



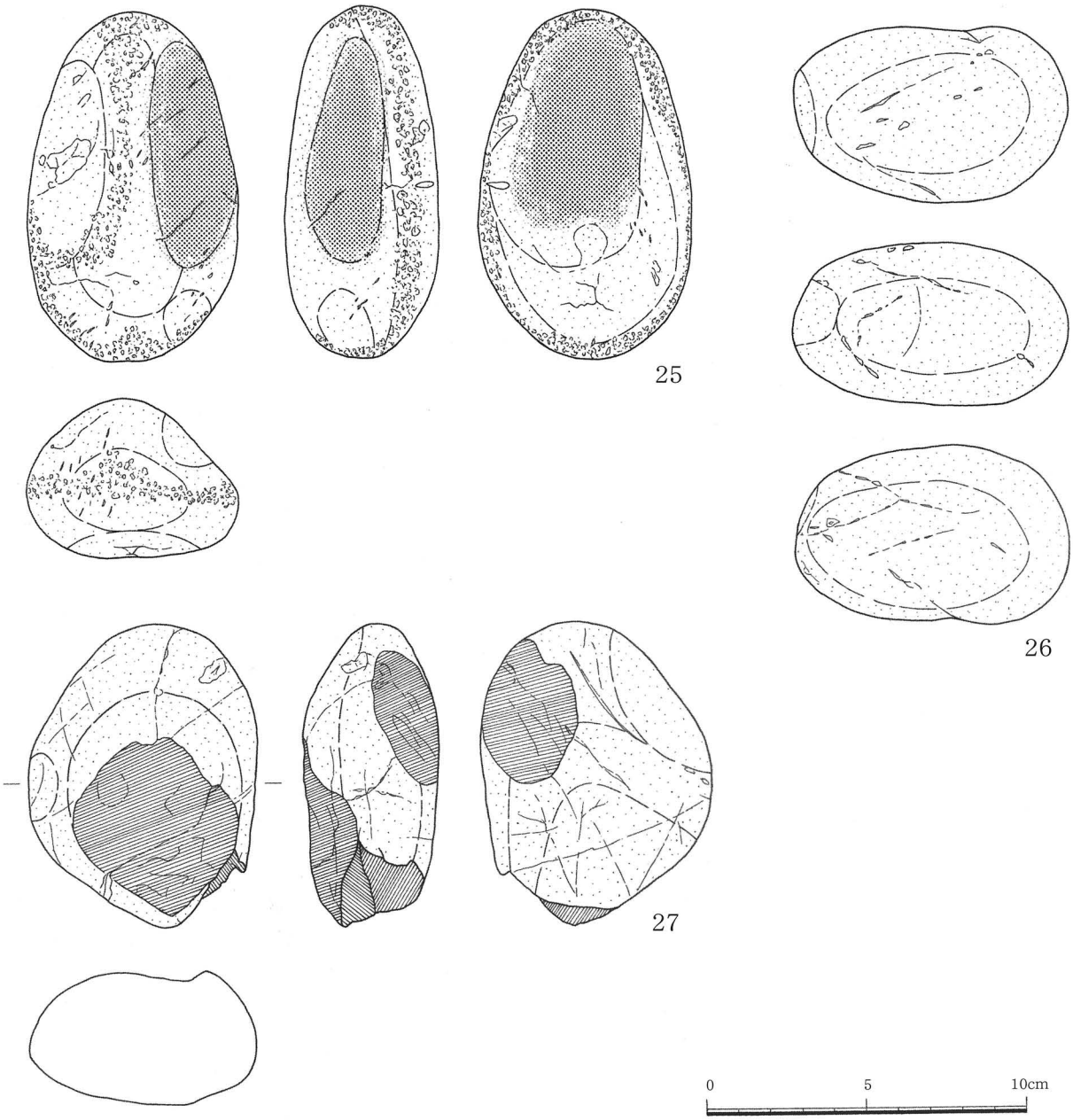
第10図　包含層出土遺物実測図

表2　包含層出土石器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	石材名	大きさ（cm）			重さ(g)	備　　考
				長さ	幅	厚さ		
11	19	包含層	石鏃	2	1.5	0.2	－	
11	20	包含層	叩き石	5.4	3.7	3	86	両端敲打痕、両面研磨痕
11	21	包含層	叩き石	6.4	3.6	3.6	122	両端敲打痕
11	22	包含層	磨石	7.5	6.5	4.1	285	一端及び両側縁敲打痕、片面研磨痕
11	23	包含層	磨石	8.8	7.9	4.4	388	周縁及び片面敲打痕、片面研磨痕
11	24	包含層	磨石	11	9.9	3.6	499	周縁敲打痕
12	25	包含層	磨石	10.9	6.6	4.9	433	周縁及び片面敲打痕、両面研磨痕
12	26	包含層	叩き石	8.5	5.3	5	340	
12	27	包含層	叩き石	9.5	7.1	4.1	365	



第11図　包含層出土遺物実測図



第12図　包含層出土遺物実測図

第３節 弥生時代の遺構と遺物

調査区の中央部より北側にかけて、主に検出作業を行なった。その結果、間仕切り住居を含む竪穴住居跡や土坑などが検出された。調査区南端から遺構分布域にかけては、比較的急な斜面地形を呈する。この南側及び北西側については、耕作土を除去した時点で、既にアカホヤ層が残存しておらず、縄文時代早期の層にあたる褐色硬質土層（カシワバン）が露出していた。畑地形成の過程で既に削平を受けていたと見られる。さらに南側においても同様の状況であり、弥生時代以降の遺構遺物や包含層ともに皆無であった。北側のSA-10あたりからは、ほぼフラットに見えるほどの緩斜面となる。SA-19・30～31周辺は最も低く、降雨の度に水溜りとなり、シラス層の陥没やその北側の崖部が崩落していく状況も見られた。遺構分布域の東側については、削平を受けていないが明瞭なアカホヤ層ではなく、腐植土状の不安定な堆積であった。上面から少量の遺物も出土したが、遺構は検出されなかった。さらに東側のシラス陥没によって形成された谷地形の影響を、かなり受けているものと考えられる。以上のことから、南側を除いては遺構群の若干の拡がりを想定しておく必要がある。

竪穴住居跡と認定したものは35軒ある。規模は大小様々であるが、間仕切りを有するもの（SA-09・12・16・25・27・28・32・33）と方形プランで間仕切りの無いものとに大別され、間仕切りタイプには円形基調（SA-16・33）と方形基調のもの（SA-09・12・25・27・28・32）がある。その他、住居内土坑と認識できるものや主柱穴のみが残存するもの（SA-34・35）も、これに含めた。各遺構や出土遺物概略については以下に記すが、その詳細は一覧表を参照いただきたい。文中に記した「主軸」は住居軸の大まかな目安である。

宮崎県の弥生時代土器編年は、主に宮崎学園都市での調査などの資料に拠るところが大きかったが、近年では石川氏による宮崎平野を中心とした出土資料の編年案や桒畑氏による中溝式土器の検討など、徐々にその調査研究成果も進展しつつある。ここでは県内で一般的に用いられている石川氏の編年案を参考とした。但し、編年案が途上の段階であることや本遺跡出土資料の出土状況なども考慮し、あえて必要最小限にとどめた。

(SA-01)

遺構分布域では最も南側の、標高103.6m前後の地点で検出した。検出面から床面最深部までは約17cm。長方形プランを呈し、主軸はN51°Wをとる。２本分の柱穴と浅い土坑を有する。遺物は土器の細片が数点出土したのみであった。

(SA-02)

SA-01から東へ最短約2.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約22cm。長方形プランを呈し主軸もN50°Wと、ほぼ01と同様である。中央付近に浅いピットを有する。柱穴は確認できなかった。長頸壷の口縁部(28)、壷の口縁部(202)などが出土した。石川編年のⅢ期（以下省略し、同様の扱いとする）に属するものとみられる。

(SA-03)

SA-01から北へ最短約3mの地点で検出した。方形プランを呈するが、北西隅に楕円形の土坑

を有する。柱穴は確認できなかった。主軸はN19°Eをとる。検出面から床面最深部までは約14m。遺物は住居床面から台石(126)打製石斧(128)、土坑内から甕形土器(28～32)と壷形土器の底部(33)のほか台石(125)軽石製品(127)などが出土した。甕はいずれも口縁部の折れ曲がり稜線を明瞭に残していることや外反の度合いなどから、石川編年のⅢ期～Ⅳa期に属するものとみられる。

(SA-04)

SA-03から西へ最短約2.7mの地点で検出した。柱穴は確認できなかった。やや膨らみのある長方形プランを呈し、内部に4本の主柱穴と中央に土坑を有する。南壁の一部は耕作溝による撹乱を受けている。検出面から床面最深部までは約28cm。主軸はE10°Nをとる。遺物は覆土内及び土坑内から、甕形土器(34・35)壷形土器(36・37)や磨製石鏃の未製品(129)軽石製品(130)叩き石(131・132)などが出土した。(34)は直口する口縁部の下位に刻み目突帯をもつ下城式系甕と、(35)口縁部の台形状突帯を特徴とするもので、石川編年のⅢ期に属するものである。

(SA-05)

SA-04から北へ最短約3.4mの地点で検出した。やや膨らみのある歪な方形プランを呈する。柱穴は確認できなかった。主軸は　N21°Wをとる。検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は甕形土器(38～44・184)壷形土器(45)や台石(133・135)叩き石(136)などが出土した。土器はいずれもⅤ期を下るものが見られず、脚台状の底部(40)などもあり、Ⅲ期の中でも古い要素をもつ一群として捉えておきたい。

(SA-06)

SA-05と08の中間地点において検出した。SA-05から西へ最短約2.4mの地点にある。柱穴は確認できなかった。僅かに隅丸の長方形プランを呈する。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約16cm。遺物は凡そⅢ期に属する壷形土器の口縁部片(46)のほか、土器の細片が北側に集中して数点出土したのみである。

(SA-07)

SA-09から東へ最短約0.8mの地点で検出した。長方形プランを呈し、主軸はN35°Wをとる。柱穴は確認できなかった。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約30cm。南東壁の一部は耕作溝による撹乱を受けている。遺物は土器片が少量出土したのみである。

(SA-08)

SA-06から西へ最短約2mの地点で検出した。長方形プランを呈し、主軸はW18°Nをとる。柱穴は確認できなかった。２本分の柱穴と南壁寄りに方形の土坑を有する。他に浅く小ぶりなピットも見られるが、住居に伴うものかは不明。検出面から床面最深部までは約50cm。遺物はⅢbから、Ⅳ期の範疇におさまる甕形土器(47・185)のほか、土器の細片などが少量出土したのみである。

(SA-09)

調査区の最も西側、標高約103.5m前後の地点で検出した。柱穴は確認できなかった。３箇

所の突出壁を有し、やや不整形であるが方形プランを基調とするものと見られる。４本分の柱穴と中央にピットを有する。検出面から床面最深部までは約32cm。遺物は土器の細片などが数点出土したのみである。

(SA-10)

SA-05から北東へ最短約8.5mの地点で検出した。基本的には長方形プランを呈するが、東西の壁が一部突出している。拡張の可能性もあり、掘り下げの段階で精査したが明確にはできなかった。柱穴は確認できなかった。住居群の中では比較的大型の部類で、４本分の柱穴を有する。主軸はW14°Nをとる。検出面から床面最深部までは約42cm。遺物は甕形土器(49・50)壷形土器(48)をはじめ土器の細片、磨製石鏃(137)打製石斧(139)軽石製紡錘車(140)軽石(141・142)叩き石(143～145)台石(146)のほか、土製勾玉(51)も出土した。勾玉は丁子頭のタイプで、片面の一部を欠損している。土器はいずれもⅢbからⅣa期の範疇におさまるものである。打製の石鏃(138)は縄文時代のものであろう。

(SA-11)

SA-10から北東へ最短約1.5mの地点で検出した。ほぼ長方形プランであるが北壁は一部突出したように歪な形状を呈し、２本分の柱穴を有する。主軸はN49°Wをとる。検出面から床面最深部までは約17cm。遺物は甕形土器(53～58・186)壷形土器(59・60)をはじめ土器の細片が出土した。(54)にはやや古い要素、(58)などにはやや新しい要素がみられるなど若干の編年上の時間差を感じるが、ⅢからⅣ期の範疇におさまるものである。

(SA-12)

SA-11から南東へ最短約4.9mの地点で検出した。方形プランを基調とし、４箇所の突出壁と中央部との段差によりベッド状の区画を有するが、その床面は歪であり本来の形状とは考え難い。二次的に設営されたものかどうかは、明確にできなかった。南東の壁の一部は撹乱を受けて消失している。柱穴は確認できなかった。主軸はN17°Eをとる。検出面から床面最深部までは約18cm。遺物は甕形土器(61・62)のほか土器の細片、磨製石鏃(147)台石(148・150)軽石(149)などが出土した。(61)はⅢ期に属するものとみられる。

(SA-13)

SA-11から東へ最短約3.9mの地点で検出した。方形プランで南壁はやや歪な形状を呈する。２本分の柱穴とその南側に丸底の土坑を有する。主軸はN2°Eをとる。検出面から床面最深部までは約12cm。土坑内でほぼ完形を含む壷形土器(64・65)、その南側の壁に面したところで完形もしくはほぼ完形の壷形土器の一括資料(63・66～68)が出土した。完形でないものについては、耕作の影響により破損したものであり、本来は完形品であったものと考えられる。その他は壷形土器(69)や高坏(70)などがある。甕はいずれも底部は平底であり、その他の器種を含めて全般的に成形調整とも粗雑な傾向が見受けられる。Ⅴ期に属する一群である。

(SA-14)

SA-14から東へ最短約3.1mの地点で検出した。ほぼ方形プランを呈し、主軸はN19°Eをと

る。北東と南壁の一部を、撹乱及び削平により消失している。南北の隅に２本分の柱穴を有するが、南側のそれは浅く、住居に伴うものであるかは疑わしい。検出面から床面最深部までは約12cm。遺物は壷形土器(187)、台石(151)とその他土器片が出土した。(187)はⅢ期に属するものとみられる。

(SA-15)

SA-14から東へ最短約6.4mの地点で検出した。後世の削平により、原形をとどめていない。遺物は甕の破片がごく少量出土したのみである。

(SA-16)

SA-13から北東へ最短約10.6mの地点で検出した。６箇所の突出壁とベッド状の区画を有する花弁状住居で、住居群の中でも大型の部類である。また、住居中央にやや丸みのある長方形プランの土坑を伴う。東側の一箇所を除いて、各突出部に合わせた５本分の柱穴が見られるが、本来は６本柱であった可能性も考えられる。検出面から床面最深部までは約64cm。遺物は主に覆土中から甕形土器(73・78～81・189・191)壷形土器(71・72・74・75・77・190・192)をはじめ多量の土器の細片と土製勾玉(82)、台石(152)叩き石(153・154)軽石(155)のほか、土坑内からも完形の壷形土器(76)が出土した土製勾玉は遺跡内から計３個体出土しており、これは最も小型のものである。土器底部の窄まりや上げ底の様相から、凡そⅣ期におさまるものであろう。(76)については雲母が混入するなど、他の土器と胎土が異なることから、移入品と考えられる。

(SA-17)

SA-13から北西へ最短約2.8mの地点で検出した。特に南壁などはかなりの丸みをもつ本来は方形プランを呈するもので、住居群の中では大型の部類に入る。調査の段階では明確にできなかったが、住居の拡張か重複がありえるものと考えられる。主軸はN38.5°Eをとる。検出面から床面最深部までは約32cm。６本分の柱穴を有する。遺物は甕形土器(83～92・96・97・193)や壷形土器(93～95・98～101・194・195)、台石(156)叩き石(158・162～165)磨製石鏃(157)軽石(159・160)軽石製品(161)などが出土した。各土器における口縁部及び底部の形状に、編年上の時期差がみられる。Ⅲ～Ⅳ期の範疇で捉えておきたい。

(SA-18)

SA-17から北へ最短約1.4mの地点で検出した。ほぼ方形のプランを呈し、主軸はW15°Nをとる。東壁を切り込む土坑状の遺構は、住居に伴うものではない。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約12cm。遺物は甕底部(108)のほか、土器片が少量出土した。

(SA-19)

調査区の北壁沿いのSA-18から北東へ最短約7.3m、標高約101.2m前後の地点で検出された。ほぼ方形のプランを呈し、主軸は　をとる。４本分の柱穴とその西側に浅い土坑を有する。更に北側へ延びるが、地盤沈下と崖崩れの兆しが見られたので、あえて調査区は拡張しなかった。SA-30・31も同様である。検出面から床面最深部までは約35cm。遺物は甕形土器(103・196)

のほか、土器の細片が出土した。(103)は胴部が膨らむ形状から、Ⅳ期に属するものと考えられる。

(SA-20)

SA-10から西へ最短約3.1mの地点で検出された。やや歪な方形プランを呈し、主軸はN30°Eをとる。柱穴は確認できなかったが、西壁にほぼ沿うように床面を掘り込んだ土坑を有する。検出面から床面最深部までは約16cm。遺物は高坏脚部(105)や壷形土器(104)のほか、土器片が出土した。(104)は垂れ下がり状に作られる口縁部の一部で、Ⅲ期に属するものと考えられる。

(SA-21)

SA-06から北へ最短約5.7mの地点で検出された。方形プランを呈するものとみられるが、残存状態が悪く、詳細は不明。検出面から床面最深部までは約11cm。遺物は」期に属するとみられる甕形土器(106)や軽石(166)のほか、土器片が少量出土した。

(SA-22)

SA-20から北へ最短約2.1mの地点でSA-23に切り込まれた状態で検出した。方形プランを呈し、主軸はW17°Nをとる。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約4cm。遺物は叩き石(167)と土器片が少量出土した。

(SA-23)

SA-22北側とSA-24の南側を切り込む状態で検出した。方形プランを呈し、主軸はN17°Eをとる。1本分の柱穴を確認した。検出面から床面最深部までは約31cm。SA-22と共に、住居群の中では小規模なものである。遺物は甕形土器(197・198)や軽石(168・169)のほか土器片が少量出土した。

(SA-24)

方形プランを呈するもので、東側は残存状態が悪く歪である。東壁の一部は突出したようにも見えるが、本来の形状ではないものと考えられる。7本分の柱穴と浅い落ち込みを有する。この落ち込みと住居を切り込む方形と楕円形の土坑が、住居に伴うものであるかは明確にできなかった。検出面から床面最深部までは約15cm。遺物は叩き石(170)のほか、土器片が少量出土した。

(SA-25)

SA-24から北へ最短約5.3mの地点で検出した。2箇所の突出壁、2本分の柱穴と歪な方形の土坑を有し、方形プランを基調とする。壁の一部が撹乱により消滅しており、突出部の状況からみて、本来は3箇所の突出壁を有するものであったことも考えられる。主軸はE78°Nをとる。検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は土器片が少量出土したのみである。

(SA-26)

SA-17から西へ最短約1.8mの地点で検出した。ほぼ方形プランを呈し、主軸はW20°Nをとる。2本分の柱穴と、それからやや南にずれた位置に浅い土坑を有する。他に4箇所で浅く小ぶりのピットも見られるが、住居に伴うものであるかは疑わしい。検出面から床面最深部まで

は約20cm。遺物はⅢ期に属するとみられる甕形土器(107)とミニチュア土器(108)のほか、土器の細片が少量出土したのみである。

(SA-27)

SA-26の北壁とわずかに接した状態で検出した。方形を基調とする間仕切り住居で、３箇所の突出壁を有するものと想定されるが、北東側の壁も長方形の区画で突出する。これは拡張された結果と想定される。２本分の柱穴を有する。主軸はE32.5°Nをとる。検出面から床面最深部までは約32cm。遺物は甕形土器(109・199)と叩き石(171)のほか、Ⅲ期に属するとみられる土器片が少量出土した。

(SA-28)

SA-27から北へ最短約0.9mの地点で検出した。突出壁を1箇所と２本分の柱穴を有し、方形プランを基調とする間仕切り住居である。外周には拡張の痕跡が見られ、東側の間仕切り部は浅く掘り窪められる。主軸はN34°Wをとる。検出面から床面最深部までは約17cm。遺物は台石の破片(172)と土器片が少量出土したのみである。

(SA-29)

SA-28から北西へ最短約5mの地点で検出した。方形プランを基調とし、主軸はN28°Wをとる。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約15cm。遺物は丁子頭タイプの土製勾玉(110)のほか、土器片が少量出土したのみである。

(SA-30)

SA-29から東へ最短約3.3mの地点で検出した。SA-19などと同様に詳細をつかめないが、方形プランを呈するものと想定され、壁面の一箇所と内部２箇所に土坑を有する。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約37cm。遺物は甕形土器(111～113・115・200)壷形土器(114)のほか土器の細片と砥石(173・175)が出土した。(111)は山ノ口式で、胎土に雲母を含むことから移入品と考えられる。(112)は胴部にやや膨らみを有する。(114)は胴部の張りが小さい壷形土器の片部で、その他を含め凡そⅢ期の範疇におさまるものである。

(SA-31)

SA-30から東へ最短約7.1mの地点で検出した。SA-30などと同様に詳細をつかめないが、方形プランを呈するものと想定される。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約10cm。遺物は土器片が少量出土したのみである。

(SA-32)

調査区の最も北側、SA-31から西へ最短約3.1m、標高約101.2m前後の地点で検出した。この住居を含めた一帯は、降雨によって泥だまりとなり、また水穴による陥没の兆候や地山の亀裂も見られたため、詳細を把握しうるような調査は不可能であった。調査時の現状で３箇所の突出壁を確認したが、本来は方形プランを基調とするものでSA-12・27と同タイプであると想定される。柱穴は確認できなかった。主軸は　W12°Nをとる。検出面から床面最深部までは約26cm。遺物は剥片石器(176)叩き石(177・178)台石(180)軽石(179)のほか、土器片が少量出

土したのみである。

(SA-33)

SA-29から西へ最短約7.3mの地点で検出した。調査の時点で３箇所の突出壁と６本分の柱穴を有し、円形プランを基調とするものと想定される。残存状態がそれほど良くないことから、SA-16に類するタイプであったことも考えられる。検出面から床面最深部までは約18cm。遺物は甕形土器(116～121)壷形土器(122・123・201)のほか土器の細片と、叩き石(181～183)が出土した。これら土器は、いずれもⅢ～Ⅳ期の範疇におさまるものである。

(SA-34)

SA-23から西へ最短約12.5mの地点で検出した。現状では方形の土坑とその東側に２本分の柱穴が見られるのみであるが、本来あった突出壁及びベッド状部を削平によって消失した結果であると想定し、竪穴住居に含めた。主軸はW17.5°Nをとる。遺物は出土していない。

(SA-35)

SA-25から北へ最短約3.1mの地点で検出した。SA-34と同様に壁面を消失しており、外側に4本分の柱穴とその中央に土坑を有する竪穴住居と想定した。遺物は出土していない。

第４節 その他の遺構

SB-01～03は、現地調査の段階で古代以降のものと認識していた掘立柱建物である。各建物の時期についても出土遺物がないことや、埋没土が地点によって若干異なることなど、その時期を明確にする根拠に欠けるため、あえて「その他」とした。ただし各建物の柱間が比較的狭く、棟持柱を有するものもあることなどから、弥生時代に属すものと想定しておきたい。SX-01は室内整理作業の段階で確認したものである。１間×２間の柱穴の並びで、本来は竪穴住居に伴うものであったことも考えられる。

(SB-01)

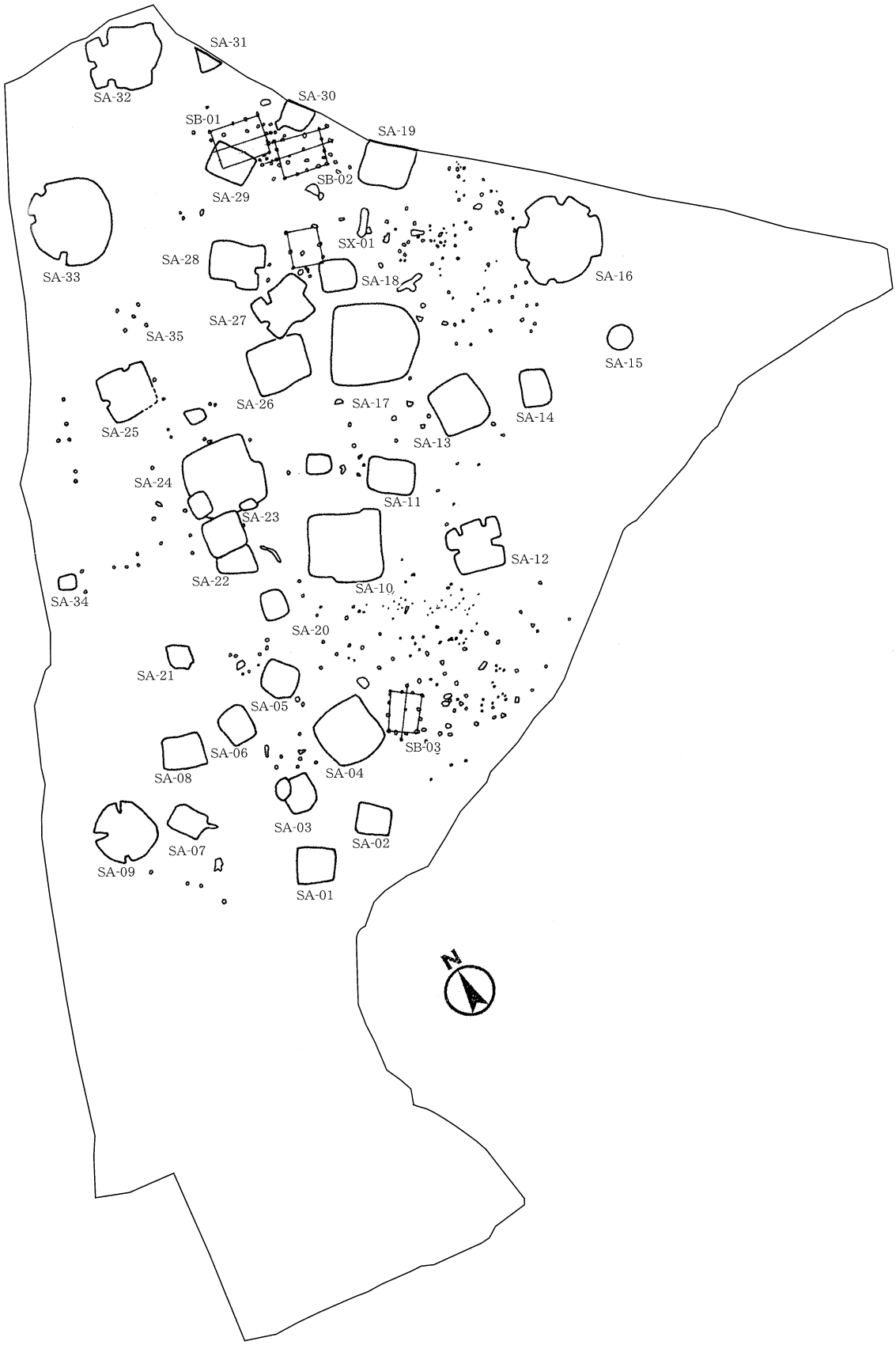
SA-19・29・30に囲まれた地点で検出した。３間(約3.58m)×４間(約4.1m)の建物で面積は約14.7㎡、柱間は0.6mから1.4mを測り、棟持柱を持つ。北側の一部は検出できなかった。不整形な方形プランを基調とする。

(SB-02)

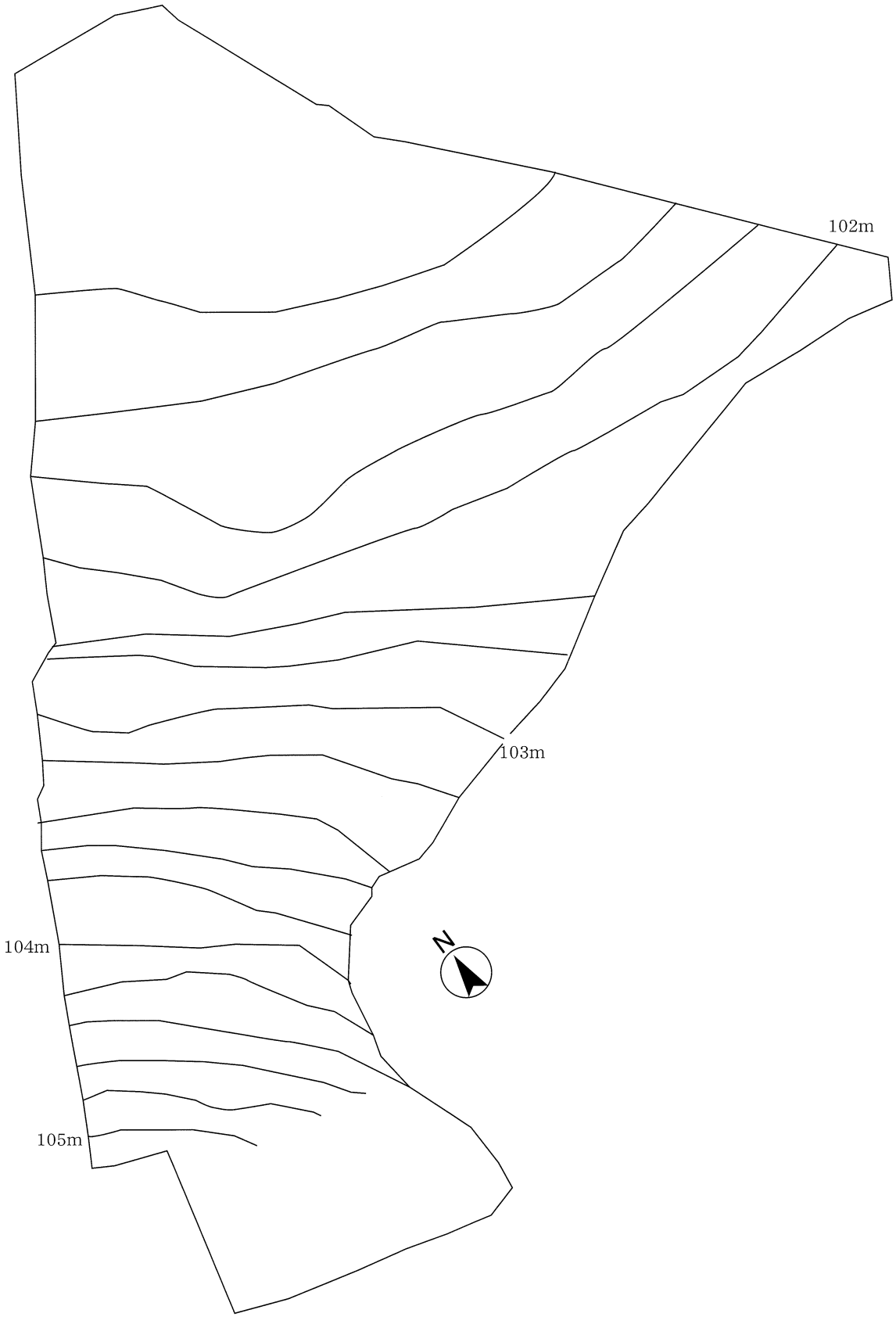
SB-01に隣接した地点で検出した。３間(約3.56m)×４間(約4.7m)の建物で面積は約17㎡、柱間は0.6mから1.32mを測り、棟持柱を持つ。南側の一部は検出できなかった。不整形な方形プランを基調とする。

(SB-03)

SA-04の東壁側に隣接する地点で検出した。３間(約2.92m)×４間(約3.6m)の建物で面積は約10.5㎡、柱間は0.94mから1.36mを測り、棟持柱を持つ。不整形な方形プランを基調とする。



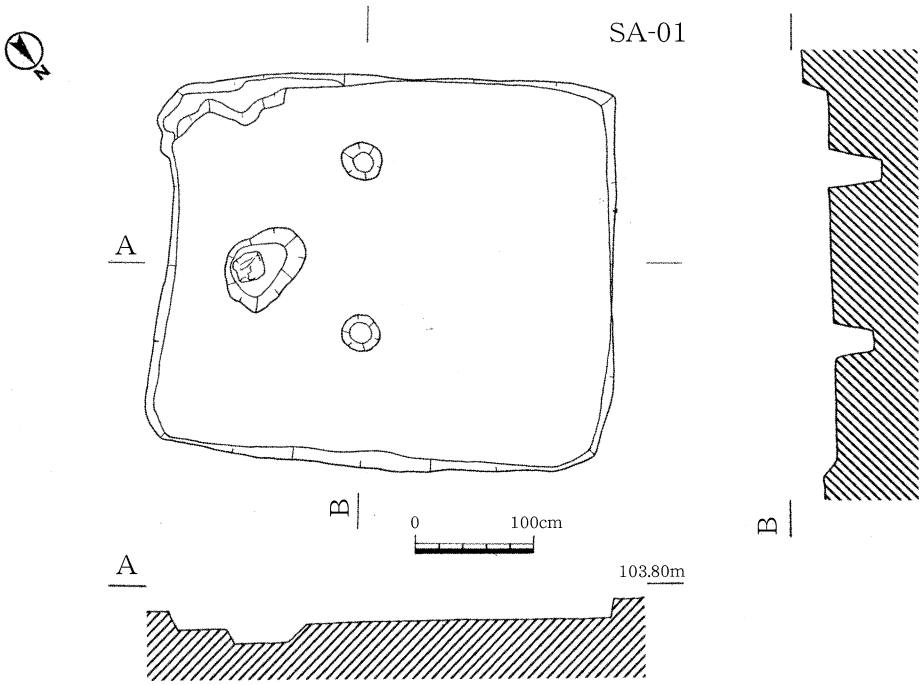
第13図　弥生時代遺構分布図(S＝1/500)

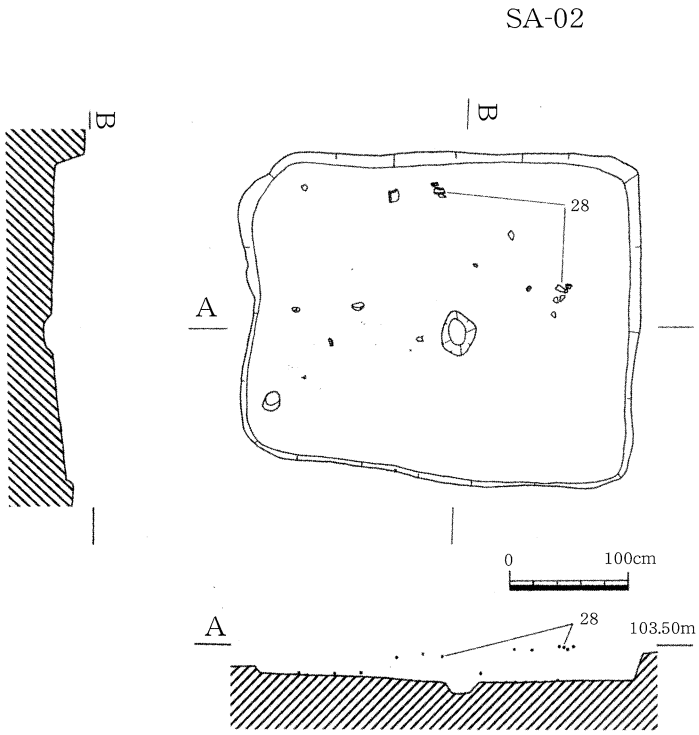


第14図　弥生時代遺構検出面地形図(S＝1/500)

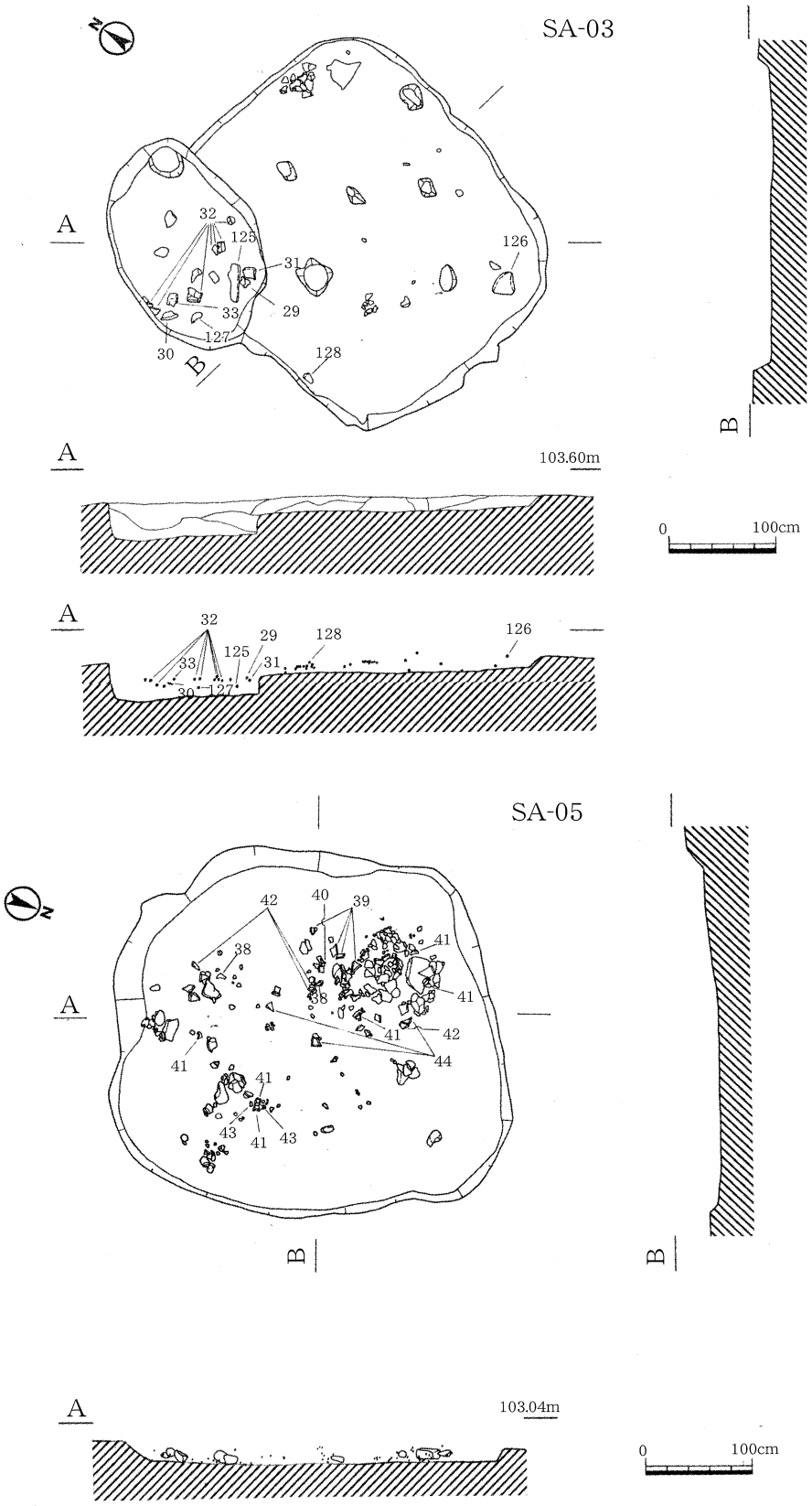
表3　竪穴住居観察表

番号	分類	形状	規模(m)	面積(㎡)	主柱穴	突出壁	出土遺物
SA01	Ⅶ	方形	3.9×3.3	12.08	2	—	
SA02	Ⅶ	方形	3.4×2.8	8.75	—	—	土器(28, 202)
SA03	Ⅶ	方形	3.4×2.9	8.70	—	—	土器(29～33)、石器(125～128)
SA04	Ⅶ	方形	5.6×5.6	27.97	4	—	土器(34～37)、石器(129～132)
SA05	Ⅴ	方形？	3.7×3.4	10.51	—	—	土器(38～45, 184)、石器(133～136)
SA06	Ⅶ	方形	3.5×2.9	8.84	—	—	土器(46)
SA07	Ⅶ	方形	3.3×2.6	7.88	—	—	
SA08	Ⅶ	方形	4.0×3.2	11.80	2	—	土器(47,185)
SA09	Ⅲ	方形＋円形	6.0×5.4	24.96	4	3	
SA10	Ⅴ	方形	7.0×6.6	43.60	4	2？	土器(48～51)、石器(137～146)
SA11	Ⅶ	方形	4.6×3.4	14.20	2	—	土器(52～60, 186)
SA12	Ⅱ	方形	5.1×4.8	20.92	—	4	土器(61, 62)、石器(147～150)
SA13	Ⅶ	方形	5.2×4.8	22.11	2	—	土器(63～70)
SA14	Ⅶ	方形	3.4×2.6	8.66	2	—	土器(187)、石器(151)
SA15	Ⅵ	円形	2.6×2.3	4.65	—	—	
SA16	Ⅰ	円形	8.4×8.0	49.16	5(6？)	6	土器(71～82, 189～192)、石器(152～155)
SA17	Ⅶ	方形	8.4×8.3	57.51	6	—	土器(83～101, 193～195)、石器(156～165)
SA18	Ⅶ	方形	3.5×3.0	9.11	—	—	土器(102)
SA19	Ⅶ	方形	5.1×？	—	4	—	土器(103, 196)
SA20	Ⅶ	方形	5.6×4.5	22.94	—	—	土器(104, 105)
SA21	Ⅶ？	方形？	2.5×？	—	—	—	土器(106)、石器(166)
SA22	Ⅶ	方形	3.8×？	—	—	—	石器(167)
SA23	Ⅶ	方形	3.8×3.7	13.31	2？	—	土器(197, 198)、石器(168, 169)
SA24	Ⅴ	方形？	6.7×6.7	36.72	5	2？	石器(170)
SA25	Ⅳ	方形	4.8×4.7	20.29	2	2	
SA26	Ⅶ	方形	5.6×4.8	24.49	2	—	土器(107, 108)
SA27	Ⅳ	方形	5.6×4.4	19.57	2	4	土器(109, 199)、石器(171)
SA28	Ⅳ	方形	5.2×4.2	18.31	2	2	石器(172)
SA29	Ⅶ	方形	4.1×3.1	12.06	—	—	土器(110)
SA30	Ⅶ？	方形？	3.3×？	—	—	—	土器(111～115, 200)、石器(173～175)
SA31	Ⅶ？	方形？	—	—	—	—	
SA32	Ⅲ?	方形?	7.0×6.1	32.23	—	3？	石器(176～180)
SA33	Ⅲ	方形＋円形	8.1×7.7	49.52	6	3	土器(116～123, 201)、石器(181～183)
SA34	—	—	—	—	2	—	



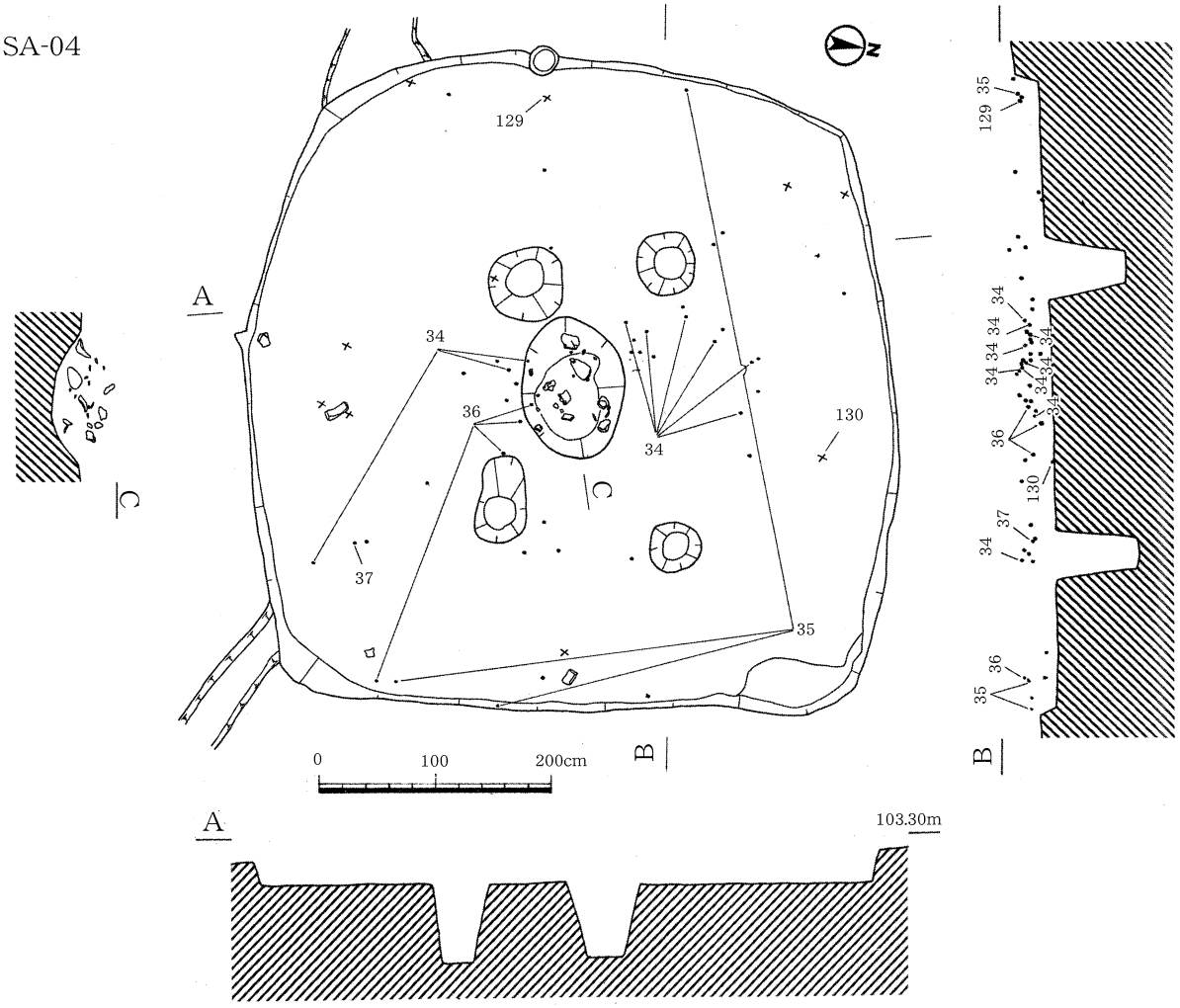


第15図　竪穴住居実測図

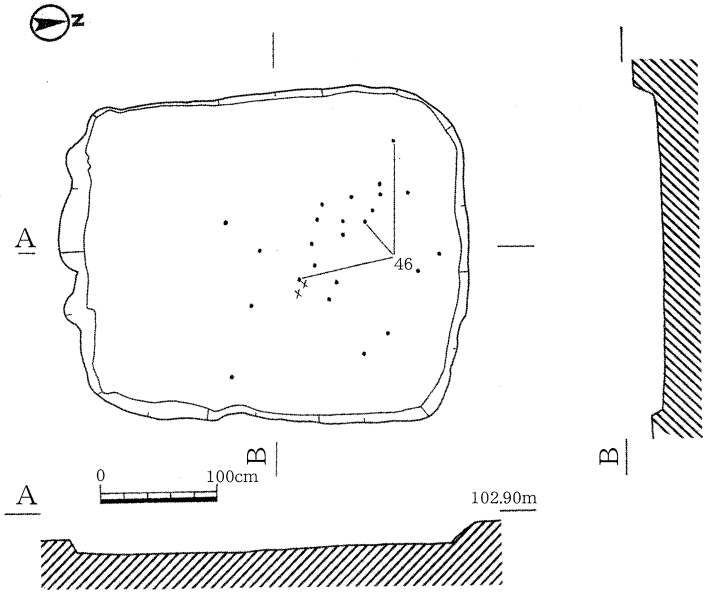


第16図　竪穴住居実測図

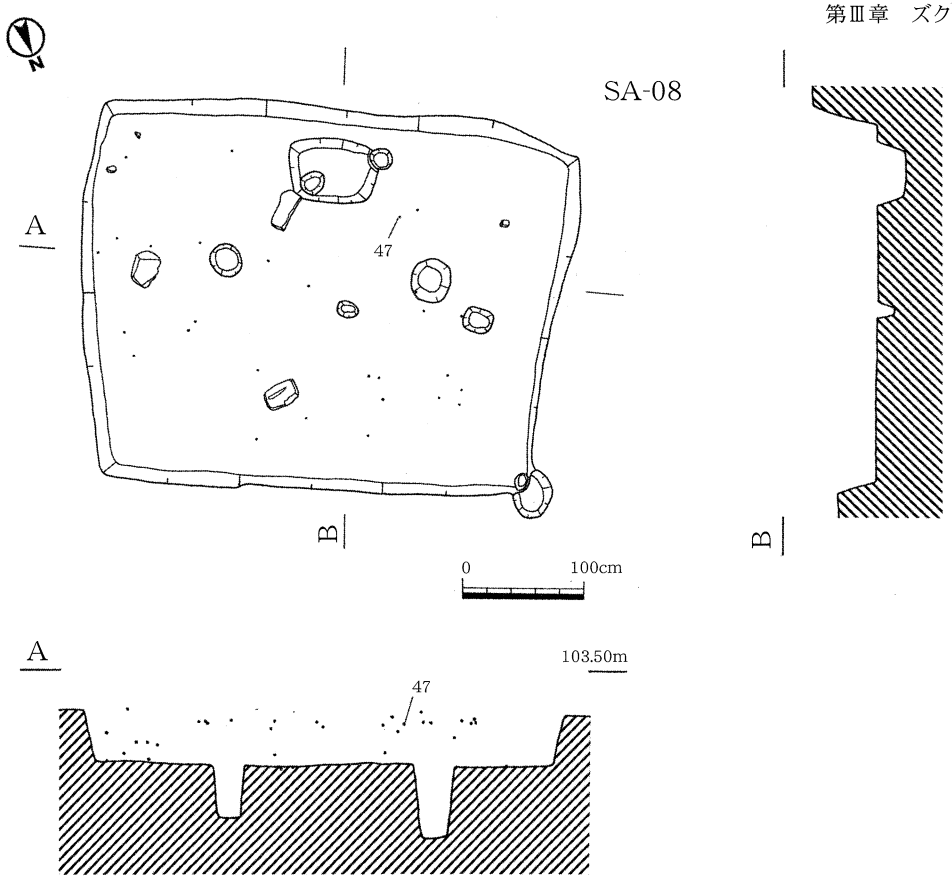
SA-04

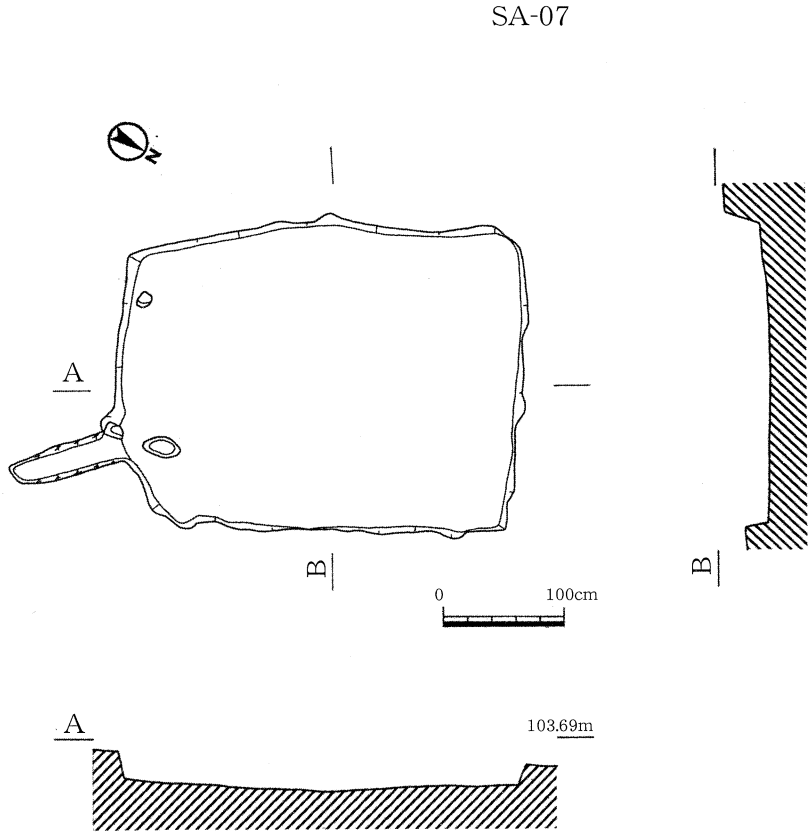


SA-06

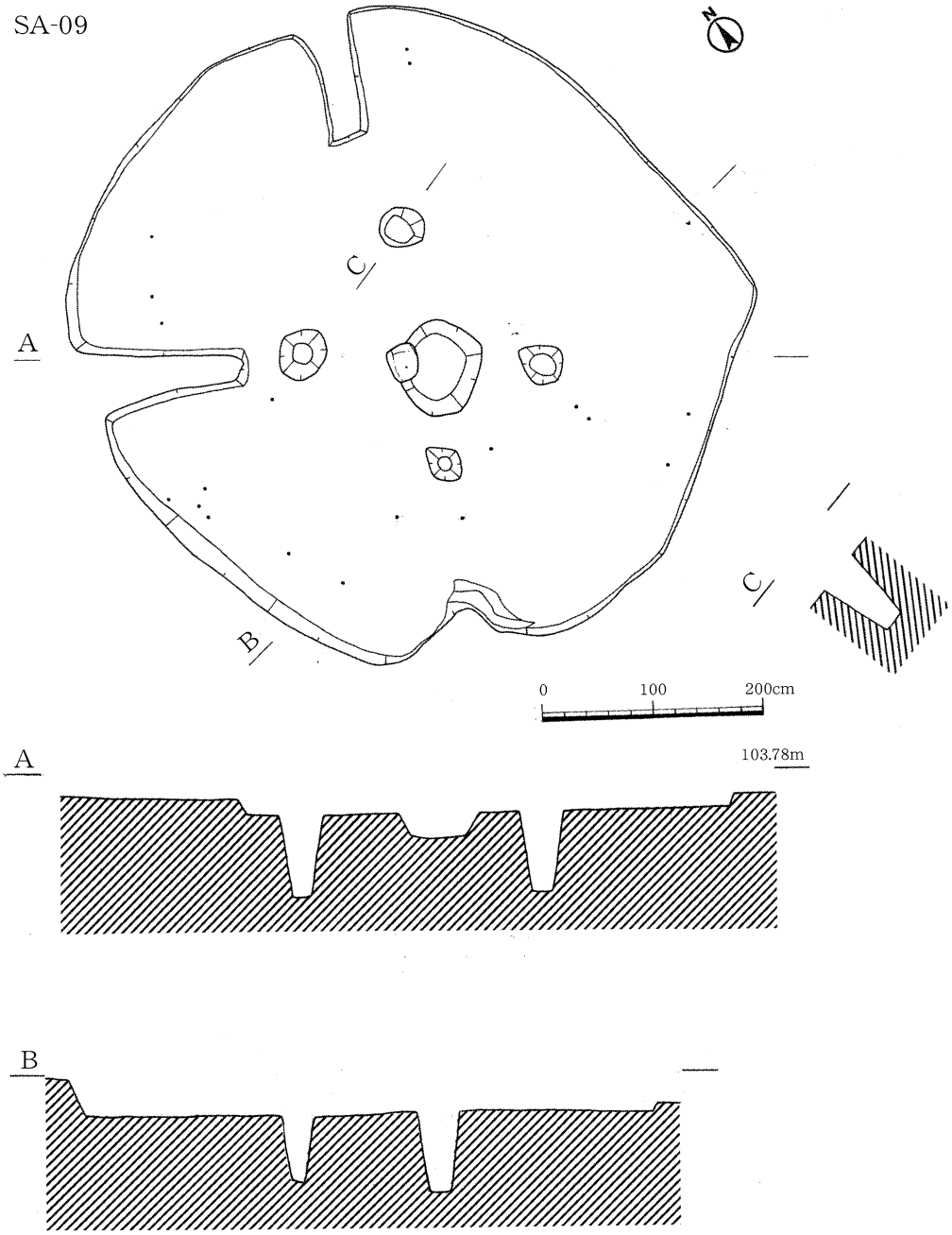


第17図　竪穴住居実測図

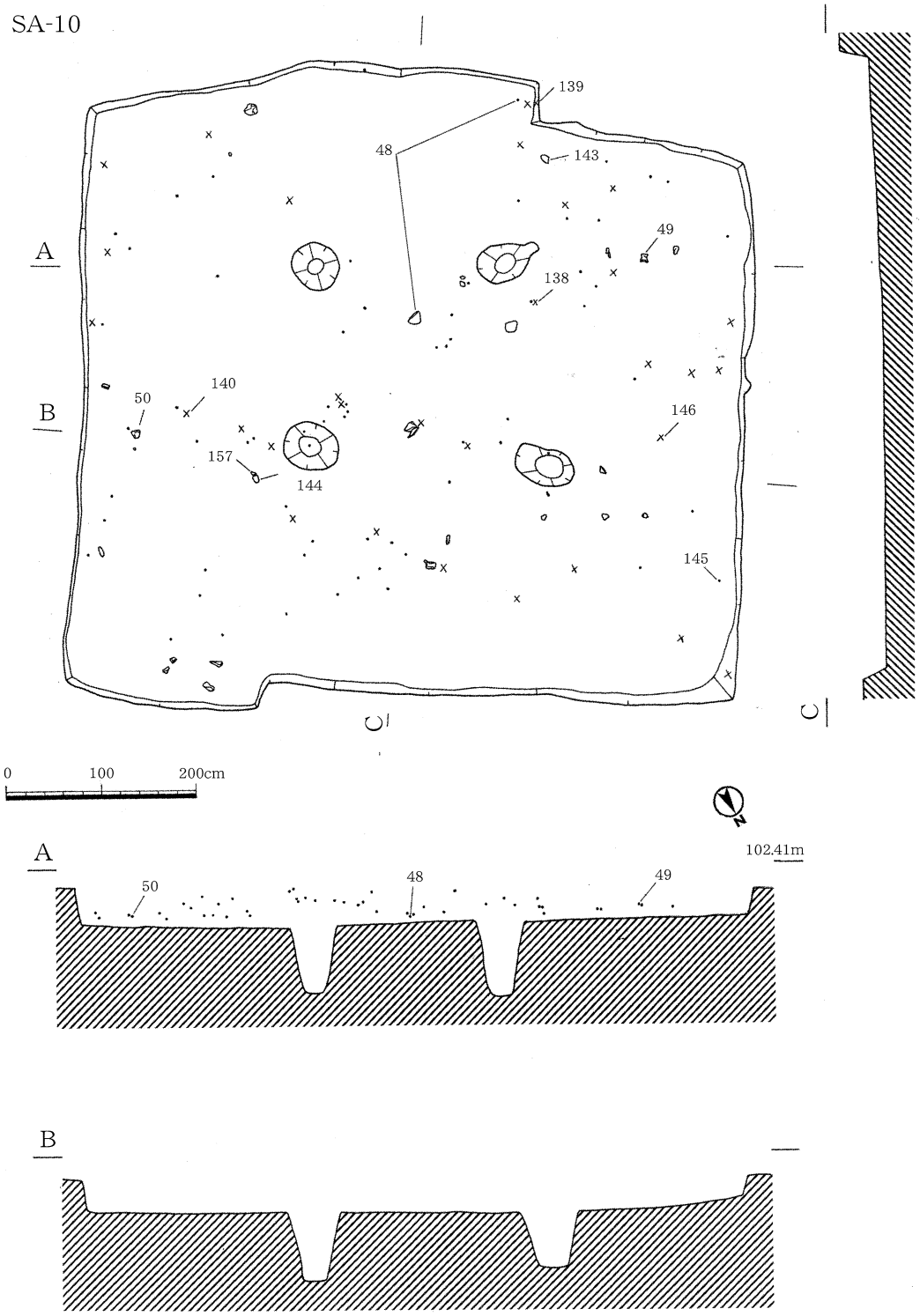




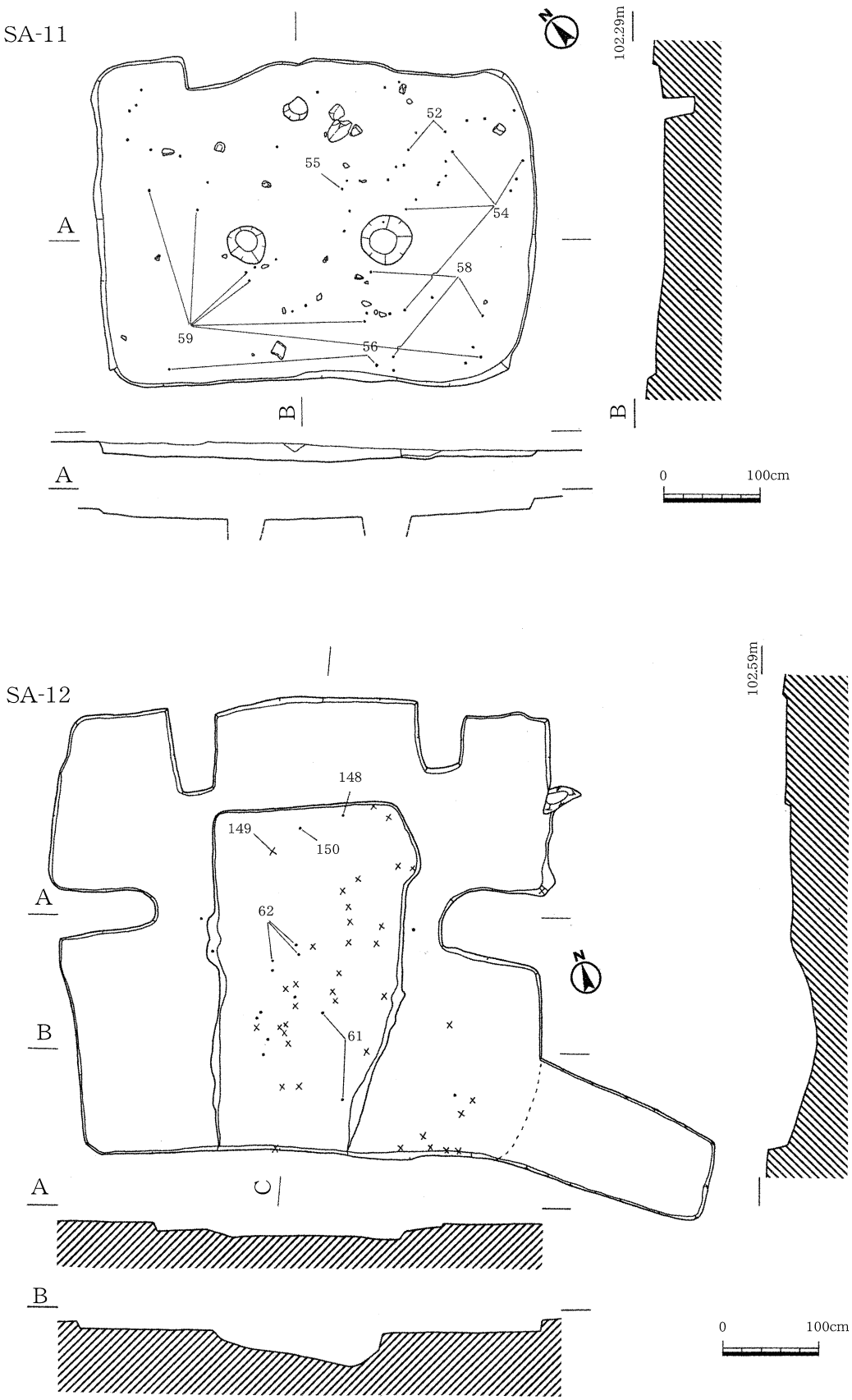
第18図　竪穴住居実測図



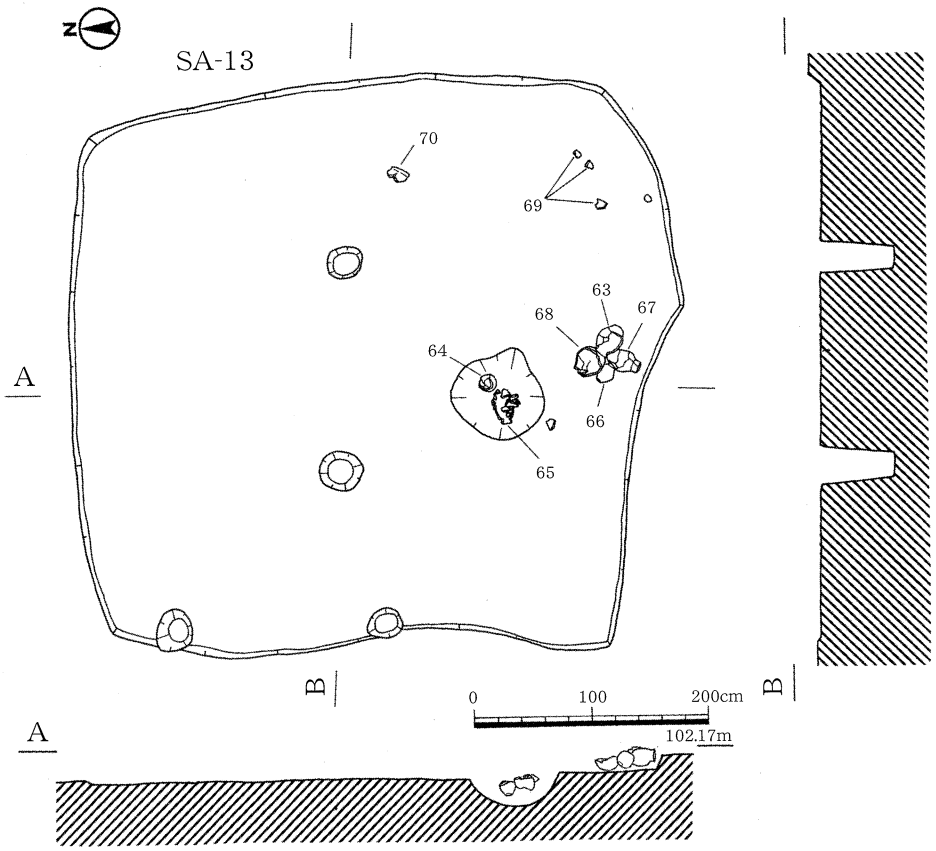
第19図　竪穴住居実測図

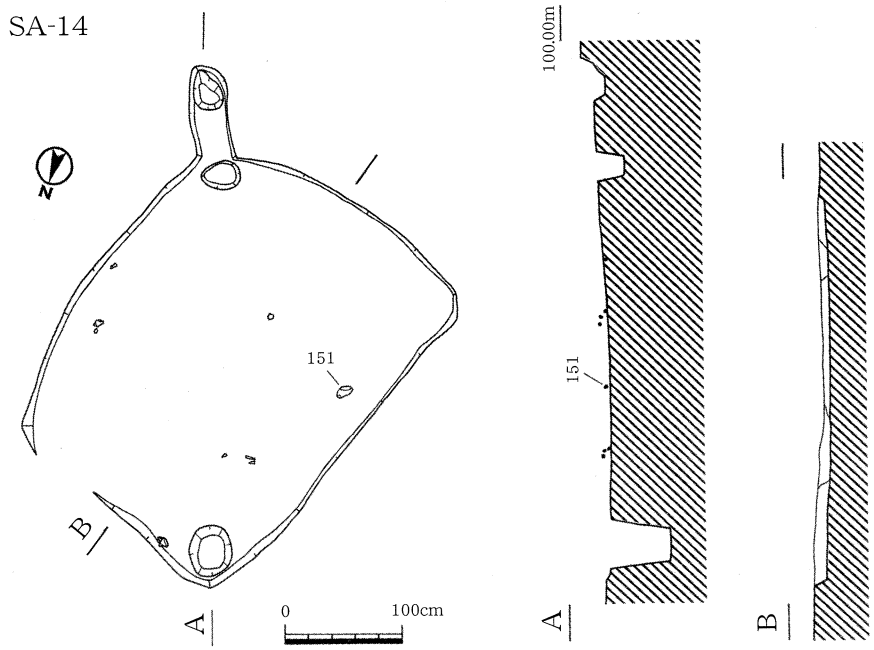


第20図　竪穴住居実測図



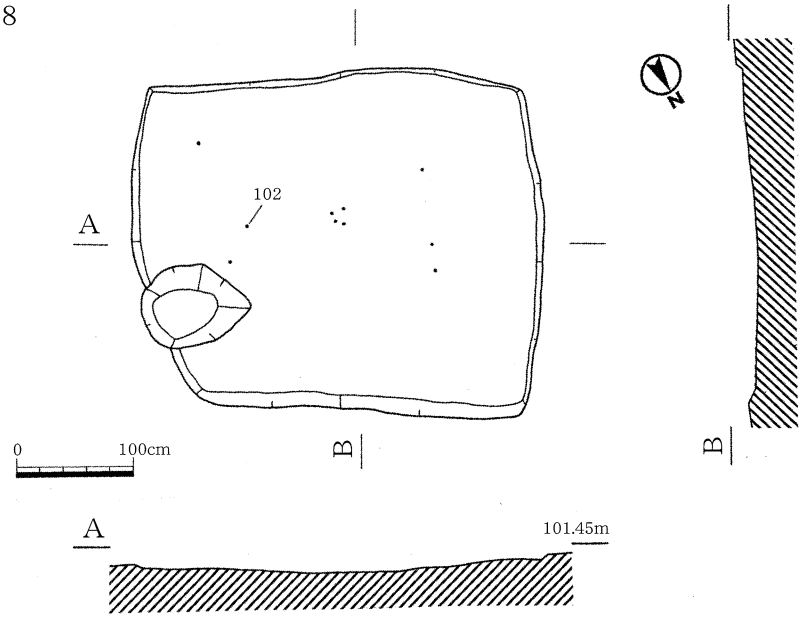
第21図　竪穴住居実測図



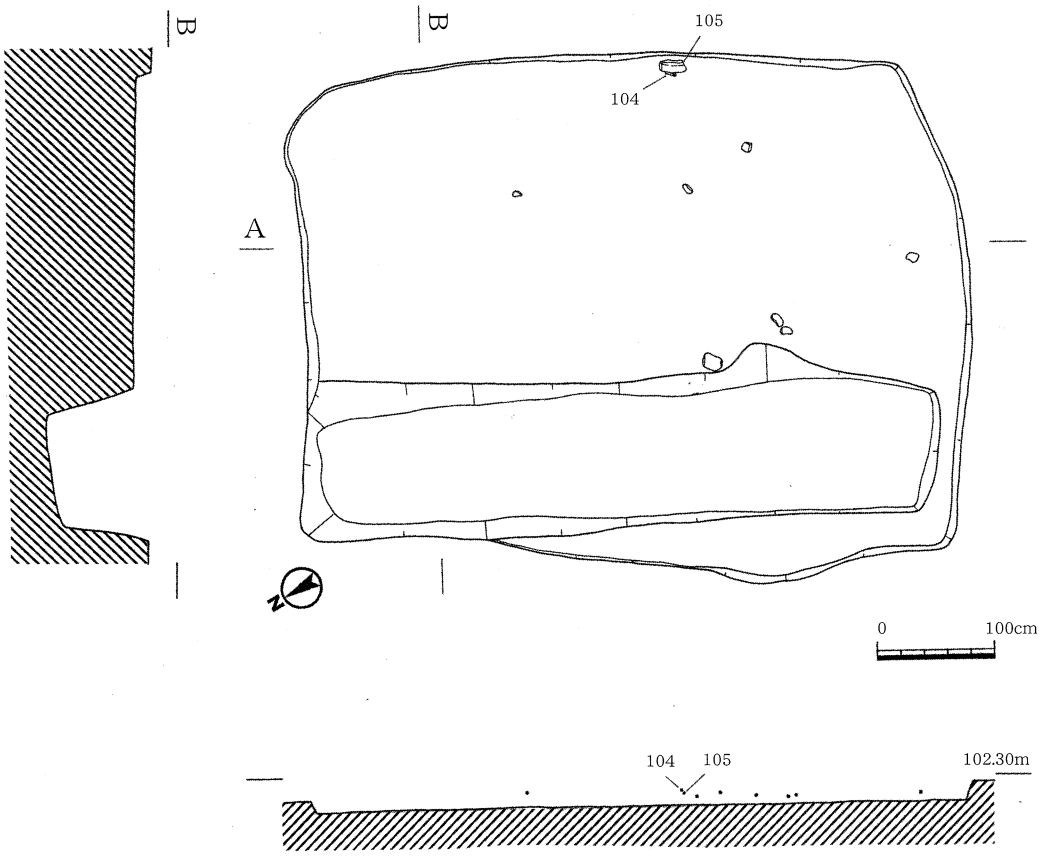


第22図　竪穴住居実測図

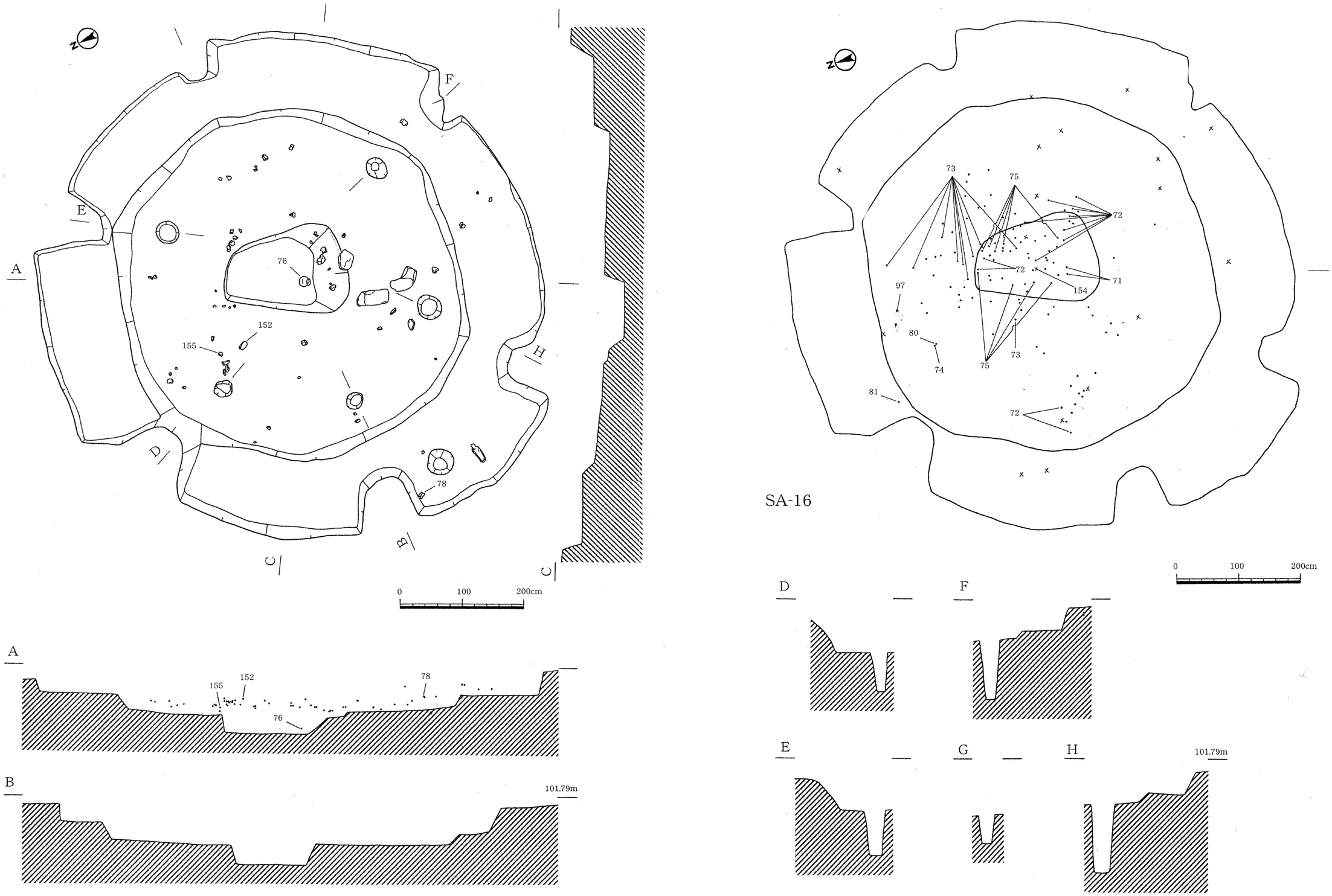
SA-18



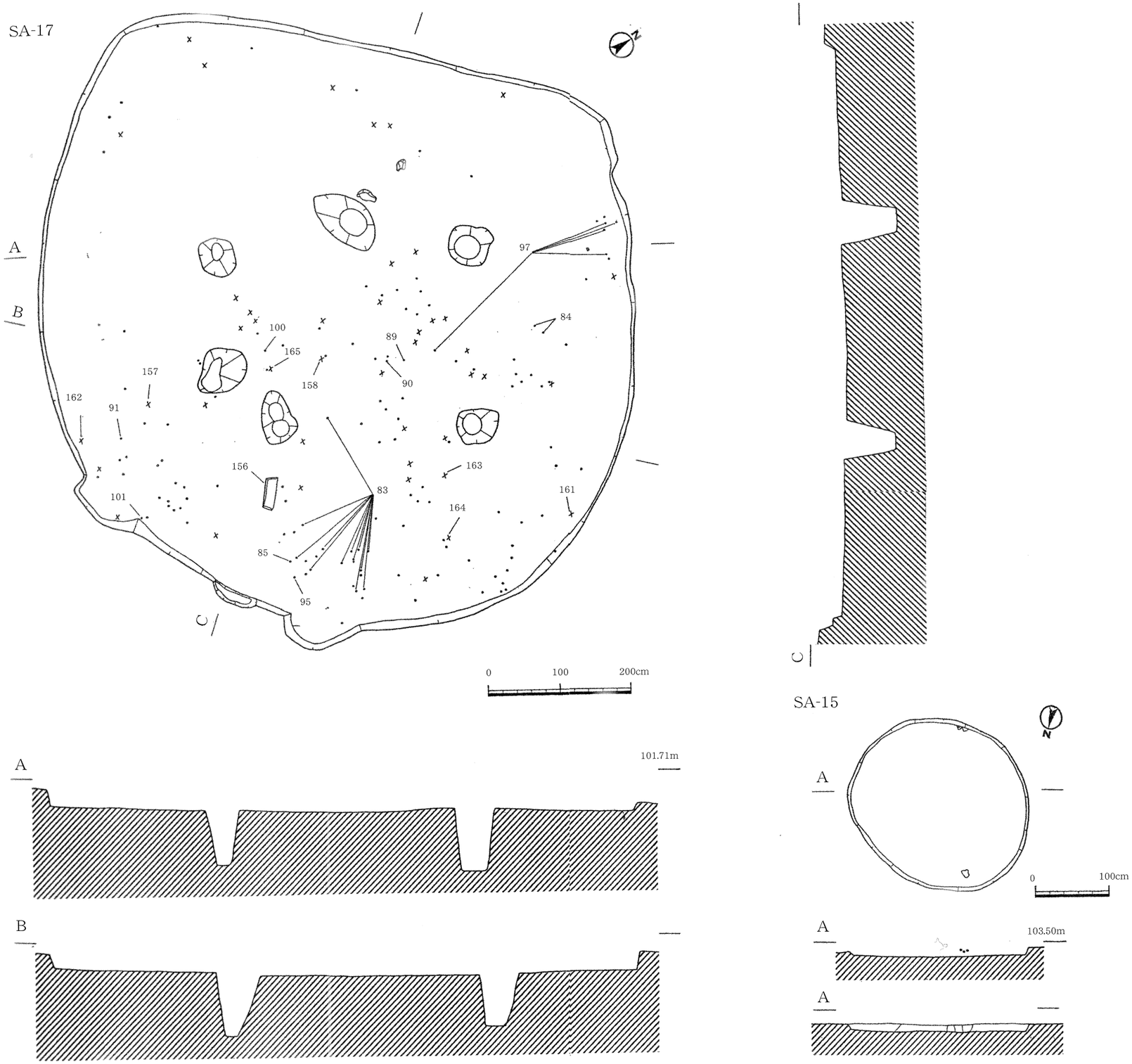
SA-20



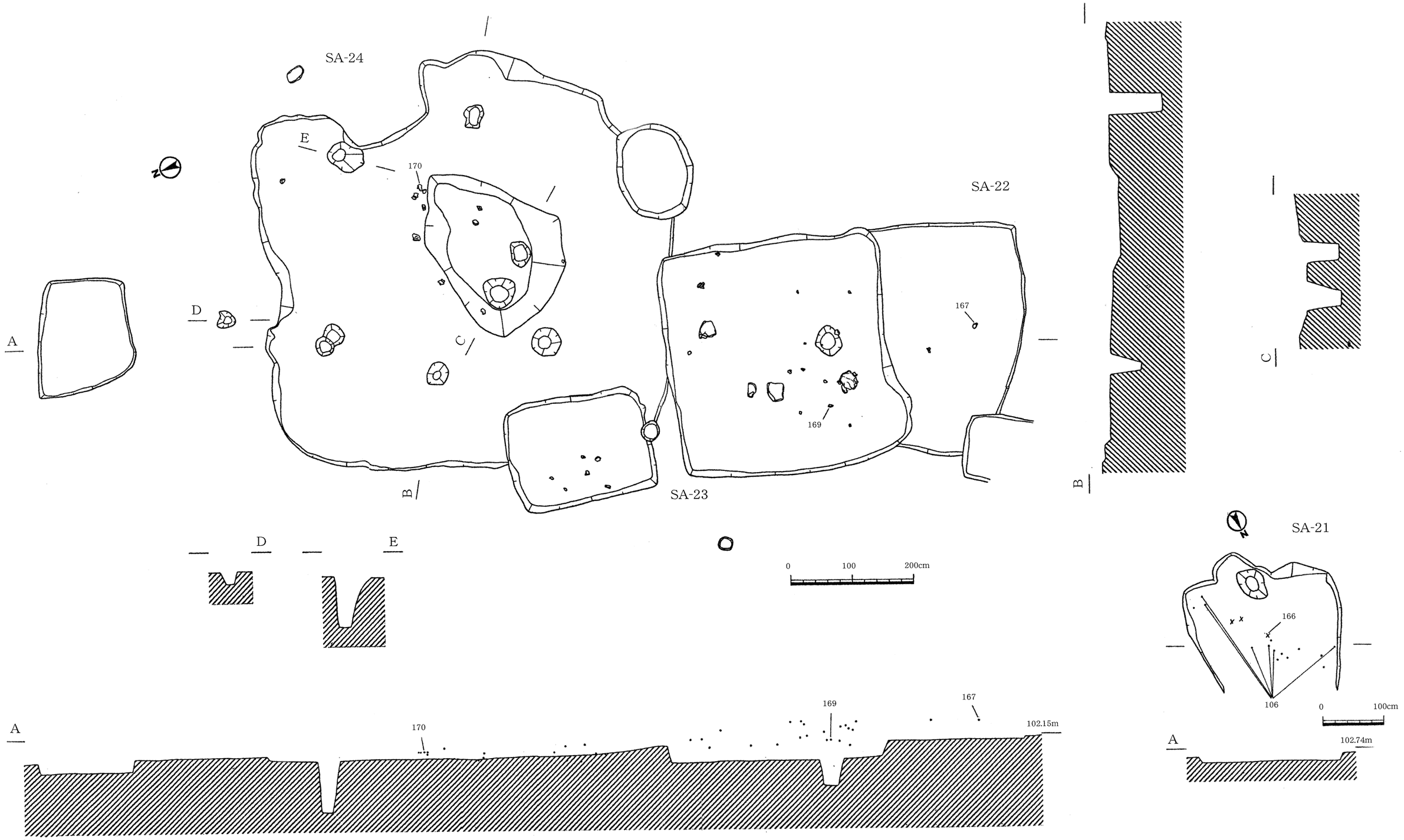
第23図　竪穴住居実測図



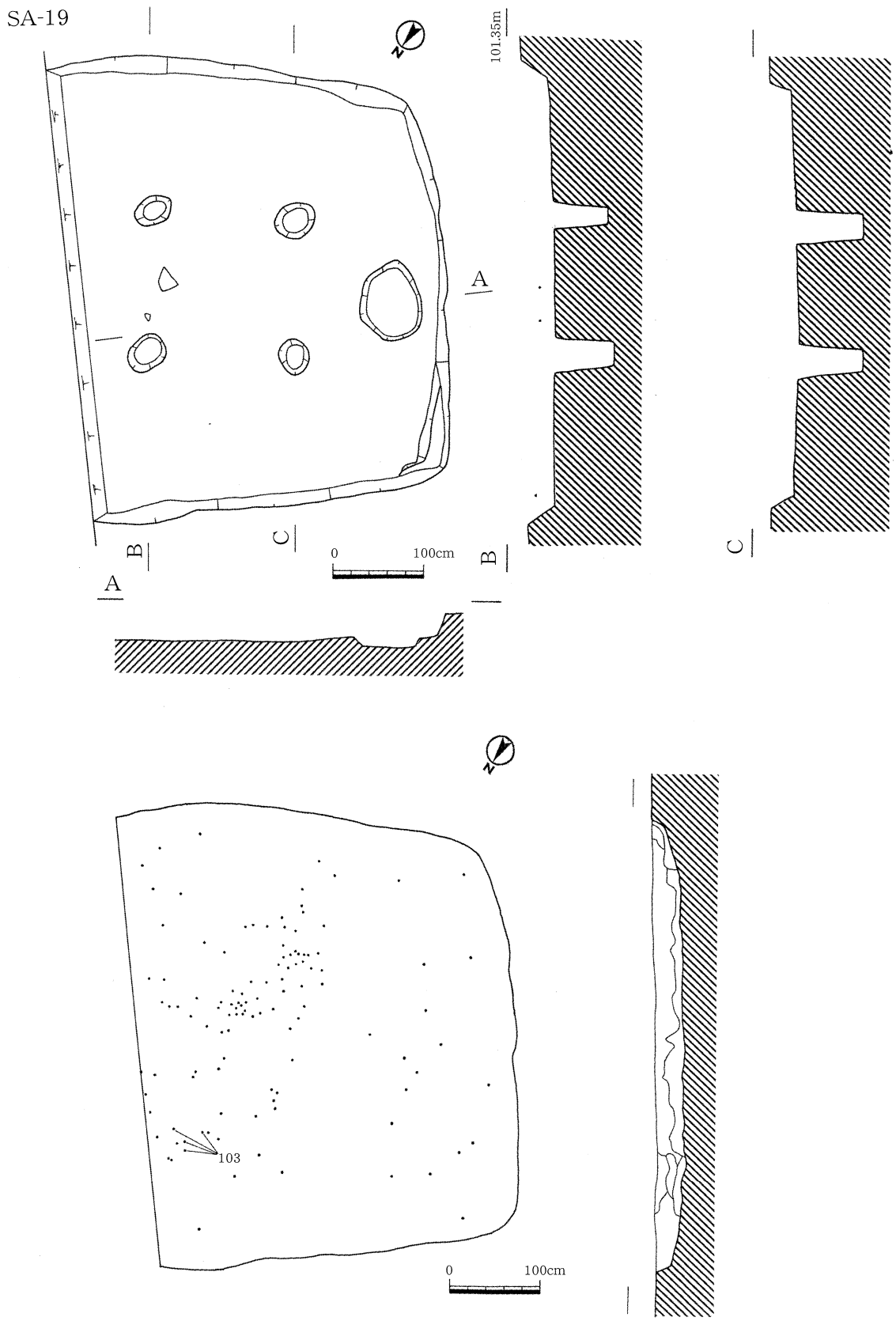
第24図　竪穴住居実測図



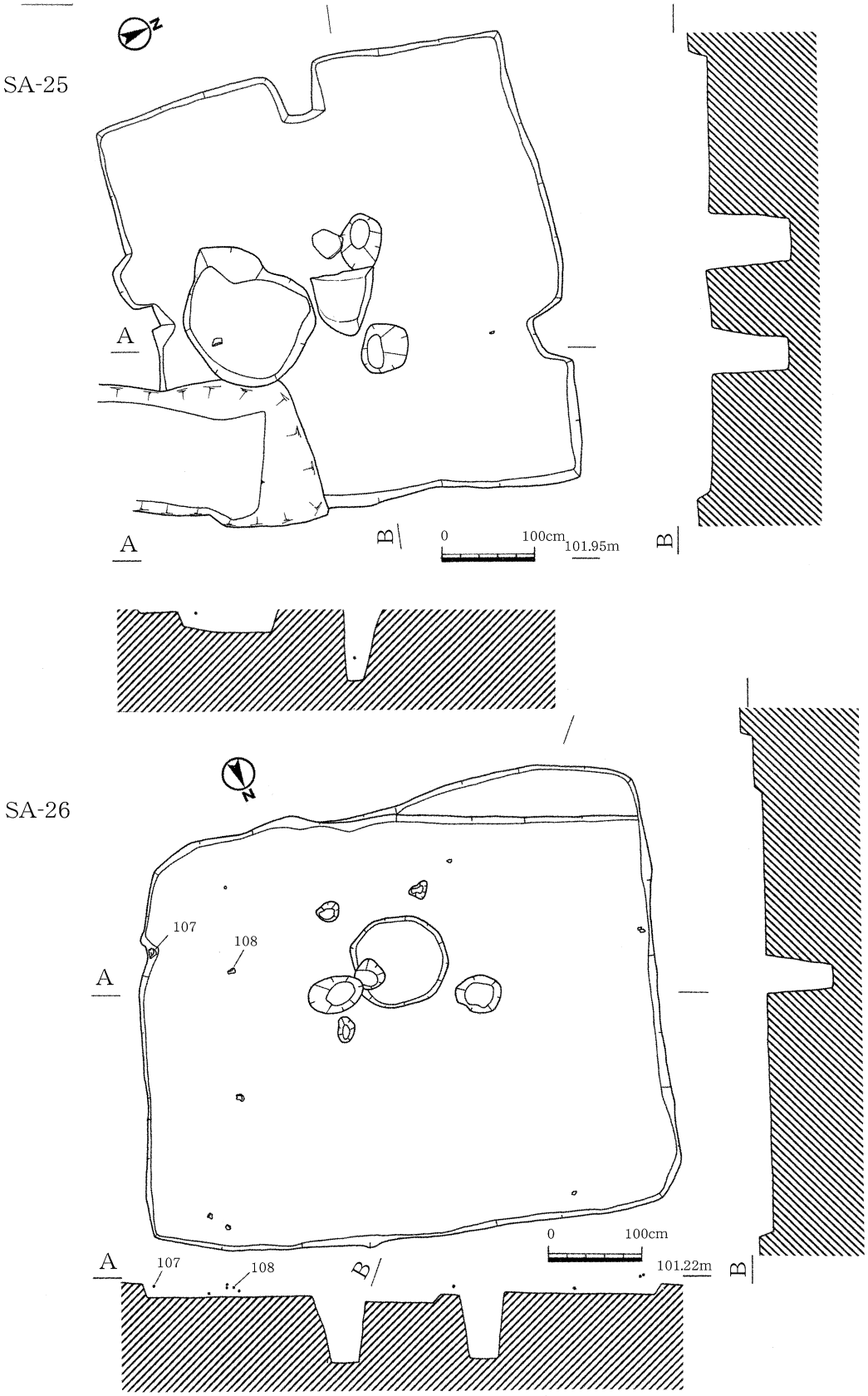
第25図　竪穴住居実測図



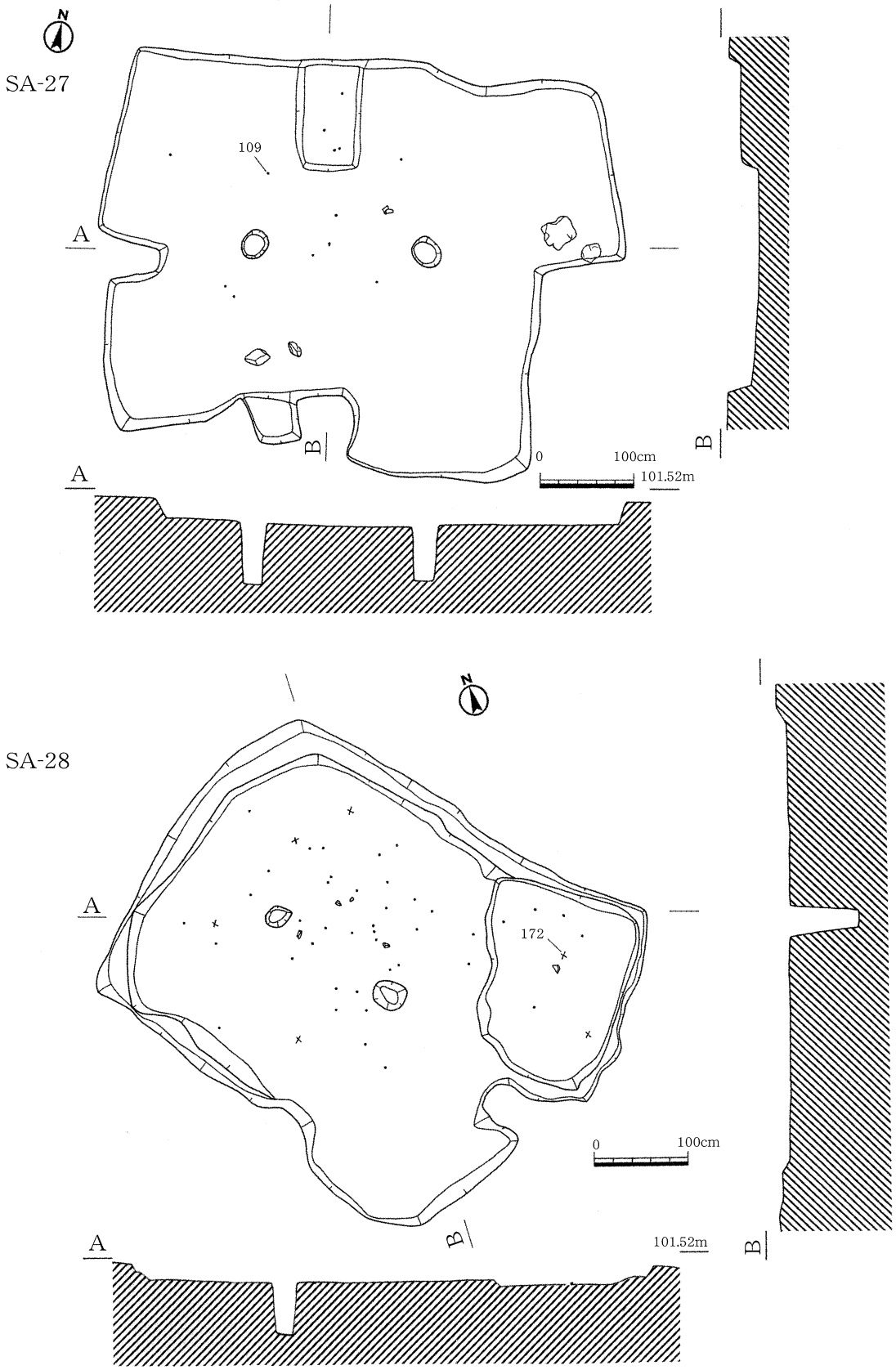
第26図　竪穴住居実測図



第27図　竪穴住居実測図

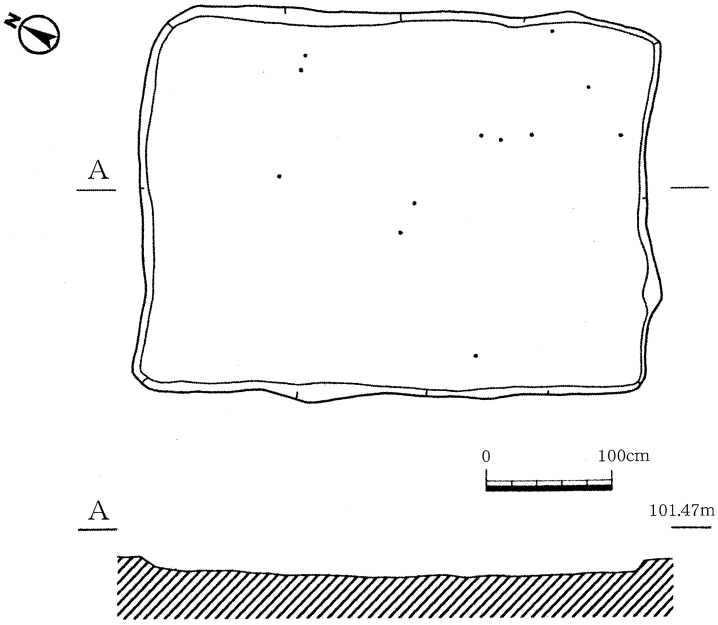


第28図　竪穴住居実測図

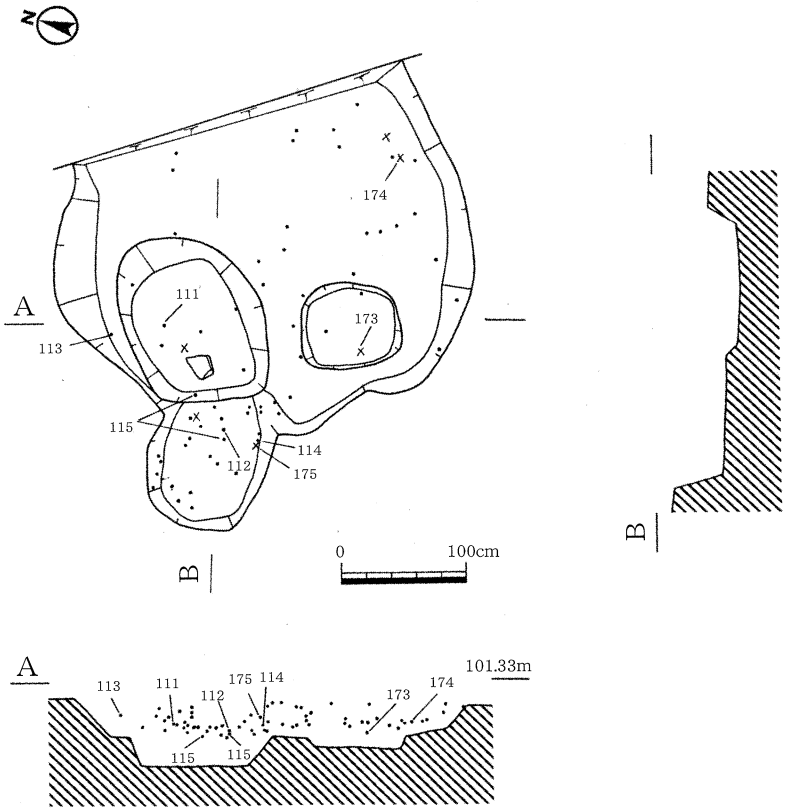


第29図　竪穴住居実測図

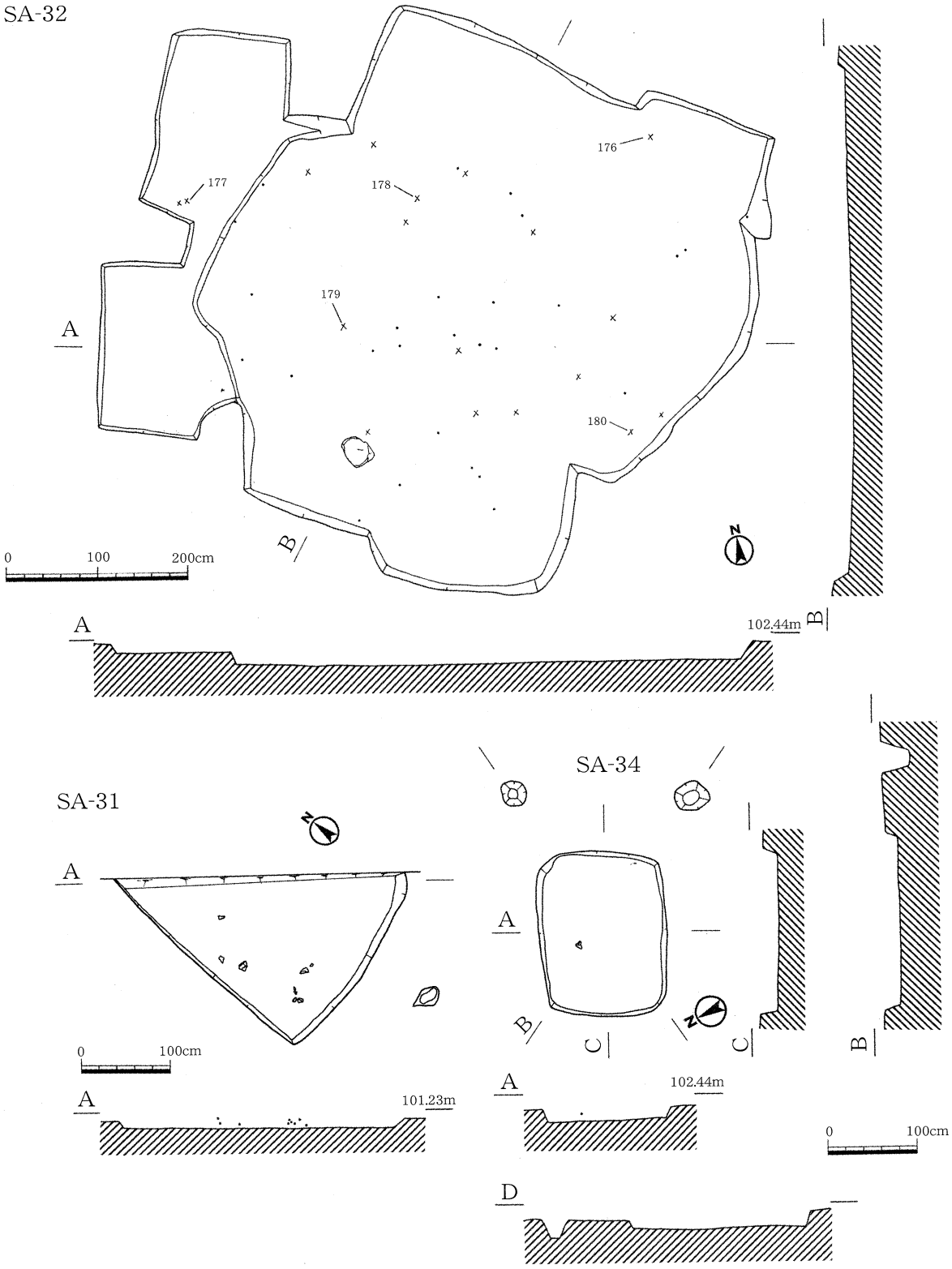
SA-29



SA-30



第30図　竪穴住居実測図



第31図　竪穴住居実測図